

盛岡地区
救急医療体制
のあゆみ

2021

盛 岡 市
盛 岡 市 医 師 会
盛岡地区二次救急医療対策委員会

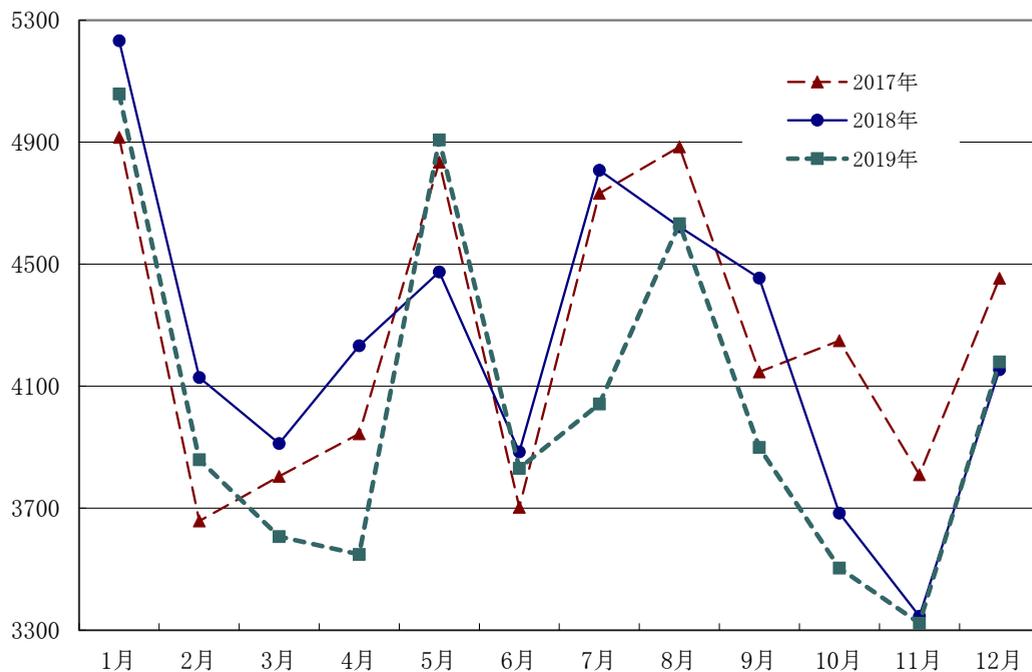
令和2年発行の「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 2020」におきまして、岩手医科大学附属病院の患者数データに誤りがございましたので、訂正いたします。

【訂正資料】 「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 2020」(P91)

表6 病院別・月別二次救急患者年間総数

病院名	年月												合計 (名)	月平均	比率 (%)
	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
中央病院	1,679	1,328	1,330	1,249	1,522	1,394	1,411	1,568	1,541	1,510	1,446	1,607	17,585	1,465	36.3
日赤病院	592	434	357	424	528	481	527	529	552	409	375	559	5,767	481	11.9
市立病院	104	71	77	82	104	73	117	155	181	197	216	282	1,659	138	3.4
遠山病院	63	50	12	9	8	5	8	9	11	5	10	8	198	17	0.4
八角病院	298	202	162	168	255	155	180	255	183	170	168	240	2,436	203	5.0
岩手医大	1,834	1,361	1,381	1,332	1,703	1,453	1,497	1,726	878	827	806	838	15,636	1,303	32.3
高松病院	14	12	10	20	37	6	17	10	6	15	8	5	160	13	0.3
栃内病院	42	23	25	27	138	31	23	30	84	34	33	47	537	45	1.1
つなぎ温泉病院	41	46	21	32	80	28	39	58	31	27	34	57	494	41	1.0
友愛病院	115	55	39	53	93	63	76	75	75	61	66	82	853	71	1.8
川久保病院	201	225	146	96	368	78	93	150	275	180	100	377	2,289	191	4.7
盛岡医療センター	75	52	47	57	72	64	54	68	82	69	61	78	779	65	1.6
合計	5,058	3,859	3,607	3,549	4,908	3,831	4,042	4,633	3,899	3,504	3,323	4,180	48,393	4,033	100

図2 二次救急病院来院患者総数月別分布



【訂正資料】 「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 2020」 (P92)

表7 二次救急病院における来院患者の実態（年間総数）

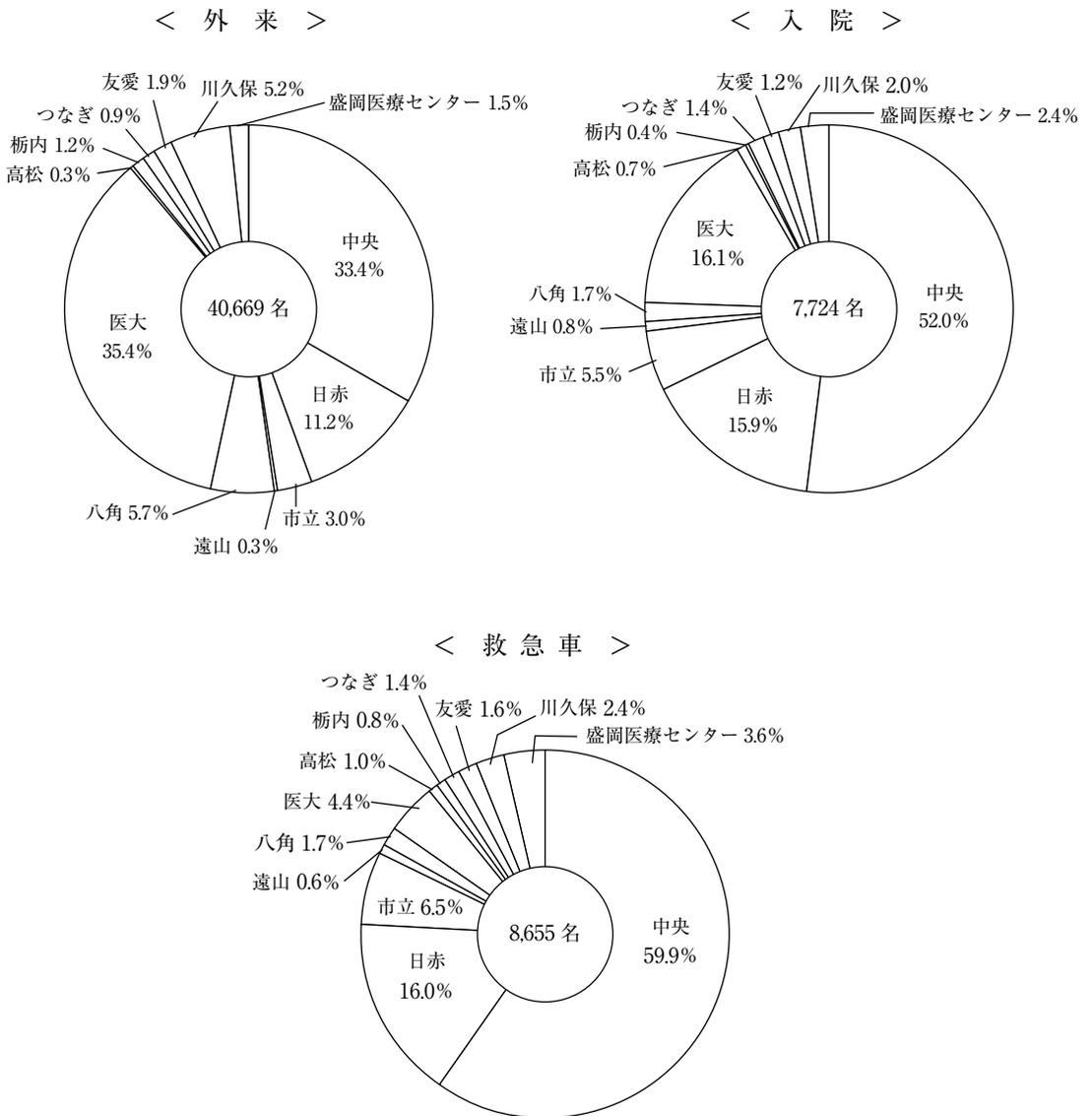
2019年1月 ～12月	外 来		入 院		うち救急車搬入		総 数
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	
中 央 病 院	13,571 ^名	33.4 [%]	4,014 ^名	52.0 [%]	5,182 ^名	59.9 [%]	17,585 ^名
日 赤 病 院	4,540	11.2	1,227	15.9	1,389	16.0	5,767
市 立 病 院	1,236	3.0	423	5.5	563	6.5	1,659
遠 山 病 院	139	0.3	59	0.8	55	0.6	198
八 角 病 院	2,306	5.7	130	1.7	146	1.7	2,436
岩 手 医 大	14,394	35.4	1,242	16.1	384	4.4	15,636
高 松 病 院	108	0.3	52	0.7	90	1.0	160
栃 内 病 院	505	1.2	32	0.4	70	0.8	537
つなぎ温泉病院	384	0.9	110	1.4	123	1.4	494
友 愛 病 院	760	1.9	93	1.2	141	1.6	853
川 久 保 病 院	2,133	5.2	156	2.0	204	2.4	2,289
盛岡医療センター	593	1.5	186	2.4	308	3.6	779
合 計	40,669	100	7,724	100	8,655	100	48,393

表8 二次救急病院における来院患者の実態（月平均）

2019年1月 ～12月	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	救 急 車 搬 入 患 者 数	総 計
中 央 病 院	1,131 ^名	335 ^名	432 ^名	1,465 ^名
日 赤 病 院	378	102	116	481
市 立 病 院	103	35	47	138
遠 山 病 院	12	5	5	17
八 角 病 院	192	11	12	203
岩 手 医 大	1,200	104	32	1,303
高 松 病 院	9	4	8	13
栃 内 病 院	42	3	6	45
つなぎ温泉病院	32	9	10	41
友 愛 病 院	63	8	12	71
川 久 保 病 院	178	13	17	191
盛岡医療センター	49	16	26	65
合 計	3,389	644	721	4,033

【訂正資料】 「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 2020」 (P93)

図3 二次救急病院における来院患者の外来・入院・救急車搬入（表7参照）



【訂正資料】 「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 2020」 (P122)

表 24 小児救急患者病院別合計表 (輪番日)

平成 31 年 1 月～令和元年 12 月

病 院	外 来		入 院		総 数			
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち救急車搬入患者数	比 率
中 央 病 院	1,959	41.6	378	55.3	2,337	43.4	1249	48.4
日 赤 病 院	386	8.2	65	9.5	451	8.4	48	9.3
川 久 保 病 院	449	9.5	7	1.0	456	8.5	43	8.4
岩 手 医 大	1,747	37.1	206	30.1	1,953	36.2	164	31.9
もりおかこども病院	133	2.8	13	1.9	146	2.7	4	0.8
国立盛岡医療センター	33	0.7	15	2.2	48	0.9	6	1.2
合 計	4,707	100	684	100	5,391	100	514	100

表 25 1 コマあたりの病院別小児救急患者数 (輪番日)

平成 31 年 1 月～令和元年 12 月

病 院	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	合 計	
			患者数	うち救急車搬入患者数
中 央 病 院	10.58	2.02	12.60	1.34
日 赤 病 院	6.76	1.24	8.00	0.91
川 久 保 病 院	10.87	0.19	11.06	1.04
岩 手 医 大	9.25	1.08	10.34	0.86
もりおかこども病院	11.61	1.19	12.81	0.09
国立盛岡医療センター	3.67	1.67	5.33	0.17
平 均	9.60	1.39	11.00	1.05

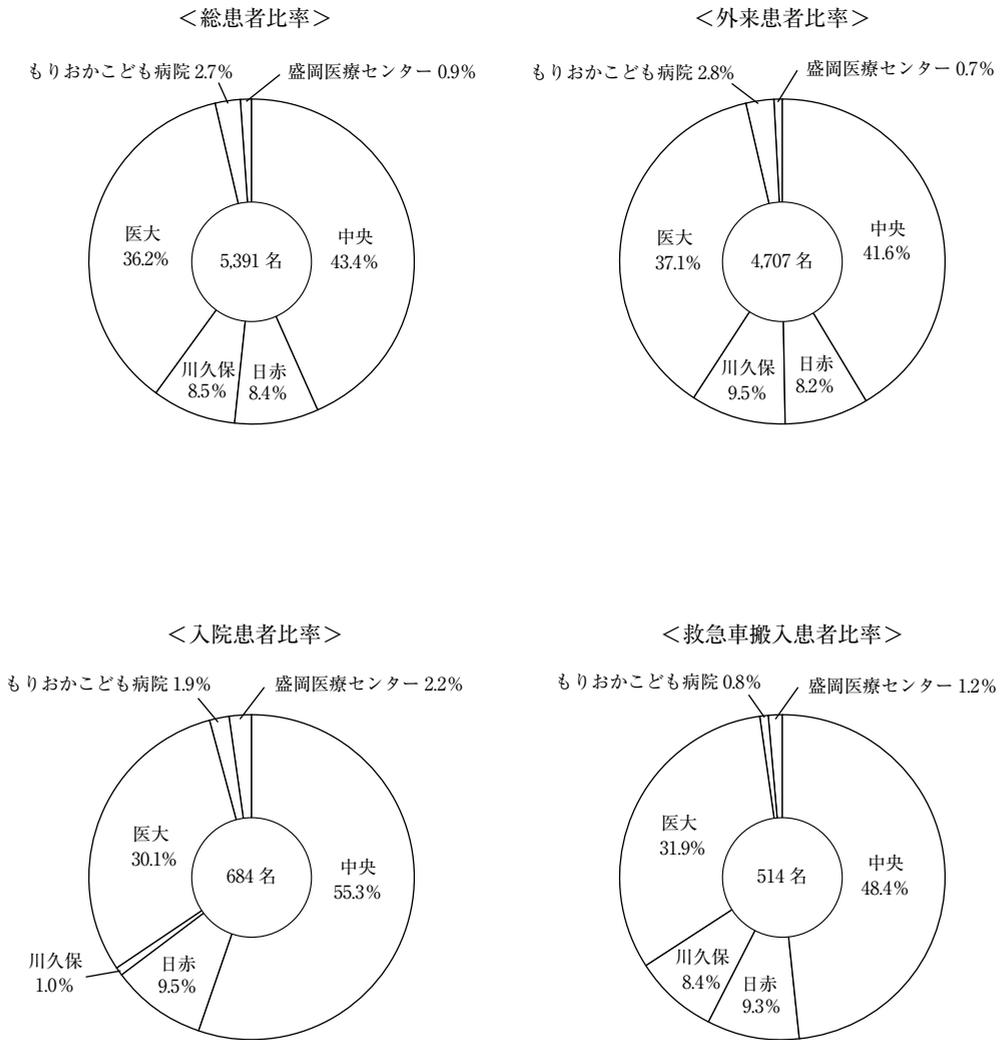
※もりおかこども病院、川久保病院は休日救急当番医の来院患者数も含む。

※もりおかこども病院は平成 31 年 4 月より診療所化のため脱退

※国立盛岡医療センターは平成 14 年 9 月より休止していたが令和元年 10 月より再開

【訂正資料】 「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 2020」 (P123)

図 21 小児救急病院別患者比率（輪番日）



【訂正資料】 「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 2020」 (P124)

表 26 小児救急患者病院別合計表（輪番日以外）

平成 31 年 1 月～令和元年 12 月

病 院	外 来		入 院		総 数			
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち救急車搬入患者数	比 率
中 央 病 院	186	8.3	45	19.1	231	9.3	18	13.0
日 赤 病 院	105	4.7	18	7.7	123	5.0	8	5.8
川 久 保 病 院	881	39.3	4	1.7	885	35.7	3	2.2
岩 手 医 大	1,055	47.1	162	68.9	1,217	49.2	104	75.4
もりおかこども病院	0	0	1	0.4	1	0.04	0	0
国立盛岡医療センター	14	0.6	5	2.1	19	0.8	5	3.6
合 計	2,241	100	235	100	2,476	100	138	100

表 27 1 コマあたりの病院別小児救急患者数（輪番日以外）

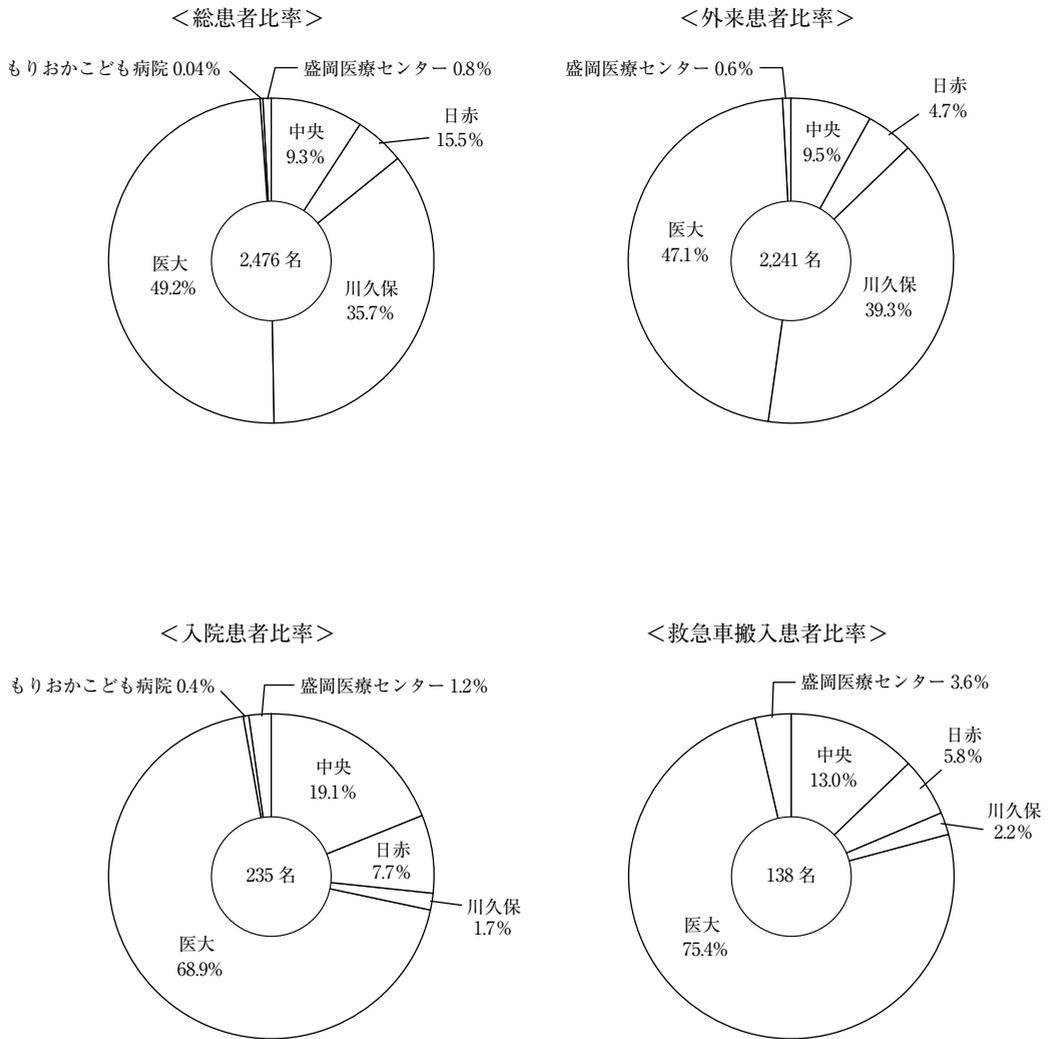
平成 31 年 1 月～令和元年 12 月

病 院	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	合 計	
			患者数	うち救急車搬入患者数
中 央 病 院	0.61	0.15	0.76	0.16
日 赤 病 院	0.24	0.04	0.28	0.02
川 久 保 病 院	1.97	0.01	1.98	0.01
岩 手 医 大	3.54	0.53	4.07	0.34
もりおかこども病院	0.00	0.01	0.01	0.00
国立盛岡医療センター	0.00	0.04	0.04	0.04
平 均	1.08	0.11	1.19	0.07

※もりおかこども病院、川久保病院は休日救急当番医の来院患者数も含む。

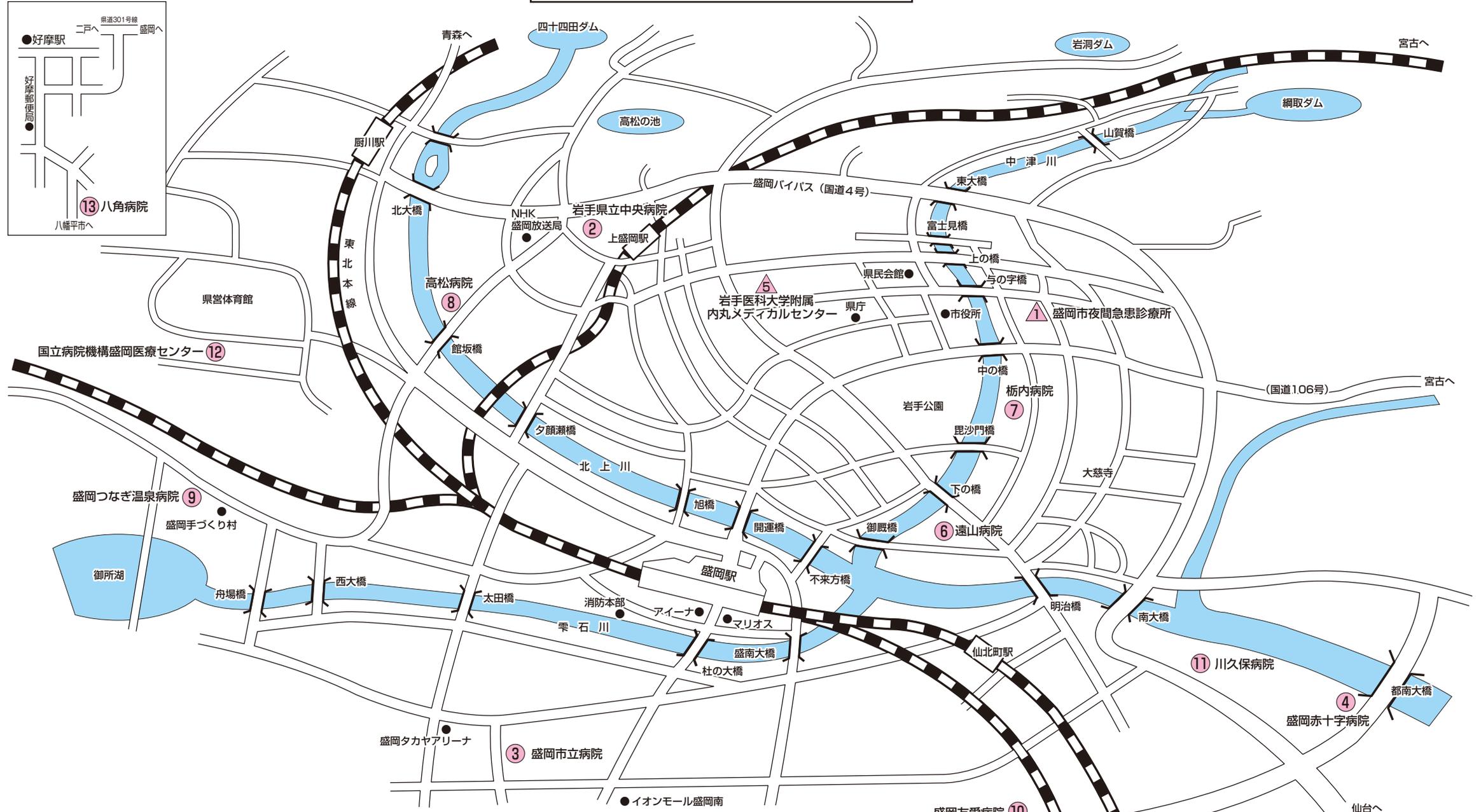
【訂正資料】 「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 2020」 (P125)

図 22 小児救急病院別患者比率（輪番日以外）



盛岡地区救急医療施設配置図

(令和2年12月現在)

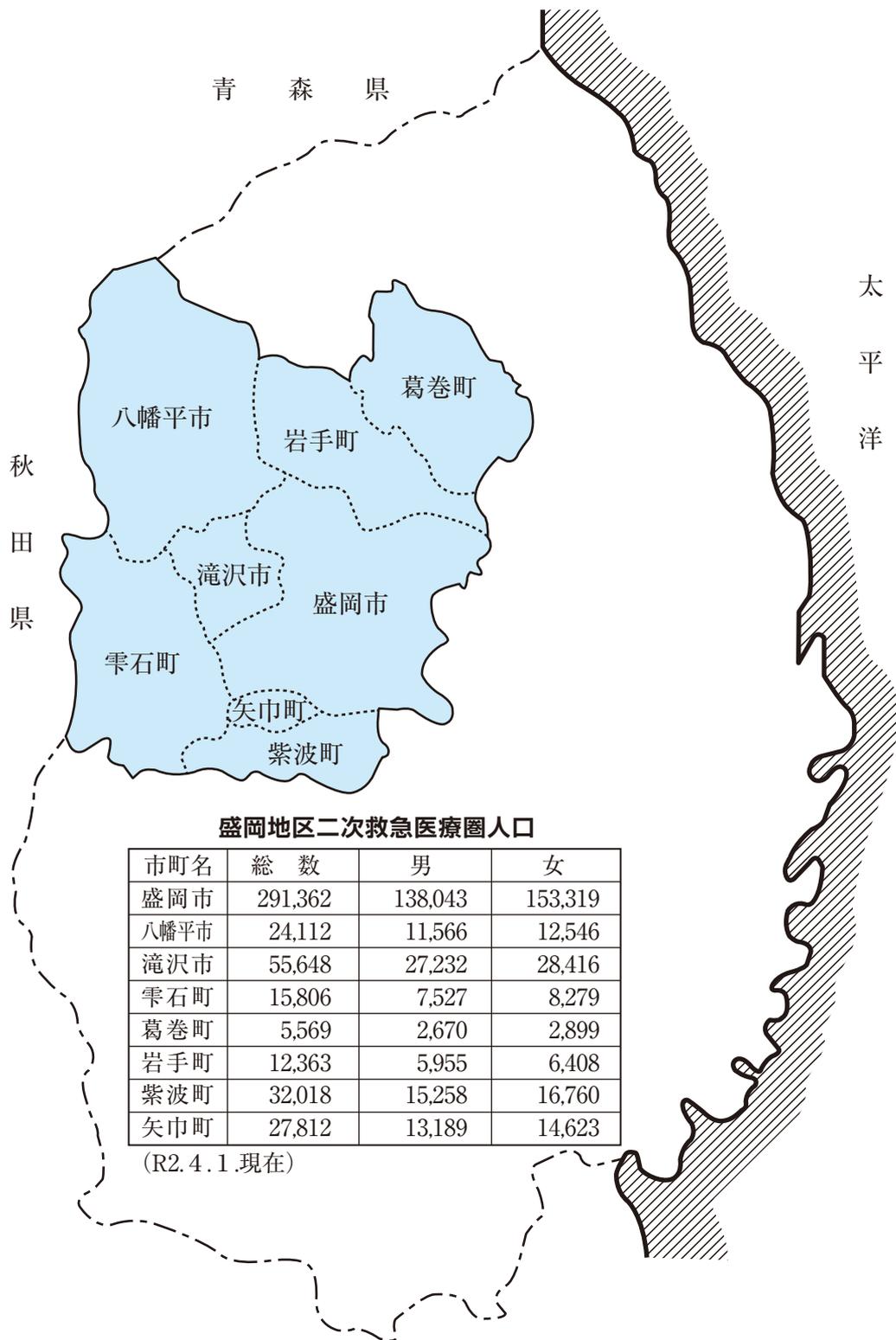


△1—盛岡市夜間急患診療所 神明町3-29 TEL 654-1080	⑨—盛岡つなぎ温泉病院 繫字尾入野64-9 TEL 689-2101
②—岩手県立中央病院 上田一丁目4-1 TEL 653-1151	⑩—盛岡友愛病院 永井12-10 TEL 638-2222
③—盛岡市立病院 本宮五丁目15-1 TEL 635-0101	⑪—川久保病院 津志田26-30-1 TEL 635-1305
④—盛岡赤十字病院 三本柳6-1-1 TEL 637-3111	⑫—国立病院機構盛岡医療センター 青山一丁目25-1 TEL 647-2195
△5—岩手医科大学附属内丸メディカルセンター 内丸19-1 TEL 613-6111	⑬—八角病院 好摩字夏間木70-190 TEL 682-0201
⑥—遠山病院 下ノ橋町6-14 TEL 651-2111	⑭—岩手医科大学附属病院 岩手県高度救命救急センター 矢巾町医大通二丁目1-1 TEL 613-7111
⑦—栃内病院 肴町2-28 TEL 623-1316	
⑧—高松病院 館向町4-8 TEL 624-2250	



盛岡地区二次救急医療圏

(3市5町)



盛岡地区二次救急医療圏人口

市町名	総数	男	女
盛岡市	291,362	138,043	153,319
八幡平市	24,112	11,566	12,546
滝沢市	55,648	27,232	28,416
雫石町	15,806	7,527	8,279
葛巻町	5,569	2,670	2,899
岩手町	12,363	5,955	6,408
紫波町	32,018	15,258	16,760
矢巾町	27,812	13,189	14,623

(R2.4.1.現在)

宮城県

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ」2021年版

目次	
序	盛岡市医師会会長
	盛岡地区二次救急医療対策委員会委員長 吉田 耕太郎……………6
挨拶	盛岡地区広域消防組合 消防長 藤澤 厚志……………7
I	盛岡市夜間急患診療所 44 年目のあゆみ …………… 8
1.	実態報告…………… 8
2.	経過報告・決算・予算…………… 12
3.	診療所日誌から…………… 13
4.	診療所の現状…………… 18
①	出勤医名簿…………… 18
②	役職員名簿…………… 22
5.	薬品選定会議・運営協議会…………… 23
	令和元年度第 1 回盛岡市夜間急患診療所運営協議会…………… 23
6.	従事者打合せ会
	令和 2 年度第 1 回盛岡市夜間急患診療所従事者打合せ会…………… 27
	令和 2 年度第 2 回盛岡市夜間急患診療所従事者打合せ会…………… 29
II	岩手県高度救命救急センター報告…………… 31
1.	疾病傷別患者数（令和 2 年）…………… 32
2.	来院時間帯別入院患者数…………… 33
3.	地域別入院患者数…………… 33
4.	搬入先・搬入方法別入院患者数…………… 34
5.	主な手術件数および内視鏡的治療件数…………… 34
III	お盆及び年末年始の救急医療
1.	令和 2 年度お盆休み期間中の外来患者実態調査報告…………… 35
2.	令和 2 年年末年始外来患者実態調査報告…………… 41
IV	盛岡地区二次救急医療体制 41 年目のあゆみ …………… 47
1.	実態報告…………… 47
2.	経過報告…………… 95
3.	盛岡地区二次救急医療対策委員会…………… 97
4.	盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会…………… 105
5.	令和 2 年度盛岡地区二次救急医療関係市町会議（令和 2 年 8 月 4 日付書面開催）… 107

6. 盛岡市医師会・盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会	108
7. 岩手県小児救急電話相談事業（令和2年1月から令和2年12月までのまとめ）	113
8. 新型コロナウイルス感染症に関する院内感染対策研修会	119
V 救急医療年譜	121
VI 規程・協定書及び設置要項等資料	124
1. 盛岡市夜間急患診療所運営協議会会則	124
2. 災害時の医療救護活動に関する協定書	125
① 岩手県と岩手県医師会との協定書	126
② 岩手県医師会と盛岡市医師会との協定書	128
③ 盛岡市と盛岡市医師会との協定書	130
3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会設置要項	132
VII 編集後記	134



序 「盛岡地区救急医療体制のあゆみ」 2021 の発行にあたって

盛岡市医師会会長
盛岡地区二次救急医療対策委員会 委員長

吉 田 耕太郎

「盛岡地区救急医療体制あゆみ 2021」の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

盛岡地区救急医療体制は昭和 51 年に「夜間急患診療所」が開設、昭和 54 年に「盛岡地区二次救急医療体制」の運用開始、昭和 55 年に「高次救急センター」が開設され平成 24 年からはドクターヘリの運用が開始されました。これらの体制構築に尽力された多くの方々と現在まで運用に携わっていらっしゃる全ての関係者に心から感謝致します。また、一昨年の岩手医科大学病院の矢巾移転に伴う救急体制の調整にも皆様方の御尽力を頂き、大きな支障もなく運営出来ている事に改めて連携の重要性を再認識した所です。

東日本大震災・津波から 10 年が経ちましたが、震災後も毎年の様に全国で多くの災害が起こっており救急医療体制の更なる充実が求められています。また、昨年からの世界的感染拡大、日本でも全国的に蔓延している新型コロナウイルス感染症も終息の目処が立っておらず医療、救急搬送の現場でも平時より感染対策等の徹底した対応が必要とされています。

岩手県は昨年 6 月までは発症が確認されておらず、全国から希少県と評価されていましたが 7 月の第 1 例目の発症から徐々に増え 11 月のクラスター発症後は予断を許さない状況が続いています。昨年からは、このウイルスの影響もあってか患者さんの受診動向が変化し、救急受診者数、救急車搬送数は減少していましたが、ウイルスに対する感染対策を構築した上での現場対応は決して楽にはなっていません。ワクチン接種も高齢者から始まり順調に進んできたかに思われましたが、ワクチン不足等で希望者が全て接種できるまでの期間が不透明であり、当分の間は特に救急搬送に関しては搬送される方のウイルスに関しての情報共有が重要になりますので、今まで以上の連携構築に努力する所存です。

今後、新型コロナウイルス感染症が終息しても ACP（アドバンス・ケア・プランニング）、DNAR（Do Not Attempt Resuscitation）に関連した救急搬送体制の問題にも取り組んで行かなければなりませんので、関係各位のより一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。



「盛岡地区救急医療体制 のあゆみ—2021—」に寄せて

盛岡地区広域消防組合

消防長 藤澤 厚志

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ—2021—」の発刊に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

日頃から当消防組合の救急業務の円滑な推進につきまして、格別のご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

盛岡地区の救急医療体制につきましては、盛岡市医師会、岩手西北医師会、紫波郡医師会及び関係医療機関のご尽力により、初期救急医療、二次救急医療及び三次救急医療の体制が確立されるとともに、二次救急病院及び小児救急病院の輪番体制が定着し、救急医療が円滑に行われておりますことに深く感謝を申し上げます。

また、昨年から、全国的に新型コロナウイルス感染症が拡大し、一部地域では緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されるなど、依然として不透明な社会情勢のなか、日頃の業務にも増して新型コロナウイルス感染症患者への対応やワクチン接種業務等の対応に当たられておりますことに敬意を表するものであります。

当消防組合におきましては、昨年2月26日から本年6月21日までの間に、134人の新型コロナウイルス感染症疑い及び陽性患者の救急搬送を行いました。コロナ禍における救急業務を適切に遂行するため、救急隊員の感染防止対策には特にも重点を置き、全ての救急事案にN95マスク、感染防止衣を上下装着して対応に当たっているほか、保健所からの要請により、新型コロナウイルス感染症患者の「移送」を実施する場合には、国の臨時交付金により導入したアイソレーター装置を使用するなど、細心の注意を払い、対応に当たっているところであります。

全国の昨年の救急出動件数は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う衛生意識の向上や不要不急の外出自粛といった国民の行動変容により一様に減少し、当消防組合においても前年に比べて1,464件減の16,685件となったところですが、新型コロナウイルス感染症を背景とした救急車の現場滞在時間の延長や医療機関間問合せ回数が増加傾向となっております。

当消防組合では、更なる救命率の向上を図るため、昨年度、消防機関と医療機関の救急業務の高度化についての協議の場である「盛岡地域メディカルコントロール協議会」でご協議いただき、特定行為プロトコールの一部変更を行いました。

今後におきましても、新型コロナウイルス感染症への対応はもとより、救急隊員の教育訓練の充実、救急救命士及び指導救命士の養成と円滑な運用、岩手県ドクターヘリとの連携による救急体制の強化など、関係機関のご理解とご協力をいただきながら救急業務の高度化を積極的に推進し、地域住民の信頼と負託に応えるよう一層努力して参る所存であります。

結びに、プレホスピタルケアの充実と社会的要請に応えるため、引き続き、救急隊員に対するより一層のご指導とご鞭撻を賜りますとともに、盛岡市医師会のますますのご発展と皆様方の更なるご活躍を祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

I 盛岡市夜間急患診療所 44年目のあゆみ

1. 実態報告

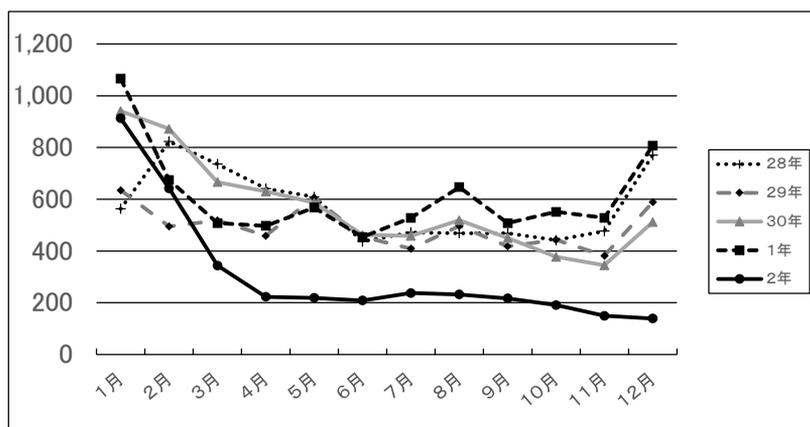
盛岡市医師会、盛岡市夜間急患診療所運営協議会委員

吉田 耕太郎 ・ 金子 博 純 ・ 本 間 博
金 濱 誠 己 ・ 久保田 公 宜 ・ 小 林 有 一
三 浦 義 孝 ・ 吉 田 研 一

盛岡市、盛岡市夜間急患診療所運営協議会事務局 ※ R2.12.31 現在

図1 過去5年間の月別患者分布 (人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	一日平均
28年	563	823	736	641	609	437	472	469	468	442	477	771	6,908	18.9
29年	635	495	518	459	606	455	409	497	418	443	382	589	5,906	16.2
30年	941	872	666	630	587	462	458	519	450	377	345	512	6,819	18.7
1年	1,066	675	508	497	568	454	528	647	508	551	528	807	7,337	20.1
2年	913	642	344	223	219	209	238	232	217	191	150	139	3,717	10.2



表(1) 患者総数及び科別実績 (人)

区分	月	2年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	合計	比率 (%)	前年実績	増減
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
患者総数	患者総数	913	642	344	223	219	209	238	232	217	190	150	139	3,716	100.0	7,337	△3,621
	(一日患者数)	(29.5)	(22.9)	(11.1)	(7.4)	(7.1)	(7.0)	(7.7)	(7.5)	(7.2)	(6.1)	(5.0)	(4.5)	(10.2)		(20.1)	(△9.9)
科	内科	459	228	130	90	99	94	88	103	105	62	54	53	1,565	42.1	2,840	△1,275
		(148)	(81)	(42)	(30)	(32)	(31)	(28)	(33)	(35)	(20)	(18)	(17)	(43)		(78)	(△35)
別	小児科	454	414	214	133	120	115	150	129	112	128	96	86	2,151	57.9	4,497	△2,346
		(146)	(148)	(69)	(44)	(39)	(38)	(48)	(42)	(37)	(41)	(32)	(28)	(59)		(123)	(△64)

表(2) 年齢別患者分布

(人)

年齢	月	2年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
	1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
年 齢 別	0	32	22	16	14	16	10	20	8	16	9	10	12	185	5.0	450	△ 265
	1～5	228	177	106	72	63	57	85	62	42	66	52	52	1,062	28.6	2,459	△ 1,397
	6～12	147	180	72	41	30	37	35	48	47	47	29	17	730	19.6	1,316	△ 586
	13～15	51	35	20	11	12	12	10	15	8	7	6	5	192	5.2	302	△ 110
	16～24	99	50	23	15	14	17	28	13	17	12	11	7	306	8.2	659	△ 353
	25～34	100	53	37	22	24	29	12	23	25	14	10	14	363	9.8	719	△ 356
	35～44	108	58	28	24	15	19	16	22	20	12	9	11	342	9.2	590	△ 248
	45～54	84	28	15	7	18	11	8	16	17	6	11	7	228	6.1	367	△ 139
	55～64	36	16	13	5	6	6	7	5	11	3	4	5	117	3.1	224	△ 107
	65～74	18	10	7	9	8	5	9	11	7	3	5	5	97	2.6	138	△ 41
75～	10	13	7	3	13	6	8	9	7	12	3	4	95	2.6	113	△ 18	
計														3,717	100.0	7,337	△ 3,620

・年齢別では、1～5歳児が最も多く、全体の28.6%を占めている。

表(3) 地域別患者分布

(人)

地域	月	2年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
	1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
地 域 別	盛岡市	705	482	279	180	173	149	184	176	169	152	122	113	2,884	77.6	5,464	△ 2,580
	雫石町	13	9	6	0	6	1	4	1	2	4	1	1	48	1.3	111	△ 63
	葛巻町	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.1	2	0
	岩手町	2	6	0	2	1	3	1	1	2	3	0	0	21	0.6	32	△ 11
	八幡平市	5	9	2	1	1	2	7	3	4	2	0	1	37	1.0	74	△ 37
	滝沢市	88	71	43	18	19	30	22	23	22	12	15	12	375	10.1	708	△ 333
	紫波町	23	13	5	5	5	7	6	12	7	5	3	4	95	2.6	279	△ 184
	矢巾町	29	24	5	13	11	10	9	4	8	9	4	5	131	3.5	309	△ 178
	その他の県内	23	13	1	3	2	2	2	5	3	2	2	0	58	1.6	128	△ 70
	県外	24	14	3	1	1	5	3	7	0	2	3	3	66	1.8	230	△ 164
計														3,717	100.0	7,337	△ 3,620

・地域別で1番多いのは盛岡市の2,884人(全体比77.6%)。前年より2,580人減。

・盛岡市に次いで2番目に多いのは滝沢市の375人(同10.1%)、3番目が矢巾町の131人(3.5%)。

表(4) 曜日別患者分布

(人)

月		2年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
曜日別	1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
	月	96	82	45	18	37	31	29	31	26	22	29	17	463	12.5	927	△ 464
	火	83	64	43	29	24	40	27	28	33	20	18	22	431	11.6	823	△ 392
	水	160	59	42	45	19	29	35	36	39	26	20	20	530	14.3	954	△ 424
	木	127	67	47	33	23	22	37	30	20	19	22	23	470	12.6	924	△ 454
	金	106	61	33	24	25	14	32	26	18	33	14	19	405	10.9	764	△ 359
	土	180	170	78	33	48	37	44	37	42	42	19	23	753	20.3	1,574	△ 821
日	161	139	56	41	43	36	34	44	39	29	28	15	665	17.9	1,371	△ 706	
計														3,717	100.0	7,337	△ 3,620

・曜日別では、土・日曜が多くなっており、合わせて約40%を占めている。

表(5) 時間帯別患者分布

(人)

月		2年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
時間帯別	1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
	午後7:00~	437	330	150	108	84	93	90	91	85	80	56	52	1,656	44.6	3,458	△ 1,802
	午後8:00~	207	147	85	54	63	53	68	76	60	51	41	38	943	25.4	1,889	△ 946
	午後9:00~	182	99	66	33	45	39	57	40	40	31	31	29	692	18.6	1,304	△ 612
	午後10:00~	86	65	43	28	27	23	23	25	31	29	22	20	422	11.4	683	△ 261
午後11:00~	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	4	0.1	3	1	
計														3,717	100.0	7,337	△ 3,620

・時間帯別では、午後7:00~9:00までが多く、7割を占めている。

表(6) 時間帯別有救急度患者分布

(人)

月		2年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
時間帯別	1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
	午後7:00~	99	53	29	18	13	17	14	13	10	8	9	7	290	42.8	597	△ 307
	午後8:00~	42	22	22	7	11	13	10	13	9	2	7	13	171	25.3	293	△ 122
	午後9:00~	45	21	15	1	9	12	7	5	8	5	8	6	142	21.0	260	△ 118
	午後10:00~	18	9	3	1	8	4	3	6	6	5	4	6	73	10.8	133	△ 60
午後11:00~	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	1	0	
計														677	100.0	1,284	△ 607

・有救急度患者は患者全体の18.2%を占め、時間帯別では、午後7:00~8:00までが多く、42.8%を占めている。

表(7) その他事項別人数

(人)

月		2年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
事項	1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
	医師指導			1					4	3		8	3	19	0.6	2	17
	看護師等助言	360	289	210	220	223	216	228	334	313	303	284	310	3,290	96.9	3,375	△ 85
	救急車搬入													0	0.0	0	0
二次救急転送	15	13	3	1	11	6	7	6	9	8	5	3	87	2.6	124	△ 37	
計														3,396	100.0	3,501	△ 105

・電話問合に対する看護師等の助言件数は3,290件で前年より85件減少した。

表（８） 転送先二次・三次救急病院別診療科別患者分布（令和２年１月～令和２年１２月）

診療科 救急病院	内科	小児科	外科	耳鼻科	泌尿器科	眼科	産婦人科	歯科	計
岩手県高度救命救急センター									0
岩手県立中央病院	38	21							59
盛岡市立病院	1								1
盛岡赤十字病院		10							10
岩手医科大学附属病院	5	7							12
遠山病院									0
栃内病院									0
高松病院									0
盛岡つなぎ温泉病院									0
友愛病院									0
川久保病院		1							1
盛岡医療センター		6							6
計	44	45	0	0	0	0	0	0	89
比率（％）	49.4	50.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

・内科が約 49%、小児科が約 51%を占めている。

・昨年に引き続き、岩手県立中央病院が岩手医科大学附属病院の転送合計患者数を上回った。

表（９） 転送患者疾患別分類（令和２年１月～令和２年１２月）

疾患名	人	疾患名	人
胃・腸炎（急性・感冒性他）	11	気管支炎（急性・喘息様他）	2
虫垂炎	11	気管支喘息	9
急性腹症	10	上気道炎（急性他）	5
腸重積	1	肺炎	4
腹痛	1	その他呼吸器系	1
便秘	0	インフルエンザ	3
イレウス	3	心臓疾患等循環器系	4
その他消化器系	2	脳血管障害等循環器系	1
脱水症	2	尿管結石等泌尿器系	5
嘔吐	0	その他	11
じんま疹・アナフィラキシー	3	計	89

・消化器系が約 45%、呼吸器系が約 23%を占めている。

2. 経過報告・決算・予算

経過報告

令和2年5月1日	第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会（書面）
令和2年7月14日	第1回盛岡市夜間急患診療所従事者打合せ会
令和2年8月17日	第2回盛岡市夜間急患診療所従事者打合せ会
令和2年9月4日	第2回盛岡市夜間急患診療所運営協議会（書面）
令和3年2月8日	第3回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

予算・決算

歳入

(円)

科目	元年度決算	2年度予算	説明
使用料	83,032,002	83,063,000	診療報酬収入
県補助金	1,130,000	720,000	運営費補助金
雑入	640	1,000	事務手数料等
合計	84,162,642	83,784,000	

歳出

(円)

科目	元年度決算	2年度予算	説明
報酬	49,837,870	11,450,000	管理者、看護師報酬
共済費	816,288	934,000	社会保険料
報償金	86,400	192,000	運営協議会委員謝金
旅費	15,160	256,000	研修会参加旅費、看護師通勤手当（R2）
需用費	8,589,221	8,069,000	消耗品、燃料、食糧、印刷、修繕、医薬材料
役務費	387,304	387,000	医療事故賠償保険、電話料、洗濯代
委託料	8,668,452	52,713,000	医療事務委託料、連絡調整委託料（R1）、診療業務委託料等（R2）
使用料及び賃借料	1,985,310	1,433,000	タクシー使用料（R1）、医事会計システム借上料
備品購入費	2,117,772	0	機械器具購入費
合計	72,503,777	75,434,000	

3. 診療日誌から

内 科

診療日誌

令和2年1月3日（金）M.K

31名でした。

うちインフルエンザ12名

（臨床症状からの診断例も含む）

全てAです

令和2年1月9日（木）K.K

11名 内最後の1名

右胸痛にて、県中に紹介しました。

介助するNrsに「ブラジャーは外すのですか？」と言われましたが、内科の介助でこの様な事は言って欲しくない。

令和2年3月20日（金）T.Y

1. 62才 F 発熱

2. 23才 F 蕁麻疹

休日であるが2名のみ

令和2年3月22日（日）K.M

コロナを想定した問診票や受診後Ptに返す注意事項（何日発熱が続いたら接触センターへ連絡するとか）を書いた書類が必要と思います。

令和2年4月7日（火）Y.E

本日緊急事態宣言が出されました。

本日3名でした。

1名コロナ心配との事でしたから断りました。

令和2年4月9日（木）M.I

本日、患者さんゼロでした。

コロナのせいで患者さん、病院や診療所を訪れるのを怖がっているようです。

今年の初めから新型コロナに関する文献を多数読み勉強しました。

印象的だったのは1) 初期にはコロナと普通の感冒は全く区別できない。2) 一見軽症と思われる患者からも重傷者が出ている。

3) 若年者もかなり死んでいるという点でした。コロナも積極的な初期治療が必要と思います。「37.5℃以上4日間」という線引きには疑問を抱いています。電話再診等の方法を利用して治療介入すべきでしょう。私は通院患者さんに熱が出たらすぐ連絡するよう話しています。電話再診用の詳しい問診票を作り、それを参考にして処方しています。薬を取りに来る時間帯は、他の患者さんと動線がなるべく交わらない時間にし、玄関内の一角にコーナーを設けて薬をお渡しするよう工夫しました。

令和2年4月18日（土）S.T

33才 F 急性上気道炎

4/17夕方から発熱

4/18日中に近医にTELしたが、「発熱患者は当院では診療できない」と言われたとのこと。

令和2年4月20日（月）K.W

1 50才 ♀ 下痢症

2 41才 ♂ 発熱（フィリピン人）…風邪薬処方した。しかし、1月よりは日本から出国していないと…（帰国者、接触者相談センターにTELしたらここをすすめられたとの事で…）

3 28才 ♂ 発熱（インフルB疑い）
接触歴より

令和2年4月21日（火）K.O

- ①膀胱炎 女性
- ②咽頭炎 男性
- ③胸痛（過かんき疑い）男性
- ④インフルエンザB型

長距離トラック運転手で関東、関西への滞在歴があり、N95マスク、ガウン着用し、診察しました。家族歴にflu（+）でしたので、flu迅速検査行いB（+）でした。

令和2年4月29日（水）N.M

夜間診療所の立場上、翌日に受診を薦め、1日分の処方と思います。しかし、コロナ感染を否定できない患者さんが、一般の診療所を次々と受診するのも感染のリスクを高める危険もあります。解熱剤を2～4日渡し、症状が改善しないか憎悪時に接触センターに相談するのも一つの感染拡大予防策になるのではないのでしょうか。

令和2年6月7日（日）S.O

4/1のK Dr.の日記を拝見しました。

私も内丸Mが夜間の認知を上げてもいいかと思っています。（私も最近夜間やっている事を知りました。）

令和2年7月21日（火）K.K

未だに岩手コロナゼロの不思議

令和2年7月29日（水）J.O

- ① 42才F 感染性胃腸炎
以上 1名のみでした。

しかし本日

PM 6:00 新型コロナウイルス感染症岩手県

PM 7:00 で初2人の感染確認のニュース
報道あり

PM 8:00 岩手県と盛岡市の合同記者会見
あり

PM 9:00 宮古市記者会見あり

全国では新たに本日1200人の感染者にていよいよ厳しい状況となって来たようです。

令和2年8月7日（金）N.M

- 1 40歳男性 急性膀胱炎
- 2 21歳男性 急性上気道炎
千葉(7/26)へ行った。発熱なし SpO₂ 98%
咳軽度のみ 接触者センター相談後受診
慎重な経過かんさつ、有事、要相談

令和2年10月1日（木）K.K

本日0でした。

コロナ禍で思う様楽しめず気が付けば今年ももうあと3ヶ月。

ここ数日の気温低下で、松茸がでたらしいとのウワサを聞き、岩泉で手に入れてきてもらいました！帰ったら一本焼きで一杯。

令和2年10月3日（土）K.T

50代 F じんま疹

20代 M 食あたり

50代 F 尿路感染症

小児科のことを書くのもどうかと思いますが、これだけ小児科受診が少ないのは初めてです。やはりコロナ(新型)の影響なのでしょうかね？

令和2年10月16日（金）K.K

*今日はどうやら1名のみか…

受診も自粛か、熱発の問合せも無し。

令和2年12月11日（金）K.N

本日0人でした。

（2回つづけて0人！）

令和2年12月12日（土）M.I

0名でした。

小児科

令和2年1月1日(水) A.N

24名でした。

インフル 6名 でした。

溶連菌 1名 でした。

今年も宜しくお願い致します。

令和2年1月12日(日) Y.K

本日の受診 17名

そのうちインフルエンザA 6名

B 1名

臨床的インフルエンザ 2名

年明けから徐々にインフルエンザが増えてきている印象です。注意が必要ですね。

令和2年1月26日(日) T.Y

新型コロナウイルス肺炎どうなるのでしょうか。オリンピックまでひきずらないでしょうか？

令和2年2月3日(月) Y.K

「タミフルのドライシロップが無い」

何でも薬剤の発注ミス？があったらしく、本日オープン早々タミフルが無いという状況になってしまった。

まだ、インフルエンザの患者さんは現れていないが、このインフルエンザの流行期に薬が無いというのは大変だ。

本日の処方なしで、明日からの内服開始でも大勢に影響はないかもしれないが、本来受けるべき治療を受けることができない状況、治療という恩恵を受けれないのは問題ですね。

スタッフが奔走した結果、1びん確保して大事に至りませんでした。2度と繰り返さないよう対策をよろしくお願いたします。

小児科 11名

インフル検査 2名 結局陽性なしでした。

令和2年2月5日(水) M.K

①Flu (clinical)

②急性咽頭炎

③Flu A

④VRTI

4人でした。

47歳のタイからの旅行客の女性がじんましんで受診され、名前等の聞きとり、通訳をしました。(診察は内科Dr)

英文の間診票がなく、名前や保険証の有無を聞きとるのにも一苦勞でした。英文の間診票、もしくは手続のために聞きとりが必要な項目のまとめ等があれば有用と考えられます。とりいそぎ、今の間診票のところに英文で追記したものを作成しています。

令和2年3月4日(水) Y.K

小児科5名

インフルエンザB 2名

じんましん 1名

発疹(水痘?) 1名 鼻閉 1名

新型コロナ流行のため、本日から市内の小中学校は休校に入ります。

皆外出を控えているのか、外来も患者さんが少なかったです。

コロナもそうですが、インフルエンザの流行も気になるところです。

令和2年3月5日(木) T.T

まだ岩手ではコロナの発生はありませんが、まもなく出現するのでしょうか。

インフルエンザはB型が主流。

小児科 8名

インフルB 2名

内科 5名

令和2年3月6日(金) M.K

合計 5名

インフルエンザB 3名
蕁麻疹 1名
咽頭炎 鼻炎 1名

せっかくの休校対策も小学生は学童に集まり、学校より人口密度が高い環境にいるようです。コロナが早く終息してくれるといいですが。

令和2年4月8日(水) T.T

コロナ感染禍いつまで続くやら!!

小児科 6名

(1名宮城から戻った児、コロナを心配していたが、アデノウイルス、溶連菌陽性)

内科 9名

令和2年4月19日(日) T.S

・URI 4

・右頬のイタミ(蜂窩織炎S/O)

・BA 急性増悪1) → 悪化時二次ERへ行くように。

・Chest pain 1

昨日COVID-19感染症学会のwebシンポジウムをみました。日本からのいろいろな情報ですごく勉強になりました。まずは拡大防止のため市民の行動変容!!(不要不急の外出禁、physical distance)

HP側は、どのPtへも標準的PPEの徹底(virus量は症状との相関なし、不顕性Ptからのクラスター発生) etc。

本日、ここへきてフィルターにかこまれPPEもそろっており感謝です。安全して仕事ができます。

未知の領域ですが、今、皆の少しのガマンで光がさしてきてくれればと思います。

令和2年5月4日(月) Y.U

患者 4名

(溶連菌感染症2名)

5月3日当番医でした。44名9割が発熱。

B型インフルエンザ 1名

診察は玄関でやりました。トイレはレンタルトイレで外に置きました。(意外と安いです) 当院は普段はこどもの患者さんが少なく発熱の症状がある場合は、ポーチに車を寄せてもらい、外で診ていますが、当番医はそうもいかず、玄関にベッドなど置きやりました。県内にコロナ患者さんが出た場合の当番医はどうなるのか、医療崩壊にならないよう対策しなければなりませんね。

発熱外来について、今、検討されています。5月1日に会議がありました。皆様の御協力をお願いすることになると思います。よろしくお願ひします。

令和2年5月13日(水) T.T

明日から緊急事態宣言の解除。再度のクラスターの発生がなければよいが。病院の外来は患者の減少が著明。3密防止の効果かと思われる。

小児科 3名 のみでした。

内科 3名

令和2年5月21日(木) Y.K

小児科 3名

患者さん少ないですね。

新型コロナの影響による受診控えでもあるのでしょうか?

令和2年6月11日(木) U.Y

5名 (発熱1名 じんましん2名
おむつかぶれ1名
ベッドから落ちた1名)

6月10日より発熱外来、正式には「盛岡地域外来・検査センター」が開設されました。小児科医1名、大人の対応は医大1名、盛岡市、西北、紫波郡医師会会員1名で行います。月～土 14:00～17:00 小児科は月火金を医大小児科、水木土を開業小児科医が出動し

ます。盛岡市医師会小児科医会だけでは足りないので西北医師会、紫波郡医師会の先生方にもお願いしています。これからいろいろ変更があるかも知れませんが、御協力をよろしくお願い致します。

コロナ発生時の夜間診療所の対応については、まだ詳しく検討されていませんが、この場所でやることは感染防御上無理があると思います。夜間診療所運営委員会で検討をお願いしたいと思います。

令和2年6月26日(金) Y.F

「盛岡地域外来・検査センター」には、西北医師会からも応援の出動があるようです。西北医師会の決まりで、会長より若い医師が出動する、という年齢制限のため私は高齢で応援要請はありません。夜間診療所でのみご奉仕しようと思っております。

1名

令和2年7月2日(木) T.T

COVID-19 東京で100人越え、さらに拡大するか!!

やはり受診抑制が著明。他の感染症も減少。

小児科 4名

内科 0名

令和2年7月30日(木) Y.M

急患 0名

昨日、コロナ岩手県第1号発生

その影響か

令和2年9月11日(金) T.Y

1名 5才 外耳道炎のうたがい

退くつな夜でした。

もちろん日中もひまで…。

何でしょうこれは…。

小児科はいらなくなるのでしょうか？

令和2年10月18日(月) T.S

計4名

日本赤十字社が学校へ配布している「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」新型コロナウイルスの正しい理解

差別をしないようにetcとわかりやすく訴えていてとてもすばらしい資料だと思います。県民の皆さんが閲覧できたらいいと思います。

令和2年10月20日(火) A.M

小児救急だが高急の疾患が戻ってきた感がある。本日も便秘で受診(親も便秘を考えている。)患者有り。便秘は救急でなくとも良いと考えます。コロナ禍での中。「救急を守ろう」とする意識が薄れてきているような気がする。救急受診は親の都合!少し心配である。

小児科 7名 (うち便秘? 4名
急性腸炎発熱2名+1)

令和2年11月11日(水) T.T

本日は初めてゴーグル・ガウン手袋装着で診察しました。

小児 4名(発熱、便秘・咳嗽)

内科 2名 蕁麻疹

令和2年12月9日(水) T.T

コロナは増々拡大傾向。市内での幼稚園、保育園でRSU感染が拡大中。インフルエンザは殆ど発症なし。コロナ院内感染の恐怖あり。

小児科 3名

内科 2名

令和2年12月12日(土) T.K

コロナクラスター発生

ワクチンが普及するまで流行は続くであろう。そのワクチンも改良が必要なものであろう。

4. 診療所の現状

① 夜間急患診療所出動医名簿

令和2年1月1日～12月31日

愛木 隆	津志田 26-30-1	川久保病院 内科
青山 洋二	向中野二丁目 54-18	ゆい内科呼吸器科クリニック
朝倉 慎一	茶畑一丁目 8-2	あさくらクリニック
朝倉 賀子	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
阿部 弘一	菜園二丁目 5-29	あべ菜園内科クリニック
阿部 志津香	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
阿部 隆志	肴町 6-6	あべ神経内科クリニック
阿部 礼司	長橋町 17-45	あべ内科・消化器科クリニック
池田 富好	本町通三丁目 19-32	真山池田医院
池田 亘政	上太田弘法清水 10-3	池田内科
石井 基嗣	中ノ橋通一丁目 4-20 水晶堂ビル4階	いしい内科・糖尿病クリニック
石井 基弘	東緑が丘 23-26	石井内科消化器科医院
板澤 正明	中央通一丁目 7-25 1階	ポランの内科クリニック
伊藤 俊一	津志田 26-30-1	川久保病院
伊藤 雅天	津志田 26-30-1	川久保病院
今成 慧祐	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 消化器内科
臼井 由紀子	松園二丁目 2-10	臼井循環器呼吸器内科
梅木 郁美	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
江村 洋弘	城西町 7-33	江村胃腸科内科医院
遠藤 昌樹	大通三丁目 9-3	開運橋消化器内科クリニック
及川 寛太	上田一丁目 18-38	おいかわ内科クリニック
大浦 雅之	津志田西二丁目 13-3	大浦内科・歯科クリニック
大澤 宏之	茶畑二丁目 8-3	大澤クリニック
大庭 英樹	盛岡駅前通 13-8	盛岡駅前おおば脳神経内科クリニック
大平 篤志	梨木町 2-2	おおひら内科循環器科クリニック
大屋 敬一郎	西青山一丁目 16-43	大屋内科胃腸科クリニック
荻野 義信	本宮一丁目 6-12	荻野病院
小田 淳一	みたけ四丁目 36-32	盛岡さくらクリニック
小野寺 謙	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科分野
織笠 俊樹	本町通一丁目 8-9	大手先内科循環器科クリニック
梶山 あずさ	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
桂 永行	本宮字小板小瀬 13-2	かつら内科クリニック

桂 泰 鴻	本宮字小坂小瀬 13-2	かつら内科クリニック
加 藤 隆 幸	天神町 11-8	加賀野消化器内科・内科クリニック
金 澤 格	上堂一丁目 18-24	かなざわ内科クリニック
金 山 広 海	浅岸一丁目 12-22	かなやま内科医院
金 子 博 純	乙部 13-135-3	金子胃腸科内科
金 濱 誠 己	向中野三丁目 10-6	杜のこどもクリニック
鎌 田 潤 也	大通二丁目 7-23	おどおり鎌田内科クリニック
鎌 田 広 基	本宮二丁目 20-1	鎌田内科クリニック
川 村 光 郎	志家町 4-4	川村内科医院
川 村 みや子	紫波郡矢巾町大字煙山 24-1	みちのく療育園
菅 野 啓 一	山岸二丁目 11-36	菅野小児科医院
菅 野 恒 治	山岸二丁目 11-36	菅野小児科医院
菊 池 均	材木町 2-26 3階	旭橋クリニック菊池循環器内科
菊 池 光 洋	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 放射線診断科・放射線治療科
金 正 門	向中野五丁目 18-30	まさと脳神経内科クリニック
金 矢 宣 紀	津志田中央三丁目 7-7	循環器内科 金矢クリニック
工 藤 真 大	中ノ橋通一丁目 7-13	工藤内科ハートクリニック
工 藤 卓 次	前九年三丁目 16-15	くどう医院
工 藤 宏 紀	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
久保田 公 宜	大館町 26-3	久保田医院
小 坂 崇	永井 19-258-1	小坂内科消化器科クリニック
児 島 陽 一	みたけ三丁目 11-36	児島内科医院
肥 田 龍 彦	菜園一丁目 4-7	菜園循環器内科医院
小 林 仁	盛岡駅西通二丁目 9-1	マリオス小林内科クリニック
小 林 有 一	三本柳 11-12-4	小林小児科クリニック
齋 藤 明 宏	月が丘二丁目 2-60	さいとう小児科クリニック
齋 藤 寛 治	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
齊 藤 慎 二	みたけ四丁目 11-46	みたけ消化器内科クリニック
斉 藤 宏 之	みたけ二丁目 21-42	みんなのクリニック
佐々木 敦 美	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科分野
佐々木 透	高松二丁目 27-27	おはようクリニック
佐々木 朋 子	青山一丁目 25-1	国立病院機構 盛岡医療センター
佐々木 正 孝	中野一丁目 27-10	ささき医院
佐 藤 公 也	大通三丁目 1-24	佐藤内科クリニック
佐 藤 邦 彦	中ノ橋通二丁目 3-2	もりおか胃腸科内科クリニック
佐 藤 悠	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科分野

佐藤由香子	下ノ橋町 4-15	船山内科クリニック
澤田哲伸	上田一丁目 6-11	澤田内科医院
三船俊英	天昌寺町 9-10	三船内科
小豆嶋立頼	仙北三丁目 13-20	小豆嶋胃腸科内科クリニック
小豆嶋正晴	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科分野
菅原啓司	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
鈴木啓生	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 神経内科・老年科
鈴木知己	八幡町 2-17	鈴木内科医院
鈴木康之	北松園二丁目 15-4	内科クリニックすずき
鈴木陽子	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科分野
田金星都	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
高野長邦	三本柳 6-1-1	盛岡赤十字病院 小児科
高橋明雄	上田字松屋敷 11-14	子どもは未来もりおかこどもクリニック
高橋進	下米内二丁目 4-12	中津川病院
滝川佐波子	西松園三丁目 22-1	西松園内科医院
武田薫	花巻市東宮野目 13-112	介護老人保健施設サンホーム
田中健太郎	紫波郡矢巾町大字西徳田 5-2-4	けんたろうこどもクリニック
田中洋	永井 22-29-6	田中循環器内科クリニック
谷藤幸子	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
田村悦子	下ノ橋町 6-14	遠山病院 内科
田村茂	津志田 26-30-1	川久保病院 内科
千田明紀	東安庭一丁目 23-60	ちだ内科・外科クリニック
千葉修	菜園一丁目6-13 公園通りプラザビル2階	公園通りクリニック
千葉拓	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科分野
千葉太郎	永井 12-10	盛岡友愛病院
千葉直樹	中央通三丁目 1-10	ちばクリニック
千葉芳久	向中野三丁目 10-3	本宮Cクリニック
土屋繁国	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
栃内秀貴	神明町 10-35	栃内内科医院
豊島浩志	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
中島淳	月が丘二丁目 8-30	中島内科クリニック
永塚健	緑が丘四丁目 1-7	えいづか内科胃腸科クリニック
中村麻乃	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科分野
中村富雄	上厨川字杉原 50-47	中村こどもクリニック
中村義明	若園町 2-5	中村内科医院
西島浅香	上田一丁目 19-11	西島こどもクリニック

二宮 一見	愛宕町 2-47	二宮内科クリニック
二宮 由香里	愛宕町 2-47	二宮内科クリニック
萩野 有正	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
原田 達男	山岸三丁目 2-1 山岸中央ビル1階	原田内科脳神経機能クリニック
樋口 清一	津志田西二丁目 13-3	大浦内科・歯科クリニック
久喜 寛之	緑が丘三丁目 2-34	久喜内科・脳神経内科医院
藤井 裕	八幡平市柏台 2-8-2	東八幡平病院
藤島 敏智	愛宕町 4-18	藤島内科医院
本間 博	上田二丁目 20-13	本間内科医院
米沢 俊一	上田字松屋敷 11-14	子どもは未来もりおかこどもクリニック
前多 治雄	盛岡駅前通 9-10	前多小児科クリニック
蒔苗 剛	津志田 26-30-1	川久保病院 小児科
松嶋 大	仙北二丁目 1-20	なないろのとびら診療所
三浦 貴朗	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
三浦 義孝	中野一丁目 16-10	みうら小児科
三上 仁	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
水沼 吉美	中央通二丁目11-12 明治中央通ビル1階	水沼内科循環器クリニック
宮本 康弘	上厨川字杉原 101-4	みやもと内科クリニック
虫壁 奈津希	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科分野
武者 毅彦	北飯岡一丁目 2-70	たけ循環器内科クリニック
武藤 秀和	紫波町紫波中央駅前二丁目 3-94 オガールセンター1階	紫波中央小児科
村田 淳	紺屋町 3-4	村田小児科医院
村田 望	北飯岡一丁目 2-25	ゆうあいの街クリニック
森田 順	緑が丘四丁目 1-50	森田小児科医院
森田 友明	緑が丘四丁目 1-50	森田小児科医院
森谷 耕太郎	高松三丁目 11-29	森谷医院
八木 千栄	北飯岡三丁目 20-3	もりおか往診ホームケアクリニック
山口 淑子	滝沢市穴口 377-1	山口クリニック
山田 宏之	津志田中央二丁目 18-31	やまだ胃腸内科クリニック
吉田 研一	梨木町 2-13	吉田小児科
吉田 俊巳	東見前 8-20-16	吉田消化器科内科
吉田 信一	西仙北一丁目 30-50	よしだクリニック
渡邊 活見	高松三丁目 9-8	わたなべ内科・脳神経内科クリニック
渡邊 健	永井 12-10	盛岡友愛病院
渡辺 悠太	三本柳 6-1-1	盛岡赤十字病院 小児科

② 役員名簿

(令和2年12月31日現在)

開設者	盛岡市長	谷 藤 裕 明
管理者	盛岡市医師会会長	吉 田 耕太郎
運営協議会		
委員	盛岡市保健所長	矢 野 亮 佑
〃	盛岡市医師会副会長	金 子 博 純
〃	〃	本 間 博
〃	盛岡市医師会理事	金 濱 誠 己
〃	〃	久保田 公 宜
〃	〃	小 林 有 一
〃	盛岡市医師会小児科医会会長	三 浦 義 孝
〃	盛岡市医師会小児科医会	吉 田 研 一
〃	盛岡薬剤師会副会長	佐々木 俊
〃	盛岡薬剤師会副会長	佐々木 宣 好
〃	岩手県看護協会会長	及 川 吏智子
〃	盛岡市保健福祉部長	村 上 淳
事務局	盛岡市医師会事務局長	及 川 敬一郎
	盛岡市医師会事務局次長	水 本 達 彦
	盛岡市医師会事務局係長	谷 藤 慎 治
	盛岡市保健所次長兼企画総務課長	工 藤 弘 幸
	盛岡市保健所企画総務課長補佐	相 馬 英 洋
	盛岡市保健所企画総務課企画総務係長	鈴 木 佳 子
	盛岡市保健所企画総務課企画総務係主任	滝 村 歩 美
	盛岡市保健所企画総務課企画総務係主事	野 呂 洸 碩

5. 薬品選定会議・運営協議会

令和元年度 第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

日 時：令和2年2月7日（金） 午後1時
場 所：盛岡市医師会館 会議室



1. 報告事項

(1)令和元年度夜間急患診療所利用状況及び収入状況（平成31年4月～令和2年1月までの集計）について

1) 診療科別・年齢別の状況について

4月から1月までの患者数は前年比で1割ほど増加している。特に10月から12月が前年比で150%前後となっており、これは前年よりインフルエンザの流行が早かったためと考えられる。

2) 曜日・時間帯別の状況について

曜日では土日が、時間帯別では7時台の患者数が最も多かった。

3) 緊急度別の状況について

小児の「緊急度あり」の患者数が増加していた。

4) 地域別の状況について

7割以上が盛岡からの患者であった。また紫波、矢巾からの患者が若干減少していた。一方で県外からの患者が前年を上回っていた。

5) 各種検査、処置の状況について

インフルエンザの流行に伴い12月、1月のインフルエンザ抗原検査数が多かった。

6) 紹介状の作成状況について

小児科の件数が多かった。

7) 年間最多・最小患者数について

年末の12月30日が73人と最多だった。

8) 救急患者の搬送状況について

1月末までの状況ですでに昨年並みとなっており、岩手県立中央病院と盛岡赤十字病院は昨年を上回っていた。医大移転の影響と考えられた。

9) 転送患者の症状等について

消化器系が減少し、呼吸器系が増加していた。

10) 収入状況については、4月から12月までの合計を比較すると、昨年よりすでに増収となっていた。

(2)令和元年度盛岡市夜間急患診療所従事者打合せ会で検討することとしたことの進捗

状況

- 1) 現行の超音波診断装置は平成15年に購入した機器であり、新しい機器を購入する方針。現行と同等の機種を選択し、令和2年度の予算化を目指している。
 - 2) 自動血圧計については、使い勝手がよく、耐久性、持ち運びの良いものを選定し購入予定。
 - 3) 防災防犯マニュアルの策定については、案を作成し設置している。
- (3)制度改正に伴う看護師の会計年度任用職員への移行について
- (4)制度改正に伴う医師及び薬剤師の報酬等支払業務委託について
- 医師及び薬剤師については特別職非常勤職員には該当しなくなるため、医師会・薬剤師会と「業務委託契約」を締結することで対応する。報酬は、医師会・薬剤

師会から支払われる。

2. 協議事項

薬品等の導入及び廃止について協議した。新規にアメナリーフ錠(200mg)、大建中湯の要望があった。協議の結果、腎機能障害に使えるためアメナリーフ錠(200mg)が採用された。緊急性がないため、大建中湯の採用は見送られた。

また、ブドウ糖注(5%、500ml/V)は、使用実績がほとんどないため廃止が決定した。

3. その他

- (1)新型コロナウイルスへの対応について
- (2)タクシーチケットの適正使用について
- (3)紹介状の見直し

(小林有一)

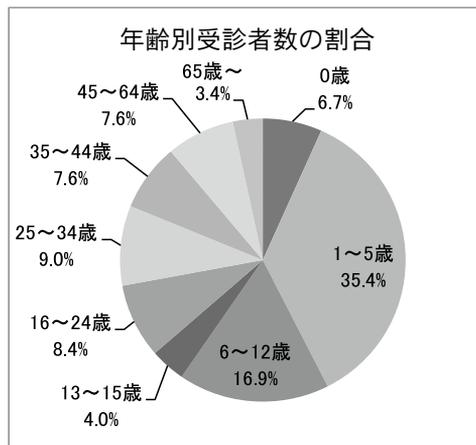
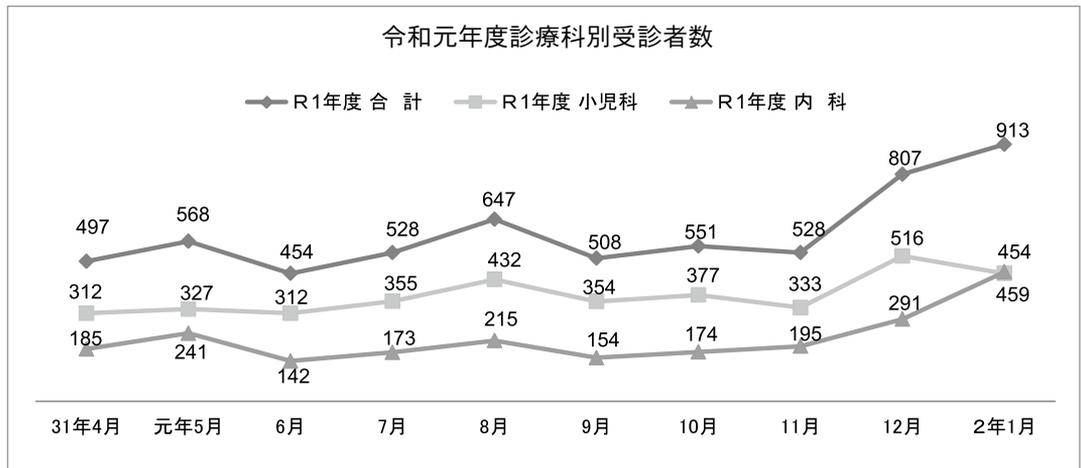
出席者一覧			
運協役職	氏名	団体及び職名	
管理者	和田利彦	盛岡市医師会	会長
会長	高橋清実	盛岡市	保健所長
副会長	金子博純	盛岡市医師会	副会長
委員	吉田耕太郎	盛岡市医師会	副会長
	金濱誠己		理事
	久保田公宜		理事
	小林有一		理事
	臼井由紀子		小児科医会会長
	吉田研一		小児科医会幹事
	畑澤昌美	盛岡薬剤師会	副会長
	佐々木宣好		副会長
	及川吏智子	岩手県看護協会	会長
村上淳	盛岡市	保健福祉部長	
事務局	及川敬一郎	盛岡市医師会事務局	事務局長
	水本達彦		次長
	谷藤慎治		係長
	工藤弘幸	盛岡市保健所	次長兼企画総務課長
	佐々木一憲		企画総務課長補佐
	鈴木佳子		企画総務係長
	滝村歩美		主任
大澤優也	主事		

令和元年度夜間急患診療所利用状況

診療科別・年齢別の状況

(人)

年/月	前年比	R1年度			参考：H30年度			令和元年度年齢別受診者数										
		合計	小児科	内科	合計	小児科	内科	0歳	1~5歳	6~12歳	13~15歳	16~24歳	25~34歳	35~44歳	45~54歳	55~64歳	65~74歳	75歳~
31年4月	78.9%	497	312	185	630	345	285	33	196	67	21	49	54	40	14	7	8	8
元年5月	96.8%	568	327	241	587	347	240	39	190	84	21	63	66	49	23	15	9	9
6月	98.3%	454	312	142	462	307	155	39	188	63	26	25	39	35	13	10	10	6
7月	115.3%	528	355	173	458	296	162	44	228	73	12	42	45	34	20	11	9	10
8月	124.7%	647	432	215	519	347	172	53	283	79	22	46	54	34	33	17	16	10
9月	112.9%	508	354	154	450	317	133	39	210	93	13	48	42	16	12	18	7	10
10月	146.2%	551	377	174	377	254	123	43	200	113	26	39	41	35	21	17	7	9
11月	153.0%	528	333	195	345	235	110	36	178	90	17	42	46	41	18	16	14	10
12月	157.6%	807	516	291	512	311	201	37	225	207	30	51	54	64	48	23	11	12
2年1月	85.6%	913	454	459	1066	488	578	32	228	147	51	99	100	108	84	36	18	10
4~1月までの計	111.0%	6,001	3,772	2,229	5,406	3,247	2,159	395	2,126	1,016	239	504	541	456	286	170	109	94
2月	—	—	—	—	675	393	282	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3月	—	—	—	—	508	298	210	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		6,001	3,772	2,229	6,589	3,938	2,651	395	2,126	1,016	239	504	541	456	286	170	109	94
構成比(%)		100.0	62.9	37.1	100.0	62.4	37.6	6.6	35.4	16.9	4.0	8.4	9.0	7.6	4.8	2.8	1.8	1.6

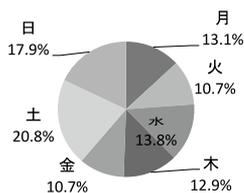


曜日別・時間帯別の状況

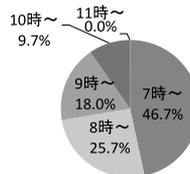
(人)

年/月	患者総数	参考：H30年度		曜日別								時間帯別					その他			
		患者数	増減	月	火	水	木	金	土	日	7時～	8時～	9時～	10時～	11時～	指導	照会	搬入	転送	
31年4月	497	630	△ 133	86	61	59	52	51	97	91	245	124	84	44	0	0	252	0	5	
元年5月	568	587	△ 19	60	41	94	85	75	107	106	272	141	99	56	0	0	314	0	19	
6月	454	462	△ 8	43	47	60	49	37	113	105	210	122	85	37	0	0	236	0	16	
7月	528	458	70	69	79	64	70	65	100	81	205	163	94	66	0	0	296	0	6	
8月	647	519	128	72	84	87	99	73	129	103	291	168	125	63	0	0	282	0	10	
9月	508	450	58	77	53	60	62	47	111	98	241	142	76	49	0	1	263	0	10	
10月	551	377	174	73	71	83	89	60	87	88	261	142	93	55	0	0	238	0	12	
11月	528	345	183	70	30	67	70	67	136	88	229	147	102	49	1	0	240	0	16	
12月	807	512	295	143	95	92	71	62	189	155	409	185	138	75	0	1	325	0	10	
2年1月	913	1,066	△ 153	96	83	160	127	106	180	161	437	207	182	86	1	0	360	0	15	
4月～1月までの計	6,001	5,406	595	789	644	826	774	643	1,249	1,076	2,800	1,541	1,078	580	2	2	2,806	0	119	
2月	—	675	△ 675	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
3月	—	508	△ 508	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計	6,001	6,589	588	789	644	826	774	643	1,249	1,076	2,800	1,541	1,078	580	2	2	2,806	0	119	
構成比(%)	100	110	9.8	13.1	10.7	13.8	12.9	10.7	20.8	17.9	46.7	25.7	18.0	9.7	0.0	0.0	46.8	0.0	1.9	

曜日別受診者数の割合



時間帯別受診者数の割合



地域別の状況

(人)

年/月	合計	盛岡広域医療圏								その他地域	
		盛岡	八幡平	滝沢	雫石	葛巻	岩手	紫波	矢巾	県内	県外
31年4月	497	367	3	50	7	0	0	18	27	12	13
元年5月	568	426	5	38	5	0	3	23	32	8	28
6月	454	340	1	39	10	1	2	24	19	5	13
7月	528	396	6	47	11	0	4	19	25	10	10
8月	647	455	7	53	6	0	5	29	28	13	51
9月	508	381	6	52	8	0	3	24	9	11	14
10月	551	422	10	58	8	0	0	19	20	9	5
11月	528	371	11	57	11	0	3	24	33	8	10
12月	807	614	3	85	13	0	4	16	28	16	28
2年1月	913	705	5	88	13	1	2	23	29	23	24
2月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	6,001	4,477	57	567	92	2	26	219	250	115	196
構成比(%)	100.0	74.60	0.95	9.45	1.53	0.03	0.43	3.65	4.17	1.92	3.27
30年度患者数	6,589	4,859	81	645	105	3	37	269	313	95	182
構成比(%)	100.0	73.74	1.23	9.79	1.59	0.05	0.56	4.08	4.75	1.44	2.76
29年度患者数	6,737	5,041	84	583	92	1	39	272	365	97	163
構成比(%)	100.0	74.83	1.25	8.65	1.37	0.01	0.58	4.04	5.42	1.44	2.42
28年度患者数	6,434	4,728	68	570	78	1	41	323	321	107	197
構成比(%)	100.0	73.48	1.06	8.86	1.21	0.02	0.64	5.02	4.99	1.66	3.06

6. 従事者打合せ会

令和2年度 第1回盛岡市夜間急患診療所従事者打合せ会

日 時：令和2年7月14日（火）午後7時
場 所：盛岡市保健所7階 大ホール



吉田耕太郎
管理者

吉田耕太郎管理者から挨拶があり、出席者の紹介後に議題に入った。

本打ち合わせ会は、本来、夜間急患診療所運営協議会の後に開催するものではあるが、今回は新型コロナウイルス感染症への対策を検討するため例年とは異なる形で開催することとした。

1. 報告事項

夜間急患診療所における新型コロナウイルス感染症防止対策の状況について報告があった。令和2年2月以降、現時点まで以下の対策が取られた。

- 1) フローチャートの作成
- 2) HEPAフィルター付きパーティションの設置

- 3) 特診室の整備
- 4) 個人防護具の配置
- 5) 飛沫防止用ビニールカーテンの設置
- 6) 複数日分の処方の特例
- 7) 薬剤師による吸入指導を伴う薬剤の原則使用禁止（リレンザ、イナビル等）
- 8) 問診項目の追加
- 9) エレベーター1基を夜間急患診療所患者専用化
- 10) 1階正面玄関に内線電話を設置し、発熱患者とそれ以外の患者の滞在空間を分ける

2. 協議事項

夜間急患診療所における新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザの流行期を想定した今後の運営方針について協議した。

最初に保健所の事務局から、夜間急患診療所は盛岡医療圏の初期救急医療機関とし



て重要な役割を担っており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やインフルエンザの流行期であってもその機能を維持することが求められることから、発熱を伴う患者と発熱以外の患者及び従事者の接触を最小限にし、患者同士の適切な距離を保ちながら診療を継続するために、保健所庁舎1階において、発熱患者を対象としたオンライン診療を実施する案について説明があった。

委員からは、オンライン診療についての課題、患者への啓発や広報、夜間急患診療所で実際に新型コロナウイルス感染者が発生した場合の対応、明日からオンライン診

療開始までの間の診療体制、看護師やスタッフの確保、夜間急患診療所を小児科だけにしたらどうか等、様々な意見が出された。

最後に保健所事務局より、「2階の特診室を使いたくないという医師もあり、それぞれ異なるやり方があるので難しいが、発熱患者を1階で診察できるようにすることや、ドライブスルー方式で診察すること、具体的に受付・薬剤・会計・事務的な流れや手順等をどうするかなど、今後検討を行いたい」と説明があり、矢野保健所長が締めて会は終了した。

(小林有一)

出席者一覧

運協役職	氏名	団体及び職名		
管理者	吉田 耕太郎	盛岡市医師会	会長	
委員	金子 博 純	盛岡市医師会	副会長	
	本間 博		副会長	
	金濱 誠 己		理事	
	久保田 公 宜		理事	
	小林 有 一		理事	
	三浦 義 孝		小児科医会	
	畑澤 昌 美		盛岡薬剤師会	副会長
	佐々木 宣 好		盛岡市	保健所長
従事者	矢野 亮 佑	夜間急患診療所	主任看護師	
	長山 秋 子	(株)メディカルサポート	看護師	
	八重樫 寛 恵		管理部管理課長	
	小川 博 司		事業部受託事業課	
	大西 佳 介		事務員	
	大坪 めぐみ		事務員	
高橋 恵美子	事務局長			
事務局	及川 敬一郎	盛岡市医師会事務局	次長	
	水本 達 彦	盛岡市保健所	係長	
	谷藤 慎 治		次長兼企画総務課長	
	工藤 弘 幸		企画総務課長補佐	
	相馬 英 洋		企画総務係長	
	鈴木 佳 子		主任	
	滝村 步 美		主事	
	野呂 洗 碩			

令和2年度 第2回盛岡市夜間急患診療所従事者打合せ会

日 時：令和2年8月17日（月）午後7時
場 所：盛岡市保健所7階 大ホール



盛岡市夜間急患診療所の吉田耕太郎管理者から挨拶があり、その後今回交代した委員の紹介があった。

今年度第2回目となるこの打合せ会は、本来は夜間急患診療所運営協議会の後に開催するものではあるが、今回は新型コロナウイルス感染症への対策を検討するため、例年とは異なる形で開催することとなった。議事進行は、矢野亮佑保健所長が務めた。

報告1. 8月補正予算要求結果について、事務局より口頭で説明があった。第1回従事者打合せ会の際、「1階ロビーでのオンライン診療について予算請求する」と説明したが、今回、財政の承認が得られなかった。代わりに、1階ロビーでの対面非接触パーテーションを用いて診察するための費用が予算化され、人件費、消耗品代、パーテーション代、仮設コンテナレンタル費が計上された。

報告2. フローチャート及び問診票の更新について説明があった。「新しいフローチャートは、県のコールセンターが夜間急患診療

所の受診を勧めるケースが多いことから、それに対応した流れとした。また、問診票は電話対応が多くなるため、それに対応した形式とした」委員からフローチャートについて、いくつか質問、意見が出た。その結果、まずは「県のコールセンターと盛岡市の帰国者・接触者相談センターの対応が異なる部分は、擦り合わせをしっかりとる」、「県には受診前の事前連絡を徹底してもらう」こととなった。

協議事項では、「1階ロビーでの診察について」説明と協議が行われた。1. 診察の流れ（動線）について、2. 検査及び処置の実施の有無について、3. 必要な設備について、4. 個人防護具について、事務局から説明があった。

非発熱患者と発熱患者の動線が入り口で混ざらないように、大きな看板や周知するための広報や誘導する人員が必要、検査については原則として行わないように提示する、バイタルが危ないなど非常時の処置は必要、小児科：パーテーションは不要、内科：パーテ



ションが必要、袖付きビニールエプロン・サー
 ジカルマスク、手袋、フェイスシールドの
 PPEに加え、ズボン、シューズカバー、ヘア
 キャップ、内側に着るスクラブも用意してほ
 しい、PPEは飛沫を浴びた毎に交換する、な
 ど様々な意見が出された。

「ソフト・ハードともに制約があり、緊急
 処置的に何ができるか考えてきました。この
 ままの運営で良いか根本的な問題についても
 引き続き検討していく必要がある」と矢野保
 健所長が挨拶し閉会した。

(小林有一)

出席者一覧

運協役職	氏名	団体及び職名		
管理者	吉田 耕太郎	盛岡市医師会	会長	
委員	金子 博純	盛岡市医師会	副会長	
	本間 博		副会長	
	金濱 誠己		理事	
	久保田 公宜		理事	
	小林 有一		理事	
	三浦 義孝		小児科医会会長	
	吉田 研一		小児科医会	
	佐々木 俊		盛岡薬剤師会	副会長
	佐々木 宣好		盛岡薬剤師会	副会長
従事者	矢野 亮佑	盛岡市	保健所長	
	長山 秋子	夜間急患診療所	主任看護師	
	大西 佳介	(株)メディカルサポート	事業部受託事業課	
大坪 めぐみ	事務員			
事務局	及川 敬一郎	盛岡市医師会事務局	事務局長	
	水本 達彦		次長	
	谷藤 慎治		係長	
	工藤 弘幸	盛岡市保健所	次長兼企画総務課長	
	相馬 英洋		企画総務課長補佐	
	鈴木 佳子		企画総務係長	
	滝村 歩美		主任	
野呂 洸碩	主事			

Ⅱ 岩手県高度救命救急センター報告

(令和2年1月～12月)

診療状況

1. 疾病別患者数
2. 来院時間帯別入院患者数
3. 地域別入院患者数
4. 搬入先・搬入方法別入院患者数
5. 主な手術件数

診 療 状 況

1. 疾病別患者数

1) 令和2年1月～12月

全身疾患	患者数	患者数	患者数
感染症	44 (22)	栄養疾患	0 (0)
寄生虫病	0 (0)	代謝疾患	59 (19)
新生物	137 (6)	免疫異常	1 (0)
内分泌疾患	1 (0)		
小 計			242 (47)

系統疾患	患者数	患者数	患者数
血液・造血器疾患	15 (6)	泌尿器生殖器疾患	122 (20)
精神障害	157 (8)	周産期	0 (0)
神経・感覚器疾患 (てんかんを含む)	351 (46)	皮膚皮下組織	27 (12)
心不全・不整脈など	381 (30)	筋骨格・結合組織	76 (27)
虚血性心疾患など	246 (10)	先天異常	0 (0)
(心筋梗塞・狭心症・動脈瘤)		妊娠	3 (0)
脳血管障害	260 (9)	症状・徴候	126 (16)
呼吸器疾患	218 (78)	診断不明確	0 (0)
消化器疾患	472 (151)	その他	23 (3)
小 計			2477 (416)

損傷・中毒	患者数				
	交通事故	その他の事故	事故の後遺症	故意的加害	小 計
骨折	90 (72)	260 (172)	0 (0)	12 (7)	362 (251)
関節脱臼	2 (2)	9 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (5)
捻挫	9 (1)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (1)
頭蓋内損傷	21 (15)	85 (72)	0 (0)	2 (0)	108 (87)
内臓損傷	27 (22)	12 (11)	0 (0)	4 (4)	43 (37)
開放創	4 (3)	65 (8)	0 (0)	28 (4)	97 (15)
血管損傷	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	2 (1)
表在損傷	7 (0)	6 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (0)
挫創	4 (2)	11 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (2)
圧挫損傷	35 (8)	75 (9)	0 (0)	2 (0)	112 (17)
異物	0 (0)	13 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (2)
熱傷	1 (0)	46 (22)	0 (0)	3 (2)	50 (24)
神経損傷	7 (7)	17 (13)	0 (0)	0 (0)	24 (20)
中毒・薬物中毒	1 (0)	14 (5)	0 (0)	120 (42)	135 (47)
毒作用	0 (0)	9 (5)	0 (0)	1 (0)	10 (5)
後遺症	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他・外因作用	1 (0)	25 (8)	0 (0)	18 (5)	44 (13)
外科・内科合併症	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
小 計	209 (132)	651 (331)	0 (0)	191 (64)	1051 (527)
合 計					3770 (990)

総患者数 3,770人 () はセンター入院患者数 990人

2. 来院時間帯別入院患者数

1) 令和2年1月～12月

月	AM0時～ AM6時		AM6時～ AM9時		AM9時～ PM5時		PM5時～ PM8時		PM8時～ PM12時		小計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1月	2	3	3	4	35	25	8	4	6	5	54	41	95
2月	4	1	3	4	28	21	5	6	2	4	42	36	78
3月	4	3	3	1	26	22	8	4	7	6	48	36	84
4月	5	2	4	0	22	10	11	5	6	4	48	21	69
5月	2	5	3	3	27	12	0	2	5	6	37	28	65
6月	5	1	4	3	37	12	6	1	2	5	54	22	76
7月	2	2	3	0	32	11	8	7	6	4	51	24	75
8月	2	3	4	3	35	17	11	6	8	5	60	34	94
9月	5	1	3	1	27	16	6	8	9	3	50	29	79
10月	6	3	6	3	34	24	8	5	14	7	68	42	110
11月	4	3	4	0	34	21	13	7	5	4	60	35	95
12月	2	1	2	5	25	12	12	2	5	4	46	24	70
合計	43	28	42	27	362	203	96	57	75	57	618	372	990

3. 地域別入院患者数

1) 令和2年1月～12月

地域別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均	比率
盛岡市	30	34	42	29	21	29	27	27	25	41	34	26	365	30.4	36.9%
滝沢市	6	2	5	5	7	9	3	8	3	14	10	6	78	6.5	7.9%
八幡平市・岩手郡	9	7	6	8	7	8	9	9	12	11	9	4	99	8.3	10.0%
紫波郡	23	11	10	8	14	16	13	19	16	19	23	17	189	15.8	19.1%
花巻市	8	6	6	8	5	4	5	10	5	12	9	4	82	6.8	8.3%
北上市・西和賀町	2	3	1	1	0	3	2	3	0	2	2	3	22	1.8	2.2%
奥州市・胆沢郡	0	0	4	3	2	1	2	3	2	2	1	2	22	1.8	2.2%
一関市・西磐井郡	2	1	0	0	2	0	0	2	3	0	0	2	12	1.0	1.2%
大船渡市・陸前高田市・気仙郡	0	0	0	1	0	2	2	1	1	0	1	0	8	0.7	0.8%
釜石市・遠野市・大槌町	3	1	4	0	2	2	2	2	1	1	2	1	21	1.8	2.1%
宮古市・下閉伊郡	3	5	3	3	3	0	3	4	3	1	2	2	32	2.7	3.2%
久慈市・九戸郡	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	2	6	0.5	0.6%
二戸市・二戸郡	2	2	1	0	0	1	2	1	1	1	1	0	12	1.0	1.2%
青森県	1	1	0	2	0	0	0	1	0	2	0	0	7	0.6	0.7%
秋田県	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.3	0.3%
宮城県	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	4	0.3	0.4%
その他	5	4	0	1	1	1	3	3	6	3	0	1	28	2.3	2.8%
合計	95	78	84	69	65	76	75	94	79	110	95	70	990	82.6	100.0%

4. 搬入先・搬入方法別入院患者数

1) 令和2年1月～12月

搬入先 区分	初期救急医療施設			2次救急医療施設			3次救急医療施設			その他			小計		計
	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	
1月	24	2	26	14	6	20	0	0	0	43	6	49	81	14	95
2月	12	4	16	14	4	18	0	0	0	37	7	44	63	15	78
3月	20	2	22	9	6	15	0	0	0	37	10	47	66	18	84
4月	7	4	11	8	3	11	0	0	0	42	5	47	57	12	69
5月	10	1	11	7	8	15	1	0	1	36	2	38	54	11	65
6月	8	4	12	3	1	4	2	0	2	48	10	58	61	15	76
7月	17	4	21	10	5	15	1	0	1	35	3	38	63	12	75
8月	13	0	13	12	7	19	2	0	2	51	9	60	78	16	94
9月	12	4	16	9	6	15	1	0	1	39	8	47	61	18	79
10月	18	0	18	13	4	17	0	0	0	58	17	75	89	21	110
11月	9	3	12	7	1	8	2	0	2	60	13	73	78	17	95
12月	11	4	15	10	1	11	0	0	0	39	5	44	60	10	70
合計	161	32	193	116	52	168	9	0	9	525	95	620	811	179	990

5. 主な手術件数および内視鏡的治療件数

1) 令和2年1月～12月

月	頭部疾患	胸部疾患	腹部疾患	四肢・骨盤疾患	脊椎・脊髄損傷	内視鏡的治療 対象疾患	計
1月	1	4	3	21	3	10	42
2月	2	1	2	17	6	6	34
3月	4	1	3	26	5	3	42
4月	4	0	8	13	10	11	46
5月	4	0	4	12	3	7	30
6月	3	0	2	19	9	14	47
7月	5	0	0	12	10	11	38
8月	1	1	3	20	8	9	42
9月	4	0	3	25	10	5	47
10月	4	0	6	29	13	10	62
11月	4	0	2	26	10	6	48
12月	3	1	0	22	7	0	33
合計	39	8	36	242	94	92	511

Ⅲ お盆及び年末年始の救急医療

1. 令和2年度お盆休み期間中の外来患者数 実態調査報告

今年のお盆期間中（8月13日(木)～16日(金)）に盛岡市内の医療機関を受診した外来患者数の調査結果を報告する。

対象医療機関は27病院、216診療所、計243件の医療機関で、アンケートの回収率は100%であった（表1）。

243件の医療機関の診療科別診療所及び病院数を表2に記した。

8月13日から16日までのお盆期間中の休診状況は表3に示した。

8月16日は日曜日で、休日救急当番医を含み7件の医療機関が診療を行った。

8月13日から16日までの病院及び診療所の来院患者数を時間帯別に表4に示した。

今年8月16日が日曜日なため、盛岡医療圏の病院を受診した患者数は221名で、平日木曜日の8月13日の2,563名と比較すると1/10以下だった。

表1. アンケート回収率（盛岡市）

	医療機関数	回収数	回収率
病院	27	27	100%
診療所	216	216	100%
合計	243	243	100%

表2. 診療科別診療所及び病院数

	診療科	医療機関数	計
診療所	内科	96	216
	外科	43	
	産婦人科	12	
	小児科	13	
	眼科	19	
	皮膚/泌尿器科	20	
	耳鼻咽喉科	12	
	夜間急患診療所	1	
病院	二次救急病院	12	27
	その他の病院	15	

表3. お盆中休診状況（242医療機関）

	8月13日 (木)	8月14日 (金)	8月15日 (土)	8月16日 (日)
全日休診	211	223	228	235
半日休診	10	3	10	0
診療	21	16	4	2
当番医	0	0	0	5

※盛岡市夜間急患診療所はのぞく

表 4. 病院及び診療所（令和 2 年 8 月 13 日～ 8 月 16 日）の来院患者数（時間帯別）

月日	曜日	時間 期間	AM0時	AM6時	AM9時	PM5時	PM8時	合計
			～ AM6時	～ AM9時	～ PM5時	～ PM8時	～ PM12時	
8 月 13 日	木	病 院	16	177	2,307	33	30	2,563
		診 療 所	1	42	487	11	12	553
		合 計	17	219	2,794	44	42	3,116
8 月 14 日	金	病 院	11	175	2,251	35	24	2,496
		診 療 所	0	22	251	11	6	290
		合 計	11	197	2,502	46	30	2,786
8 月 15 日	土	病 院	17	20	463	35	29	564
		診 療 所	0	21	173	12	3	209
		合 計	17	41	636	47	32	773
8 月 16 日	日	病 院	17	15	130	34	25	221
		診 療 所	0	3	249	9	5	266
		合 計	17	18	379	43	30	487
総 計		病 院	61	387	5,151	137	108	5,844
		診 療 所	1	88	1,160	43	26	1,318
		総 計	62	475	6,311	180	134	7,162

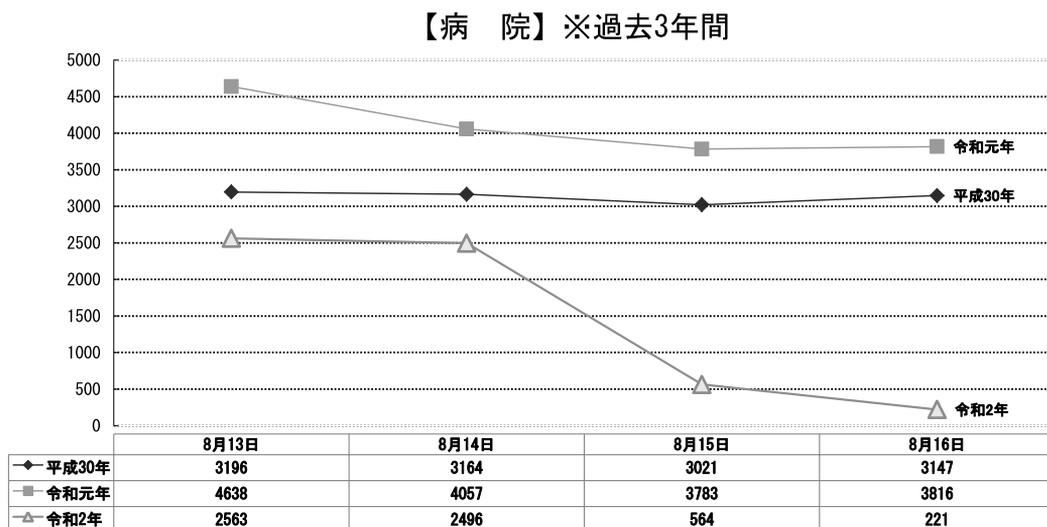
過去 3 年間の病院の来院患者数を折れ線グラフ（図 1）に示した。

8 月 13 日から 14 日は昨年と比較すると約 1,500 人～2,000 人の減少が見られ、新型コロナウイルス感染症に伴う受診抑制があったの

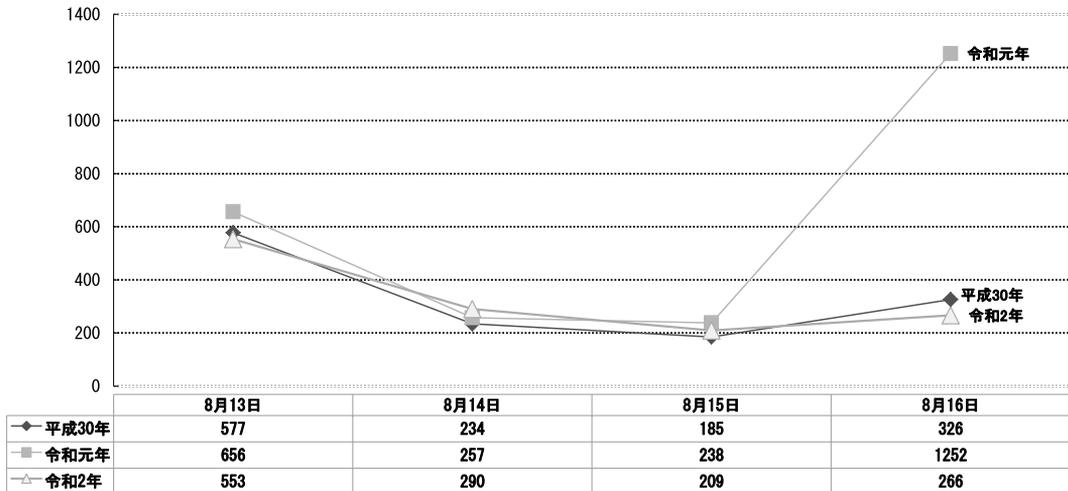
ではないかと推測された。

8 月 15 日から 16 日は土・日であったため、昨年度の平日と比較すると約 3,200 ～ 3,500 人の減少が認められた。診療所の来院患者数は、おおむね同様の推移が見られた。

図 1. お盆中外来患者実態調査（3 年間）



【診療所】※過去3年間



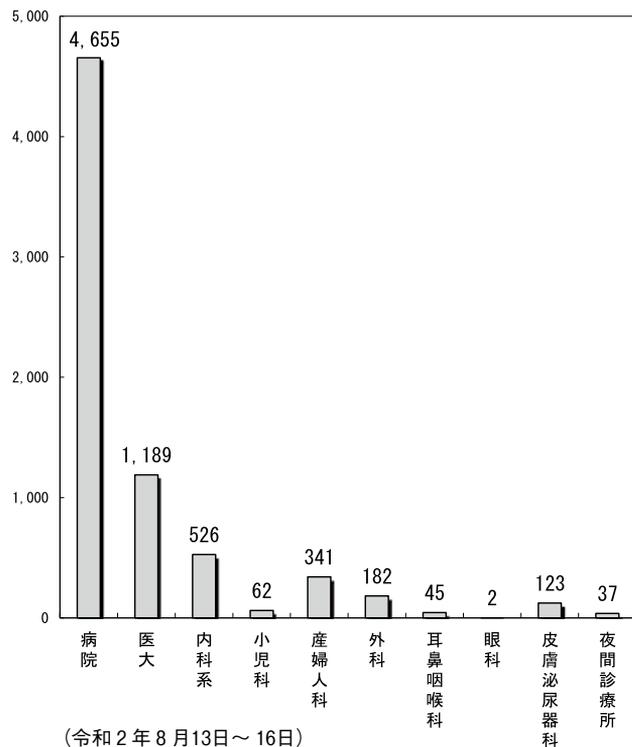
各科の外来患者の受診状況を図2に示した。

病院受診者は4,655人（昨年9,988人）、岩手医大（矢巾）受診者は1,189人（昨年6,306人）で、減少していた。

診療所受診者の内訳は、内科系526人、産婦人科341人、外科182人であった。

期間中の夜間急患診療所は37人（昨年154人）で、いずれも受診者数は減少傾向が見られた。

図2. 各科別の外来患者状況



8月13日から16日の時間帯別の病院及び診療所来院比率を図3から図8の円グラフに示した。今年度も同様に、多くの来院患者は岩手医大（1,189人）・県立中央病院（1,321人）・盛岡赤十字病院（730人）及びその他の二次

救急病院で診療を受けていた。例外は8月16日の日曜日で、休日救急当番医の診療所を来院した患者が病院より多く、54.6%を占めていた。

図3. 病院および診療所来院患者比率

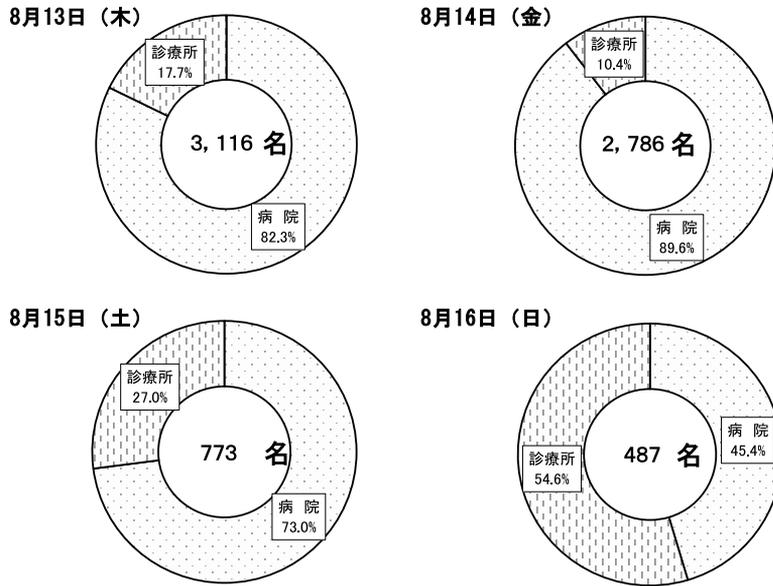


図4. 深夜（AM0:00～6:00）の来院患者比率

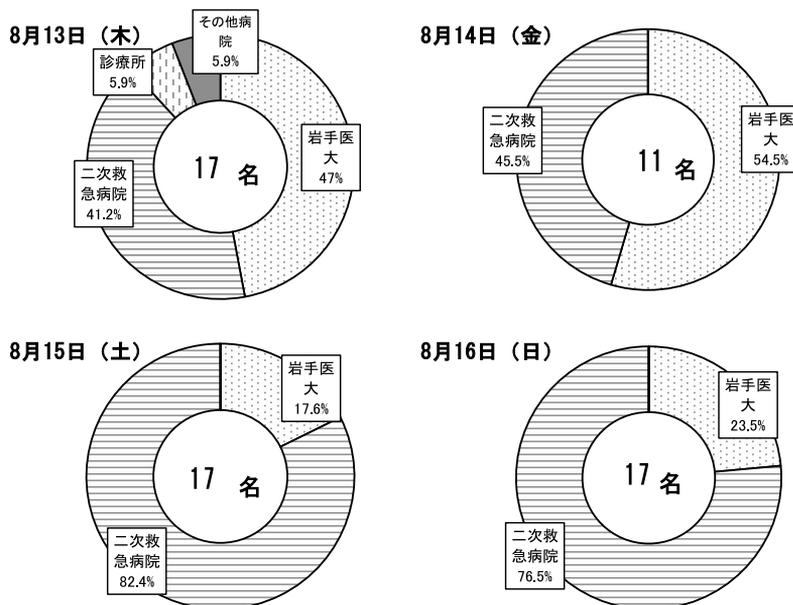


図 5. 時間外 A (AM6:00~AM9:00)の来院患者比率

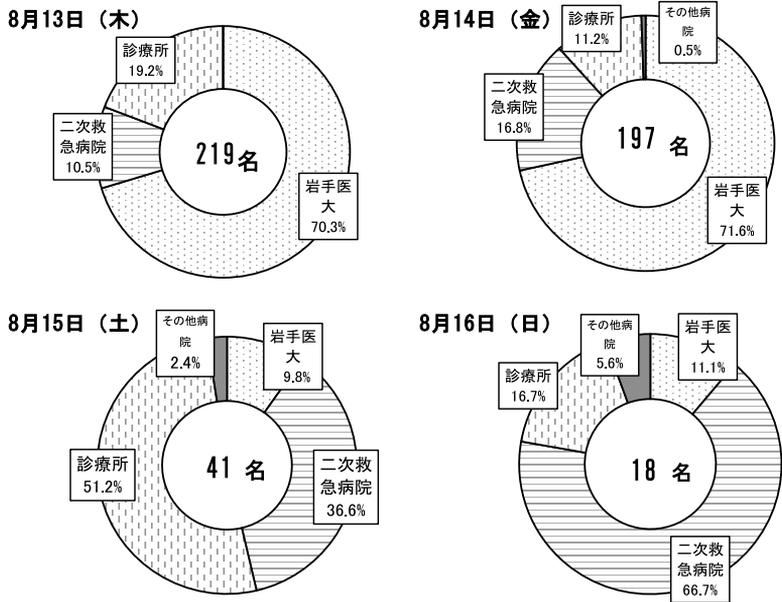


図 6. 日中 (AM9:00~PM5:00) の来院患者比率

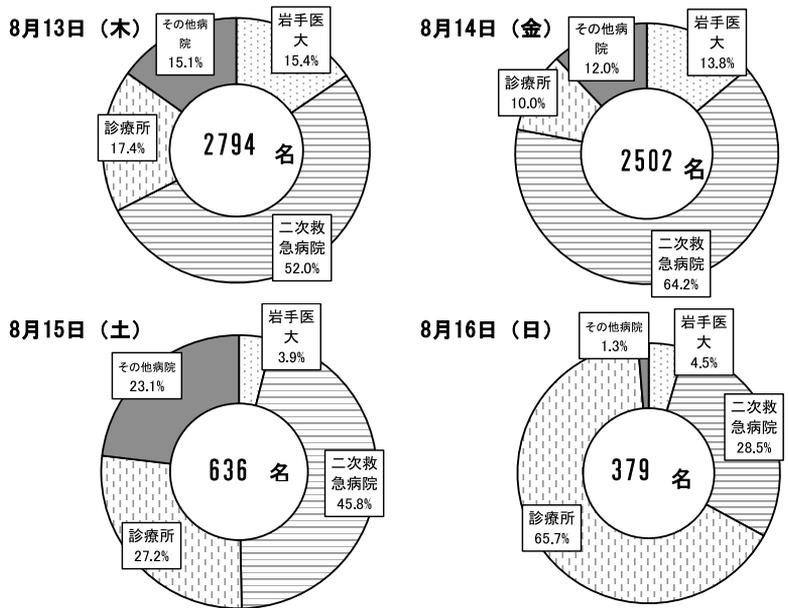


図7. 時間外B (PM5:00~PM8:00) の来院患者比率

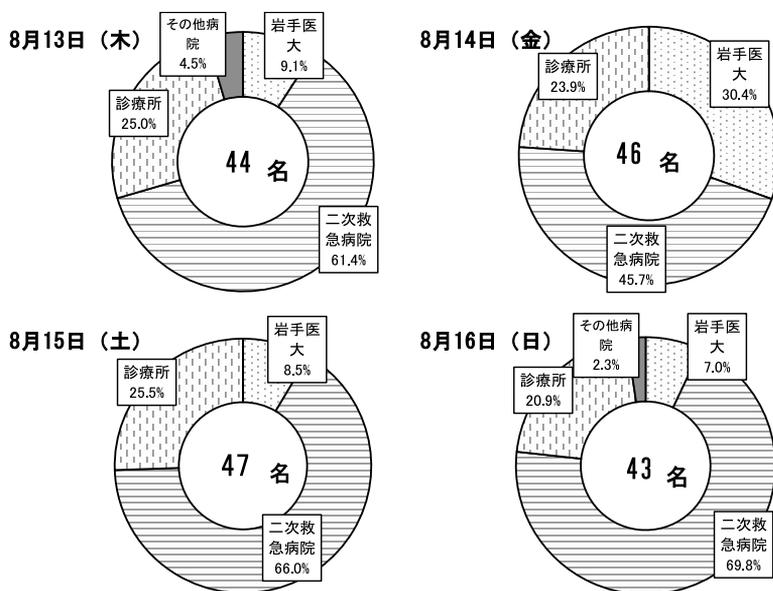
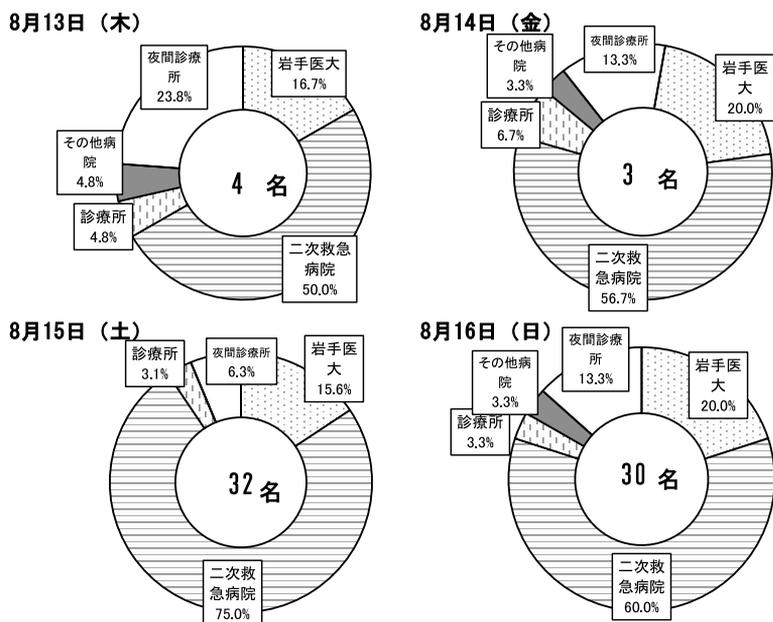


図8. 夜間診療時間 (PM8:00~PM12:00) の来院患者比率



最後に岩手医科大学附属病院が昨年9月に移転し、盛岡医療圏の救急医療体制が大きく変化した1年でもありました。落ち着きを取り戻した矢先の“新型コロナウイルス感染症”が発生、各医療機関におかれましても受入れ体制に苦慮されながらのお盆期間になられた

ことと思います。各医療機関のご協力に感謝いたします。

本アンケート調査に当たりましては、お忙しい中、各医療機関の皆様にご協力いただきました。誌上をもちまして感謝申し上げます。

(鈴木知己)

2. 令和2年年末年始外来患者実態調査報告

— 245 医療機関アンケート集計結果 —

令和2年12月29日(火)～令和3年1月3日(日)の期間に盛岡市内の医療機関を受診した外来患者数の調査結果を報告します。

対象医療機関は28病院、214診療所、計242件の医療機関で、アンケートの回収率は100%でした(表1)。

医療機関の診療科別診療所及び病院数を表2に、上記期間の休診状況を表3に示します。

表1. アンケート回収率(盛岡市)

	医療機関数	回収数	回収率
病院	28	28	100%
診療所	214	214	100%
合計	242	242	100%

表2. 診療科別診療所及び病院数

	診療科	医療機関数	計
診療所	内科	95	214
	外科	42	
	産婦人科	12	
	小児科	13	
	眼科	19	
	皮膚/泌尿器科	19	
	耳鼻咽喉科	12	
	その他	1	
	夜間急患診療所	1	
病院	二次救急病院	12	28
	その他の病院	16	

表3. 年年年始休診状況(241医療機関)

	12月29日 (火)	12月30日 (水)	12月31日 (木)	1月1日 (金)	1月2日 (土)	1月3日 (日)
全日診療	49	1	1	1	1	2
午前診療	25	5	0	0	0	0
休診	162	230	236	235	236	234
当番医	5	5	4	5	4	5

※盛岡市夜間急患診療所は除く

6日間の来院患者数は病院3,441人、診療所3,593人の合計7,034人となりました(表4)。過去5年間における年年年始の来院患者総数は表5をご覧ください。

表4. 病院及び診療所（令和2年12月29日～令和3年1月3日）の来院患者数（時間帯別）

月日	曜日	時刻 機関	0 AM	6 AM	9 AM	5 PM	8 PM	合計
			6 AM	9 AM	5 PM	8 PM	12 PM	
12月29日	火	病院	6	214	2,046	21	75	2,362
		診療所	1	83	1,953	52	10	2,099
		合計	7	297	3,999	73	85	4,461
12月30日	水	病院	13	13	194	32	22	274
		診療所	1	14	374	8	1	398
		合計	14	27	568	40	23	672
12月31日	木	病院	11	12	153	27	40	243
		診療所	0	5	328	7	5	345
		合計	11	17	481	34	45	588
1月1日	金	病院	13	14	144	21	23	215
		診療所	0	4	299	4	3	310
		合計	13	18	443	25	26	525
1月2日	土	病院	24	12	133	25	16	210
		診療所	1	8	223	5	3	240
		合計	25	20	356	30	19	450
1月3日	日	病院	13	17	72	15	20	137
		診療所	0	15	180	3	3	201
		合計	13	32	252	18	23	338
総計		病院	80	282	2,742	141	196	3,441
		診療所	3	129	3,357	79	25	3,593
		総計	83	411	6,099	220	221	7,034

(人)

表5. 過去5年間における年末年始来院患者総数の比較

年度 月日	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
12月28日	未調査	未調査	未調査	8,744 (土)	未調査
12月29日	6,344 (木)	5,119 (金)	2,178 (土)	1,159 (日)	4,461 (火)
12月30日	1,472 (金)	1,260 (土)	825 (日)	1,752 (月)	672 (水)
12月31日	992 (土)	821 (日)	980 (月)	1,085 (火)	588 (木)
1月1日	678 (日)	822 (月)	662 (火)	932 (水)	525 (金)
1月2日	1,091 (月)	1,059 (火)	842 (水)	893 (木)	450 (土)
1月3日	833 (火)	966 (水)	867 (木)	1,093 (金)	338 (日)
1月4日	未調査	未調査	未調査	6,879 (土)	未調査
計	11,410	11,410	6,354	22,537	7,034

(人)

表6. 夜間急患診療所来院患者数

月日 時間帯	12月29日(火)	12月30日(水)	12月31日(木)	1月1日(金)	1月2日(土)	1月3日(日)	計
午後7時 ～ 午後8時	2	5	3	1	3	1	15
午後8時 ～ 午後11時30分	9	1	5	3	2	3	23
計	11	6	8	4	5	4	38

(人)

夜間急患診療所の来院患者数は6日間で総数38人（昨年309人）となり、例年と比較すると大幅な減少となりました（表6）。

表7. 夜間診療時間（8：00P.M.～12：00P.M.）の来院患者数 ()内%

	12月29日(火)	12月30日(水)	12月31日(木)	1月1日(金)	1月2日(土)	1月3日(日)	計
二次救急病院 (医大を除く)	13 (15.3)	17 (73.9)	16 (35.6)	15 (57.7)	10 (52.6)	8 (34.8)	79 (35.7)
岩手医大附属病院 (矢巾)	62 (72.9)	5 (21.7)	24 (53.3)	8 (30.8)	6 (31.6)	12 (52.2)	117 (52.9)
その他の病院	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
診療所	1 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.3)	0 (0.0)	2 (0.9)
夜間急患診療所 (8:00～11:30)	9 (10.6)	1 (4.3)	5 (11.1)	3 (11.5)	2 (10.5)	3 (13.0)	23 (10.4)
計	85 (100)	23 (100)	45 (100)	26 (100)	19 (100)	23 (100)	221 (100)

(人)

表8. 二次救急病院各病院別来院患者数 ()内%

	12月29日(火)	12月30日(水)	12月31日(木)	1月1日(金)	1月2日(土)	1月3日(日)	合計
岩手医科大学	798 (62.1)	50 (25.4)	74 (35.2)	46 (25.6)	46 (26.6)	40 (30.1)	1,054 (48.4)
岩手県立中央病院	43 (3.3)	78 (39.6)	59 (28.1)	65 (36.1)	55 (31.8)	51 (38.3)	351 (16.1)
盛岡赤十字病院	27 (2.1)	22 (11.2)	32 (15.2)	26 (14.4)	23 (13.3)	13 (9.8)	143 (6.6)
盛岡市立病院	11 (0.9)	6 (3.0)	15 (7.1)	11 (6.1)	11 (6.4)	3 (2.3)	57 (2.6)
遠山病院	4 (0.3)	2 (1.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	2 (1.2)	0 (0.0)	10 (0.5)
高松病院	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)
栃内病院	139 (10.8)	4 (2.0)	5 (2.4)	5 (2.8)	9 (5.2)	2 (1.5)	164 (7.5)
盛岡つなぎ温泉病院	79 (6.1)	5 (2.5)	3 (1.4)	3 (1.7)	3 (1.7)	2 (1.5)	95 (4.4)
盛岡友愛病院	172 (2.0)	4 (1.0)	5 (4.0)	1 (2.0)	5 (1.0)	5 (3.8)	192 (8.8)
川久保病院	0 (0.0)	4 (0.0)	6 (3.0)	5 (0.0)	6 (0.0)	1 (0.8)	22 (1.0)
国立病院機構盛岡医療センター	0 (1.0)	0 (1.0)	0 (0.0)	0 (1.0)	0 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
八角病院	12 (0.9)	22 (11.2)	8 (3.8)	18 (10.0)	13 (7.5)	16 (12.0)	89 (4.1)
合計	1,285	197	210	180	173	133	2,178

(人)

表9. 二次救急病院来院患者数

月日	時間	AM 0 }	AM 6 }	AM 9 }	PM 5 }	PM 8 }	合計
		AM 6	AM 9	PM 5	PM 8	PM 12	
12月29日(火)		6	189	998	17	75	1,285
12月30日(水)		13	13	117	32	22	197
12月31日(木)		11	12	120	27	40	210
1月1日(金)		13	14	110	20	23	180
1月2日(土)		24	12	96	25	16	173
1月3日(日)		13	16	69	15	20	133
合計		80	256	1,510	136	196	2,178

(人)

夜間診療時間帯の来院患者数は6日間で221人（昨年376人）、岩手医大附属病院（矢巾）が117人（昨年57人）、二次救急病院（医大除く）が79人（昨年156人）でした（表7）。

二次救急病院の全時間帯における来院総数は2,178人（昨年2,370人）で、そのうち岩手医大附属病院は48.4%を占める結果となりました（表8）。

二次救急病院の来院患者数2,178人のうち、最も受診が多かった受診時間帯は午前9時～午後5時の間でした（表9）。

岩手県高度救命救急センター（3次）の来院患者数は52人（昨年73人）でした。最も受診が多かった時間帯は午前9時～午後5時の22人でした（表10）。病院受診者が2,387名と最も多く、続いて内科受診者が1,296名でした（図1）。日付別では12月29日が病院、診療所とも来院患者数が最も多かったです（図2）。

表10. 岩手県高度救命救急センター来院患者数（3次）

月日	時間	AM 0	AM 6	AM 9	PM 5	PM 8	合 計
		AM 6	AM 9	PM 5	PM 8	PM 12	
12月29日(火)					1	2	3
12月30日(水)		1		5	1	2	9
12月31日(木)		2		5	1	1	9
1月1日(金)		2	1	6	1	3	13
1月2日(土)		3	1	3	1	4	12
1月3日(日)			3	3			6
合 計		8	5	22	5	12	52

(人)

図1. 病院（医大、その他病院）診療所（診療科別）来院患者数

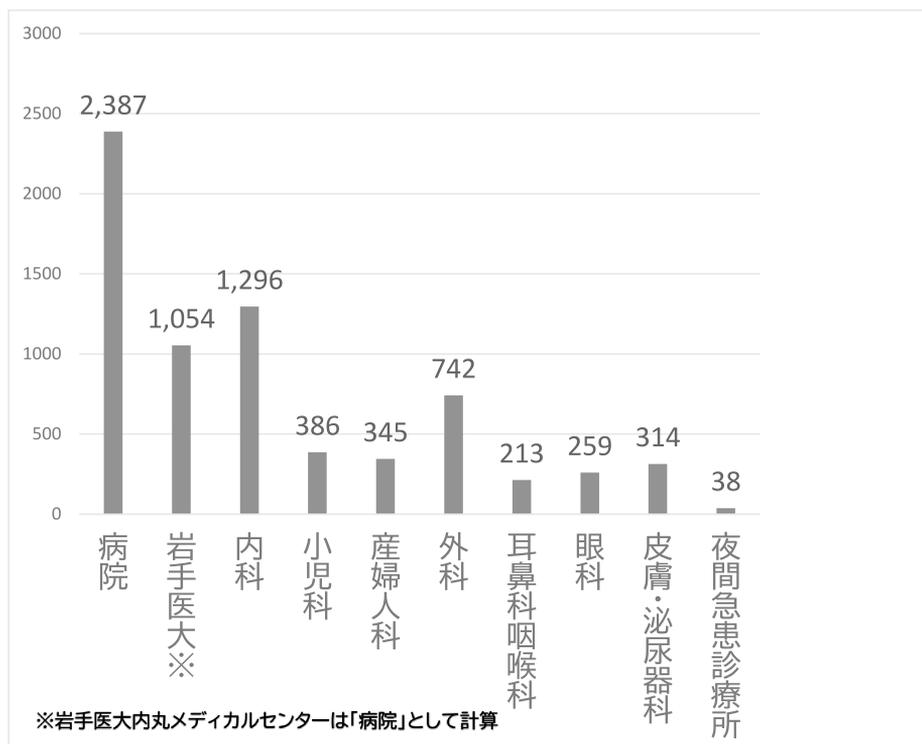


図2. 病院および診療所来院患者数

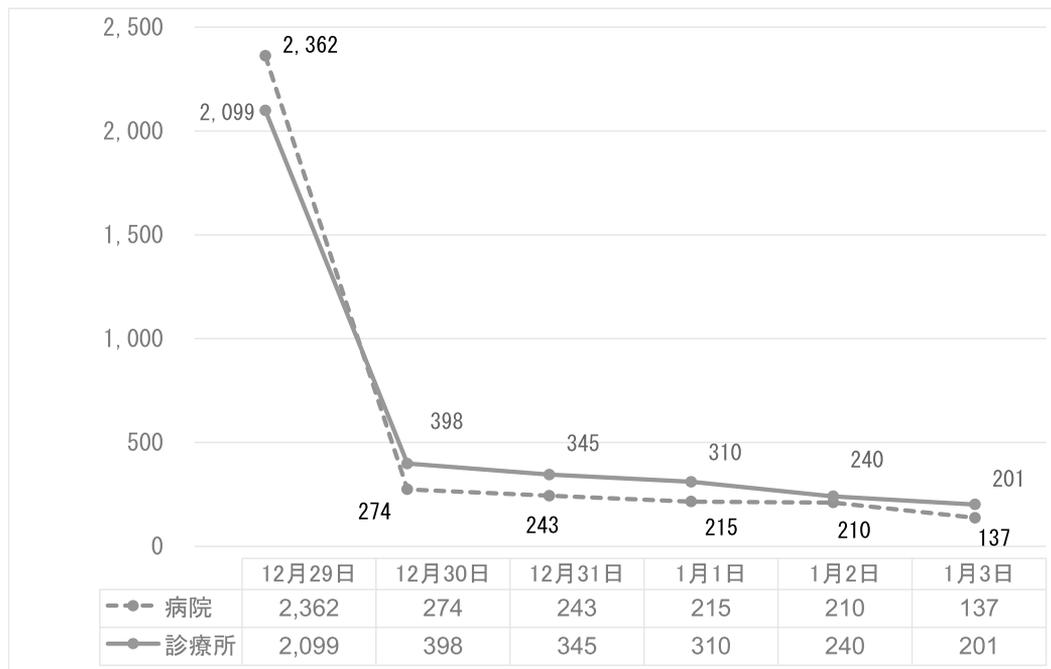


表11. 夜間診療時間（午後8時～午前0時）の来院患者数

	12月29日(火)	12月30日(水)	12月31日(木)	1月1日(金)	1月2日(土)	1月3日(日)	計
岩手医大附属病院(矢巾)	62	5	24	8	6	12	117
二次救急病院	13	17	16	15	10	8	79
診療所	1	0	0	0	1	0	2
その他病院	0	0	0	0	0	0	0
夜間急患診療所	9	1	5	3	2	3	23
合計	85	23	45	26	19	23	221

(人)

夜間診療時間帯（午後8時～午前0時）の来院患者数をみると、岩手医大と二次救急病院で8割強の患者を診ていただきました（表11）。

深夜（午前0時～午前6時）の来院患者数をみると、6日間全て、岩手医大と二次救急病院で9割以上の患者を診ていただきました（表12）。

表12. 深夜（午前0時～午前6時）の来院患者数

	12月29日(火)	12月30日(水)	12月31日(木)	1月1日(金)	1月2日(土)	1月3日(日)	計
岩手医大附属病院（矢巾）	2	6	4	2	5	3	22
二次救急病院	4	7	7	11	19	10	58
診療所	1	1	0	0	1	0	3
その他病院	0	0	0	0	0	0	0
夜間急患診療所	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	14	11	13	25	13	83

(人)

以上が令和2年、3年年末年始の外来患者実態調査の結果となります。

岩手医大附属病院が矢巾に移転し2年目の調査となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、大幅な患者数減となった年末年始でした。

また、二次救急病院におかれましては、新型コロナウイルス感染症の近隣地域での発生などにより、受入れ体制の規制や感染予防対策に注意しながらの対応に大変苦慮されたのではないかと考えられます。本紙面をお借りし

て感謝申し上げます。

今後、医療従事者への新型コロナウイルスワクチン接種も予定されておりますが、今後も事態を注視しつつ、圏域の医療体制をしっかりと堅持していくことが益々重要となりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

本アンケートはお陰様で毎回100%の回収率となっております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(鈴木知己)

Ⅳ 盛岡地区二次救急医療体制 41年目のあゆみ

盛岡地区二次救急医療対策委員会

1. 実態報告

令和2年（2020年）の二次救急医療体制について、表1から表3に示すような当番表と各病院の割当回数と日程により行われた。4月より高松病院が二次救急病院群輪番制から辞退されたため、11病院での運営となった。また小児救急病群輪番制から、岩手医科大が6月より新型コロナウイルス感染症対策のため離脱し、3病院で運営された。二次救急については表4に、小児救急については表5のような内容で報告された。表6には各病院別、月別の患者数と総数を示す。図2に総数の過去3年を比較したグラフを示す。

2019年12月に中国で報告された新型コロナウイルス感染症は、瞬く間にパンデミックとなり、2020年1月28日には日本でも指定感染症に指定された。同年2月のクルーズ船のクラスター発生から始まり、以来感染爆発を繰り返した。この影響により、2020年の二次救急受診患者は3月より著しい減少を示し、総数は35,035名と前年に比較して13,357名、28%減少した。内訳では、外来受診のみ患者が27,986名、前年比で12,682名、31%減少していた。入院を要した患者は7,049名、前年比で675名、8%の減少であった。救急車搬送数も7,760人で、前年より848人、10%減であった（表22）。感染予防が徹底されたことから、冬季のインフルエンザなど感染症の発生も少なくなったことや、生活様式の変化により軽症外傷などが減少したためと思われる。また入院を要した患者の減少率は、全国の急性期病院の入院患者の減少平均10%とほぼ一致する。

表1

二次救急病院当番表

令和2年 6月		1月	2火	3水	4木	5金	6土	7日	8月	9火	10水	11木	12金	13土	14日	15月	16火	17水	18木	19金	20土	21日	22月	23火	24水	25木	26金	27土	28日	29月	30火	
二	県立中央病院	日直					※内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循						
	宿直	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循	内外脳循
次	盛岡市立病院	日直					※内外	内外						※外	内外						※内外	内外						※外	外			
	宿直	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外	内外
救	盛岡赤十字病院	日直					※消外産	消外産						※消外産	消外産						※消外産	消外産						※消外産	消外産			
	宿直	外産	耳産	整産	内産	放外産	循産	内産	内脳産	整産	泌産	循産	外産	耳産	循泌産	外産	内産	消整産	外産	呼産	整産	消産	外産	内脳産	泌産	整産	循外産	耳産	泌産	循産	外産	
急	若手医大	日直						内外小歯						※内外小歯	内外小歯						※内外小歯	内外小歯						内外小歯	内外小歯			
	宿直	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯	内外小歯
病	遠山病院	日直						内						内							内							内				
	宿直	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内
院	内務院	日直					形成							形成							内							形成				
	宿直	整脳	整整	整整	形成	形成	整整	整整	整整	整整	内	形成	形成	整脳	整整	内	内	内	内	整整	整整	整整	整整	整整	整整	整整	内	形成	整整	整整	整整	
受	盛岡つなぎ病院	日直						内						内							内							内				
	宿直	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内
最	盛岡友愛病院	日直						内						内							整							内				
	宿直	外	内	整	整	外	神	内	内	内	整	整	泌	内	内	外	内	外	整	神	内	整	内	内	整	整	内	外	内	外	内	
終	川久保病院	日直						外						小							外							小				
	宿直	内	内	内	小	内	内	小	内	眼	内	内	内	小	内	内	小	内	内	内	内	内	内	内	内	眼	内	内	小	眼	内	
入	盛岡医療センター	日直					※整	整						※整	整						※整	内						※整	整			
	宿直	内	整	内	内	内	整	整	整	内	内	内	整	整	整	整	内	内	内	内	整	内	整	内	内	内	内	整	整	整	整	内
院	八角病院	日直						内						内							外							内				
	宿直	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	外	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内
受	最入病A	中	医	医	中	日	医	中	日	医	中	中	医	中	日	医	中	日	医	中	医	医	中	日	医	中	日	医	中	中	医	
	最入病B	央友	大つな	大川久保	央遠山	赤市立	大橋内立	央国角	赤八	大友愛	央つな	大川久保	大遠山	赤市立	大橋内立	央国角	赤市立	大橋内立	央国角	赤市立	大橋内立	大遠山	赤市立	大橋内立	央国角	赤市立	大橋内立	大遠山	赤市立	大橋内立	大遠山	

【注意事項】

- 各病院の当直医(診療科)が変更されることがありますので、事前に電話で確認することをおすすめします。
- ※消防署(救急隊)は患者の状況により、直近または最も適していると考えられる二次救急病院を選定して連絡を入れますので、救急隊から受入を要請された場合は可能な限り受入をお願い致します。
- 最終入院受入病院とは、急患について他の病院が受け入れられない場合、最終調整及び責任をもつ病院です。
- 小児の入院が必要と思われる場合は、小児救急入院受入病院当番表をご参照下さい。
- 令和2年4月より富松病院は二次救急病院から外れております。
- ※印は、休日体制になっておりますので、ご留意下さい。

令和2年5月25日作成

表2 令和2年二次救急医療輪番病院年間回数

区分 病院	年 末 年 始	祝 祭 日	日 曜 日	土 曜 日	平 日	年 間 回 数	総 回 数
盛岡市立病院	1	2	6	7	28	44	53
高松病院	0	0	2	2	6	10	12
盛岡つなぎ温泉病院	1	2	7	6	29	45	55
県立中央病院	3	5	19	20	96	143	170
岩手医大附属病院	2	5	21	20	94	142	170
盛岡赤十字病院	1	5	12	12	51	81	99
遠山病院	1	1	7	6	29	44	53
栃内病院	1	3	7	6	28	45	56
盛岡友愛病院	1	1	6	7	30	45	53
川久保病院	1	0	6	7	31	45	52
八角病院	0	3	4	6	31	44	51
国立盛岡医療センター	0	3	7	5	29	44	54
計	12	30	104	104	482	732	878

令和2年小児救急各病院当番コマ数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
中央	16	13	15	15	20	20	21	22	21	21	21	20	225
日赤	5	5	5	5	9	11	11	11	10	11	11	14	108
医大	16	15	15	15	7	0	0	0	0	0	0	0	68
国立盛岡	3	3	3	4	8	7	9	9	9	8	9	8	80
川久保	3	4	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
合計	43	40	41	39	44	38	41	42	40	40	41	42	491

表3 二次救急医療輪番病院及び小児救急輪番病院日程表
(令和2年1月～3月)

1月	二次救急		小児救急	
	日曜日	A	B	宿直 日直
1	水	中 央 友 愛	医 大	医 大
2	木	医 大	つ な ぎ	中 央 中 央
3	金	中 央	川 久 保	医 大 医 大
4	土	日 赤	市 立	中 央 中 央
5	日	医 大	栃 内	日 赤 日 赤
6	月	中 央	国 立	医 大
7	火	日 赤	八 角	川 久 保
8	水	医 大	高 松	国 立
9	木	中 央	友 愛	日 赤
10	金	医 大	つ な ぎ	医 大
11	土	医 大	川 久 保	中 央 中 央
12	日	中 央	遠 山	医 大 医 大
13	月	日 赤	栃 内	中 央 中 央
14	火	医 大	国 立	川 久 保
15	水	中 央	八 角	国 立
16	木	日 赤	高 松	中 央
17	金	医 大	友 愛	日 赤
18	土	中 央	つ な ぎ	医 大 医 大
19	日	中 央	川 久 保	中 央 中 央
20	月	医 大	遠 山	医 大
21	火	中 央	市 立	川 久 保
22	水	日 赤	国 立	医 大
23	木	医 大	八 角	中 央
24	金	中 央	高 松	日 赤
25	土	日 赤	友 愛	医 大 医 大
26	日	医 大	つ な ぎ	中 央 中 央
27	月	中 央	川 久 保	医 大
28	火	医 大	遠 山	中 央
29	水	医 大	市 立	国 立
30	木	中 央	栃 内	医 大
31	金	日 赤	八 角	中 央

医 大 16
中 央 16
日 赤 5
国 立 3
川 久 保 3
合 計 43

2月	二次救急		小児救急	
	日曜日	A	B	宿直 日直
1	土	医 大	高 松	中 央 中 央
2	日	中 央	友 愛	医 大 医 大
3	月	日 赤	川 久 保	中 央
4	火	医 大	つ な ぎ	川 久 保
5	水	中 央	遠 山	日 赤
6	木	中 央	市 立	医 大
7	金	医 大	栃 内	中 央
8	土	中 央	国 立	医 大 医 大
9	日	日 赤	高 松	中 央 中 央
10	月	医 大	友 愛	日 赤
11	火	中 央	つ な ぎ	川 久 保 川 久 保
12	水	日 赤	川 久 保	国 立
13	木	医 大	遠 山	中 央
14	金	中 央	市 立	医 大
15	土	医 大	栃 内	中 央 中 央
16	日	医 大	国 立	医 大 医 大
17	月	中 央	八 角	日 赤
18	火	日 赤	友 愛	川 久 保
19	水	医 大	つ な ぎ	国 立
20	木	中 央	川 久 保	医 大
21	金	日 赤	遠 山	医 大
22	土	医 大	市 立	中 央 中 央
23	日	中 央	栃 内	日 赤 日 赤
24	月	中 央	国 立	医 大 医 大
25	火	医 大	八 角	中 央
26	水	中 央	高 松	国 立
27	木	日 赤	つ な ぎ	医 大
28	金	医 大	川 久 保	中 央
29	土	中 央	遠 山	医 大 医 大

医 大 15
中 央 13
日 赤 5
国 立 3
川 久 保 4
合 計 40

3月	二次救急		小児救急	
	日曜日	A	B	宿直 日直
1	日	日 赤	市 立	中 央 中 央
2	月	医 大	栃 内	日 赤
3	火	中 央	国 立	川 久 保
4	水	医 大	八 角	国 立
5	木	医 大	高 松	中 央
6	金	中 央	友 愛	医 大
7	土	日 赤	川 久 保	医 大 医 大
8	日	医 大	遠 山	医 大 医 大
9	月	中 央	市 立	医 大
10	火	日 赤	栃 内	川 久 保
11	水	医 大	国 立	中 央
12	木	中 央	八 角	医 大
13	金	中 央	高 松	日 赤
14	土	医 大	友 愛	中 央 中 央
15	日	中 央	つ な ぎ	日 赤 日 赤
16	月	日 赤	遠 山	中 央
17	火	医 大	市 立	川 久 保
18	水	中 央	栃 内	国 立
19	木	日 赤	国 立	医 大
20	金	医 大	八 角	中 央 中 央
21	土	中 央	高 松	医 大 医 大
22	日	医 大	友 愛	中 央 中 央
23	月	医 大	つ な ぎ	中 央
24	火	中 央	川 久 保	医 大
25	水	日 赤	市 立	国 立
26	木	医 大	栃 内	中 央
27	金	中 央	国 立	日 赤
28	土	日 赤	八 角	医 大 医 大
29	日	医 大	高 松	中 央 中 央
30	月	中 央	友 愛	医 大
31	火	中 央	つ な ぎ	医 大

医 大 15
中 央 15
日 赤 5
国 立 3
川 久 保 3
合 計 41

(令和2年4月～6月)

4月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	水	医大	川久保	国立	
2	木	中央	遠山	医大	
3	金	日赤	栃内	中央	
4	土	医大	国立	医大	医大
5	日	中央	八角	日赤	日赤
6	月	日赤	友愛	医大	
7	火	医大	つなぎ	日赤	
8	水	中央	川久保	医大	
9	木	医大	遠山	中央	
10	金	医大	市立	中央	
11	土	中央	栃内	中央	医大
12	日	日赤	国立	中央	中央
13	月	医大	八角	中央	
14	火	中央	友愛	日赤	
15	水	日赤	つなぎ	国立	
16	木	医大	川久保	中央	
17	金	中央	遠山	医大	
18	土	中央	市立	医大	医大
19	日	医大	栃内	中央	中央
20	月	中央	国立	医大	
21	火	日赤	八角	中央	
22	水	医大	友愛	医大	
23	木	中央	つなぎ	中央	
24	金	日赤	川久保	医大	
25	土	医大	遠山	中央	中央
26	日	中央	市立	医大	医大
27	月	医大	栃内	日赤	
28	火	医大	国立	国立	
29	水	中央	八角	国立	国立
30	木	日赤	友愛	中央	

5月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	金	医大	つなぎ	中央	
2	土	中央	川久保	医大	医大
3	日	日赤	遠山	中央	中央
4	月	医大	市立	日赤	日赤
5	火	中央	国立	医大	医大
6	水	中央	栃内	国立	国立
7	木	医大	八角	中央	
8	金	中央	友愛	医大	
9	土	日赤	つなぎ	医大	医大
10	日	医大	川久保	中央	中央
11	月	中央	遠山	日赤	
12	火	日赤	市立	中央	
13	水	医大	栃内	国立	
14	木	中央	国立	中央	
15	金	医大	八角	日赤	中央
16	土	医大	友愛	中央	中央
17	日	中央	つなぎ	日赤	日赤
18	月	日赤	川久保	中央	
19	火	医大	遠山	日赤	
20	水	中央	市立	国立	
21	木	日赤	栃内	国立	
22	金	医大	国立	中央	
23	土	中央	八角	国立	国立
24	日	中央	友愛	中央	中央
25	月	医大	つなぎ	日赤	
26	火	中央	川久保	国立	
27	水	日赤	遠山	中央	
28	木	医大	市立	中央	
29	金	中央	栃内	日赤	
30	土	日赤	国立	中央	中央
31	日	医大	八角	中央	中央

6月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	月	中央	友愛	日赤	赤
2	火	医大	つなぎ	中央	中央
3	水	医大	川久保	国立	国立
4	木	中央	遠山	日赤	
5	金	日赤	市立	国立	国立
6	土	中央	栃内	中央	中央
7	日	中央	国立	日赤	日赤
8	月	日赤	八角	中央	
9	火	医大	友愛	中央	
10	水	中央	つなぎ	国立	国立
11	木	中央	川久保	日赤	
12	金	医大	遠山	中央	
13	土	中央	市立	国立	国立
14	日	日赤	栃内	中央	中央
15	月	医大	国立	日赤	赤
16	火	中央	八角	中央	中央
17	水	日赤	友愛	国立	国立
18	木	医大	つなぎ	中央	
19	金	中央	川久保	日赤	赤
20	土	医大	遠山	中央	中央
21	日	医大	市立	中央	中央
22	月	中央	栃内	国立	
23	火	日赤	国立	中央	
24	水	医大	八角	中央	
25	木	中央	友愛	日赤	赤
26	金	日赤	つなぎ	中央	
27	土	医大	川久保	日赤	日赤
28	日	中央	遠山	中央	中央
29	月	中央	市立	日赤	
30	火	医大	栃内	中央	

医大 15
 中央 15
 日赤 5
 国立 4
 合計 39

医大 7
 中央 20
 日赤 9
 国立 8
 合計 44

中央 20
 日赤 11
 国立 7
 合計 38

(令和2年7月～9月)

7月	二次救急			小児救急	
	日曜日	A	B	宿直	日直
1	水	中央	八角	国立	
2	木	日赤	国立	中央	
3	金	医大	友愛	中央	
4	土	中央	つなぎ	日赤	日赤
5	日	日赤	川久保	国立	国立
6	月	医大	遠山	中央	
7	火	中央	市立	日赤	
8	水	医大	栃内	国立	
9	木	医大	国立	中央	
10	金	中央	八角	日赤	
11	土	日赤	友愛	中央	中央
12	日	医大	つなぎ	中央	中央
13	月	中央	川久保	国立	
14	火	日赤	遠山	中央	
15	水	医大	市立	国立	
16	木	中央	栃内	日赤	
17	金	中央	国立	中央	
18	土	医大	八角	中央	中央
19	日	中央	友愛	日赤	日赤
20	月	日赤	つなぎ	中央	
21	火	医大	川久保	日赤	
22	水	中央	遠山	中央	
23	木	日赤	市立	国立	国立
24	金	医大	栃内	中央	中央
25	土	中央	国立	日赤	日赤
26	日	医大	八角	中央	中央
27	月	医大	友愛	日赤	
28	火	中央	つなぎ	中央	
29	水	日赤	川久保	国立	
30	木	医大	遠山	中央	
31	金	中央	市立	中央	

中央 21
日赤 11
国立 9
合計 41

8月	二次救急			小児救急	
	日曜日	A	B	宿直	日直
1	土	日赤	栃内	国立	国立
2	日	医大	国立	中央	中央
3	月	中央	八角	日赤	
4	火	医大	友愛	中央	
5	水	中央	つなぎ	国立	
6	木	中央	川久保	日赤	
7	金	日赤	遠山	国立	
8	土	医大	市立	中央	中央
9	日	中央	栃内	日赤	中央
10	月	日赤	国立	中央	中央
11	火	医大	八角	中央	
12	水	中央	友愛	国立	
13	木	医大	つなぎ	中央	
14	金	中央	川久保	日赤	
15	土	中央	遠山	国立	国立
16	日	日赤	市立	中央	中央
17	月	医大	栃内	中央	
18	火	中央	国立	日赤	
19	水	日赤	八角	国立	
20	木	医大	友愛	中央	
21	金	中央	つなぎ	日赤	
22	土	中央	川久保	中央	中央
23	日	医大	遠山	中央	中央
24	月	中央	市立	日赤	
25	火	日赤	栃内	中央	
26	水	医大	八角	国立	
27	木	中央	国立	日赤	
28	金	日赤	友愛	中央	
29	土	医大	つなぎ	中央	中央
30	日	中央	川久保	日赤	日赤
31	月	医大	遠山	中央	

中央 22
日赤 11
国立 9
合計 42

9月	二次救急			小児救急	
	日曜日	A	B	宿直	日直
1	火	医大	市立	日赤	
2	水	中央	栃内	国立	
3	木	日赤	国立	中央	
4	金	医大	友愛	中央	
5	土	中央	八角	国立	国立
6	日	日赤	つなぎ	中央	中央
7	月	中央	川久保	日赤	
8	火	医大	遠山	中央	
9	水	中央	市立	国立	
10	木	医大	栃内	中央	
11	金	中央	国立	日赤	
12	土	日赤	八角	中央	中央
13	日	医大	友愛	中央	中央
14	月	中央	つなぎ	日赤	
15	火	日赤	川久保	中央	
16	水	医大	遠山	日赤	
17	木	中央	市立	国立	
18	金	医大	栃内	中央	
19	土	医大	国立	中央	中央
20	日	中央	八角	日赤	日赤
21	月	日赤	友愛	国立	国立
22	火	医大	つなぎ	中央	中央
23	水	中央	川久保	国立	
24	木	日赤	遠山	中央	
25	金	医大	市立	中央	
26	土	中央	栃内	日赤	日赤
27	日	医大	国立	中央	中央
28	月	中央	八角	日赤	
29	火	中央	友愛	国立	
30	水	日赤	つなぎ	中央	

中央 21
日赤 10
国立 9
合計 40

(令和2年10月～12月)

10月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	木	中 央	川久保	日 赤	
2	金	医 大	遠 山	中 央	
3	土	日 赤	市 立	国 立	国 立
4	日	医 大	栃 内	中 央	中 央
5	月	中 央	国 立	日 赤	
6	火	医 大	八 角	中 央	
7	水	医 大	友 愛	国 立	
8	木	中 央	つなぎ	日 赤	
9	金	日 赤	川久保	国 立	
10	土	医 大	遠 山	中 央	中 央
11	日	日 赤	市 立	中 央	中 央
12	月	中 央	栃 内	日 赤	
13	火	医 大	国 立	中 央	
14	水	中 央	八 角	国 立	
15	木	中 央	友 愛	日 赤	
16	金	医 大	つなぎ	中 央	
17	土	中 央	川久保	日 赤	日 赤
18	日	日 赤	遠 山	中 央	中 央
19	月	中 央	市 立	日 赤	
20	火	医 大	国 立	中 央	
21	水	日 赤	栃 内	国 立	
22	木	医 大	八 角	中 央	
23	金	中 央	友 愛	国 立	
24	土	医 大	つなぎ	中 央	中 央
25	日	医 大	川久保	日 赤	日 赤
26	月	医 大	遠 山	中 央	
27	火	日 赤	市 立	国 立	
28	水	医 大	栃 内	中 央	
29	木	中 央	国 立	日 赤	
30	金	日 赤	八 角	中 央	
31	土	医 大	友 愛	中 央	中 央

中 央 21
日 赤 11
国 立 8
合 計 40

11月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	日	中 央	つなぎ	日 赤	日 赤
2	月	中 央	川久保	中 央	
3	火	医 大	遠 山	中 央	中 央
4	水	中 央	市 立	国 立	
5	木	日 赤	栃 内	中 央	
6	金	医 大	国 立	日 赤	
7	土	中 央	八 角	中 央	中 央
8	日	日 赤	友 愛	中 央	中 央
9	月	医 大	つなぎ	日 赤	
10	火	医 大	川久保	中 央	
11	水	中 央	遠 山	国 立	
12	木	医 大	市 立	中 央	
13	金	中 央	栃 内	日 赤	
14	土	日 赤	八 角	国 立	国 立
15	日	中 央	国 立	日 赤	中 央
16	月	中 央	友 愛	日 赤	
17	火	日 赤	つなぎ	中 央	
18	水	医 大	川久保	国 立	
19	木	中 央	遠 山	日 赤	
20	金	中 央	市 立	国 立	
21	土	医 大	栃 内	中 央	中 央
22	日	中 央	国 立	日 赤	日 赤
23	月	日 赤	八 角	中 央	中 央
24	火	医 大	友 愛	日 赤	
25	水	中 央	つなぎ	国 立	
26	木	日 赤	川久保	中 央	
27	金	医 大	遠 山	中 央	
28	土	中 央	市 立	国 立	国 立
29	日	医 大	栃 内	中 央	中 央
30	月	中 央	国 立	日 赤	

中 央 21
日 赤 11
国 立 9
合 計 41

12月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	火	医 大	八 角	中 央	
2	水	日 赤	友 愛	国 立	
3	木	医 大	つなぎ	中 央	
4	金	中 央	川久保	日 赤	
5	土	日 赤	遠 山	国 立	国 立
6	日	医 大	市 立	中 央	中 央
7	月	中 央	栃 内	中 央	
8	火	中 央	国 立	日 赤	
9	水	医 大	八 角	国 立	
10	木	中 央	友 愛	日 赤	
11	金	日 赤	つなぎ	中 央	
12	土	医 大	川久保	中 央	中 央
13	日	中 央	遠 山	日 赤	日 赤
14	月	日 赤	市 立	中 央	
15	火	医 大	栃 内	日 赤	
16	水	中 央	八 角	国 立	
17	木	医 大	友 愛	中 央	
18	金	医 大	友 愛	中 央	
19	土	中 央	つなぎ	日 赤	日 赤
20	日	日 赤	川久保	中 央	中 央
21	月	中 央	遠 山	日 赤	
22	火	医 大	市 立	中 央	
23	水	日 赤	栃 内	国 立	
24	木	医 大	国 立	中 央	
25	金	中 央	八 角	中 央	
26	土	中 央	友 愛	日 赤	日 赤
27	日	医 大	つなぎ	中 央	中 央
28	月	中 央	川久保	日 赤	
29	火	日 赤	遠 山	国 立	国 立
30	水	医 大	市 立	中 央	中 央
31	木	中 央	栃 内	日 赤	日 赤

中 央 20
日 赤 14
国 立 8
合 計 42

表 4 二次救急患者データ

月 日		1日		2日 輪番日		3日		4日 輪番日		5日 輪番日		6日		7日															
曜 日		日		月		火		水		木		金		土															
病 院 名		外 来 入 院		外 来 入 院		外 来 入 院		外 来 入 院		外 来 入 院		外 来 入 院		外 来 入 院															
		救急車	救急車																										
深夜	AM0 ~ AM6	内科系	1		1		2		1		1		2	2		1													
		外科系	1		1		2				1																		
	小児科	2																											
	産科 その他							1				1																	
時間外	AM6 ~ AM9	内科系						1		1																			
		外科系													1														
	小児科	2																											
	産科 その他								1																				
土曜日	AM9 ~ PM0	内科系																											
		外科系																											
	小児科																												
	産科 その他																												
土曜日	PM0 ~ PM5	内科系													2														
		外科系													5														
	小児科													5	2														
	産科 その他													3	1														
日祭日	AM9 ~ PM5	内科系	5																										
		外科系	4																										
	小児科	1	1																										
	産科 その他	1	1																										
時間外	PM5 ~ PM8	内科系	3					1		2					3	1													
		外科系	3				4	1	3		2	1	2		5														
	小児科			1								2	1	3															
	産科 その他	2												1															
夜間	PM8 ~ PM12	内科系		4					2		1																		
		外科系	1	1	2	2			3					6	1														
	小児科		1					1				2		5															
	産科 その他	1																											
合 計		27	0	3	1	10	0	2	0	10	0	2	0	12	0	1	0	8	0	2	0	9	0	3	0	40	0	5	0

二次救急患者（以下二次患者と略記す）データについては表4に示す通り、小児救急患者（以下小児患者と略記す）については表5に示す通りの資料を各二次救急医療輪番病院（以下二次救急病院と略記す）、小児救急輪番病院（以下小児救急病院と略記す）の各病院事務長の責任において1ヵ月分をまとめ、翌月中旬まで医師会に提出される。

表5 小児救急患者データ

月日	1日		2日		3日		4日		5日		6日 輪番日		7日 輪番日								
曜日	日		月		火		水		木		金		土								
病院名	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	
	救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		
深夜	AM0	2																			
	～																				
	AM6																				
時間外	～	2																		1	
	AM9																				
土曜日	～																				
	PM0																				
土曜日	～																5			2	
	PM5																				
日曜日	AM9	1	1																		
	～																				
	PM5																				
時間外	PM5			1									2		1		3				
	～																				
	PM8																				
時間外	～			1				1					2	1			5				
	PM12																				
合計		5	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
																		4	1	1	0
																		13	0	3	0

表6に令和2年の月別の患者数を示した。新型コロナウイルス対策としてマスク・手指消毒が徹底されたことで一般的な感染症患者も減少したと思われ、患者数では昨年(令和元年)を13,357名下回った。二次救急病院群輪番制では4月から高松病院が、また、小児救急輪番病院においては4月から川久保病院、5月途中からは岩手医大が外れたこともあり、中央病院の比率が増加している。また、図2に示すとおり、例年であれば12月にはインフルエンザの流行により患者数が増加するが、令和2年はインフルエンザの発生がみられなかったことから、11月よりも減少している。

表7には救急車搬入数を示している。中央病院が4,692件、岩手医大221件、赤十字病院は1,130件となっている。

(高度救命救急センターに搬送した例はすべて三次救急としたため、このデータには含まれていない。)

表 6 病院別・月別二次救急患者年間総数

病院名	年月												合計 (名)	月平均	比率 (%)
	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
中央病院	1,708	1,402	1,115	978	1,343	1,111	1,255	1,407	1,242	1,171	1,102	1,004	14,838	1,237	42.4
日赤病院	561	372	302	263	357	341	411	458	359	337	367	342	4,470	373	12.8
市立病院	297	225	177	106	180	174	163	219	219	146	170	148	2,224	185	6.3
遠山病院	40	5	4	11	29	31	7	5	9	13	5	10	169	14	0.5
八角病院	321	176	158	102	141	101	156	203	166	112	117	116	1,869	156	5.3
岩手医大	930	846	619	521	681	560	572	584	592	564	505	487	7,461	622	21.3
高松病院	9	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	1	0.0
栃内病院	107	35	31	31	82	47	57	48	94	48	66	63	709	59	2.0
つなぎ温泉病院	87	35	21	29	29	26	41	53	26	27	30	22	426	36	1.2
友愛病院	99	61	57	57	67	49	43	57	58	48	53	42	691	58	2.0
川久保病院	115	248	56	60	119	36	90	64	89	41	62	90	1,070	89	3.1
盛岡医療センター	68	71	67	63	112	89	87	141	107	90	96	100	1,091	91	3.1
合計	4,342	3,482	2,609	2,221	3,140	2,565	2,882	3,239	2,961	2,597	2,573	2,424	35,035	2,920	100

図 2 二次救急病院来院患者総数月別分布

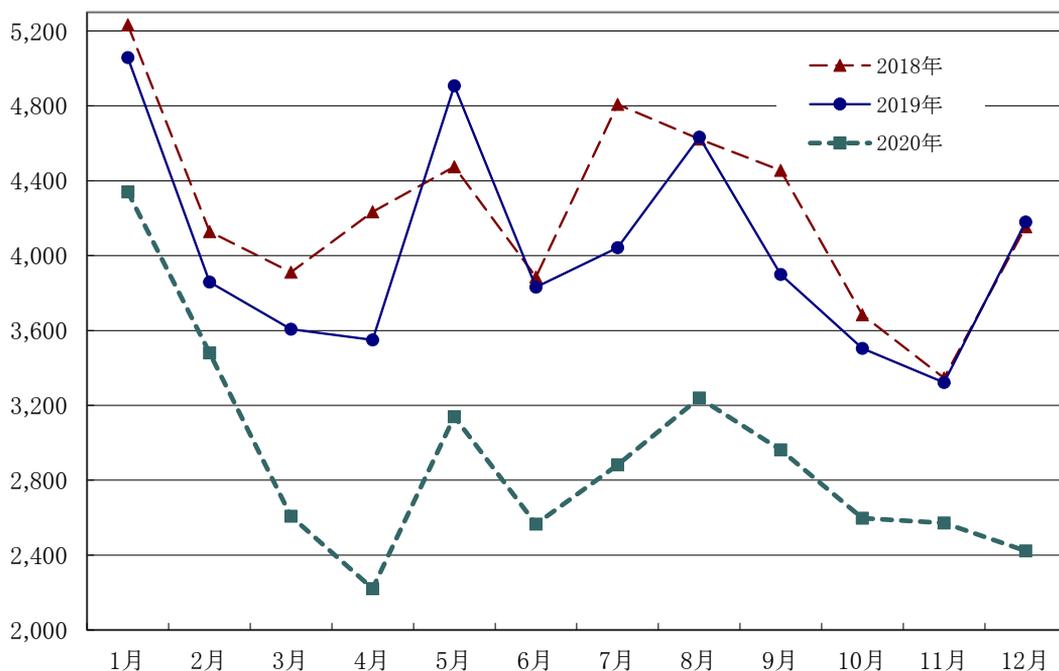


表7 二次救急病院における来院患者の実態（年間総数）

2020年1月 ～12月	外 来		入 院		うち救急車搬入		総 数
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	
中 央 病 院	11,021 ^名	39.4 [%]	3,817 ^名	54.1 [%]	4,692 ^名	60.5 [%]	14,838 ^名
日 赤 病 院	3,378	12.1	1,092	15.5	1,130	14.6	4,470
市 立 病 院	1,775	6.3	449	6.4	643	8.3	2,224
遠 山 病 院	133	0.5	36	0.5	42	0.5	169
八 角 病 院	1,764	6.3	105	1.5	159	2.0	1,869
岩 手 医 大	6,525	23.3	936	13.3	221	2.8	7,461
高 松 病 院	8	0.0	9	0.1	13	0.2	17
栃 内 病 院	635	2.3	74	1.0	119	1.5	709
つなぎ温泉病院	313	1.1	113	1.6	110	1.4	426
友 愛 病 院	611	2.2	80	1.1	168	2.2	691
川 久 保 病 院	950	3.4	120	1.7	151	1.9	1,070
盛岡医療センター	873	3.1	218	3.1	312	4.0	1,091
合 計	27,986	100	7,049	100	7,760	100	35,035

表8 二次救急病院における来院患者の実態（月平均）

2020年1月 ～12月	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	救 急 車 搬 入 患 者 数	総 計
中 央 病 院	918 ^名	318 ^名	391 ^名	1,237 ^名
日 赤 病 院	282	91	94	373
市 立 病 院	148	37	54	185
遠 山 病 院	11	3	4	14
八 角 病 院	147	9	13	156
岩 手 医 大	544	78	18	622
高 松 病 院	1	1	1	1
栃 内 病 院	53	6	10	59
つなぎ温泉病院	26	9	9	36
友 愛 病 院	51	7	14	58
川 久 保 病 院	79	10	13	89
盛岡医療センター	73	18	26	91
合 計	2,332	587	647	2,920

図3 二次救急病院における来院患者の外来・入院・救急車搬入（表7参照）

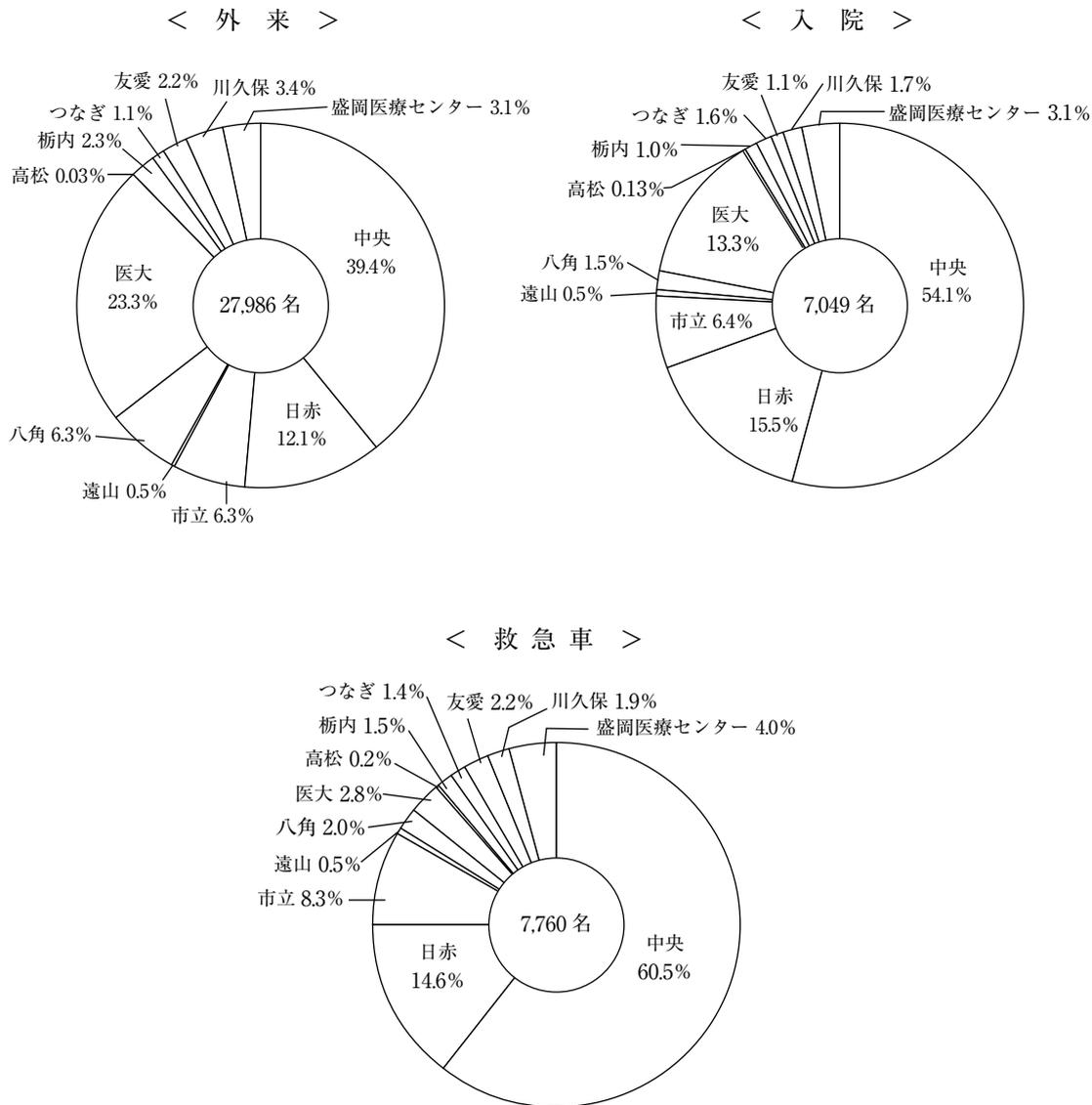


表9 二次救急病院における救急車搬入患者内訳

時間帯 (表4参照)	外 来		入 院		科 別	外 来		入 院	
	患者数	比 率	患者数	比 率		患者数	比 率	患者数	比 率
深夜	815	19.5	581	16.3	内科系	1,879	44.9	1,959	54.8
時間外A	568	13.6	484	13.5	外科系	1,739	41.5	1,342	37.6
土曜日(1)	122	2.9	134	3.8	その他	570	13.6	271	7.6
土曜日(2)	256	6.1	235	6.6	計	4,188	(100)	3,572	(100)
日祭日	544	13.0	431	12.1					
時間外B	934	22.3	929	26.0					
夜 間	949	22.7	778	21.8					
計	4,188	(100)	3,572	(100)					

図4 二次救急病院における救急車搬入内訳

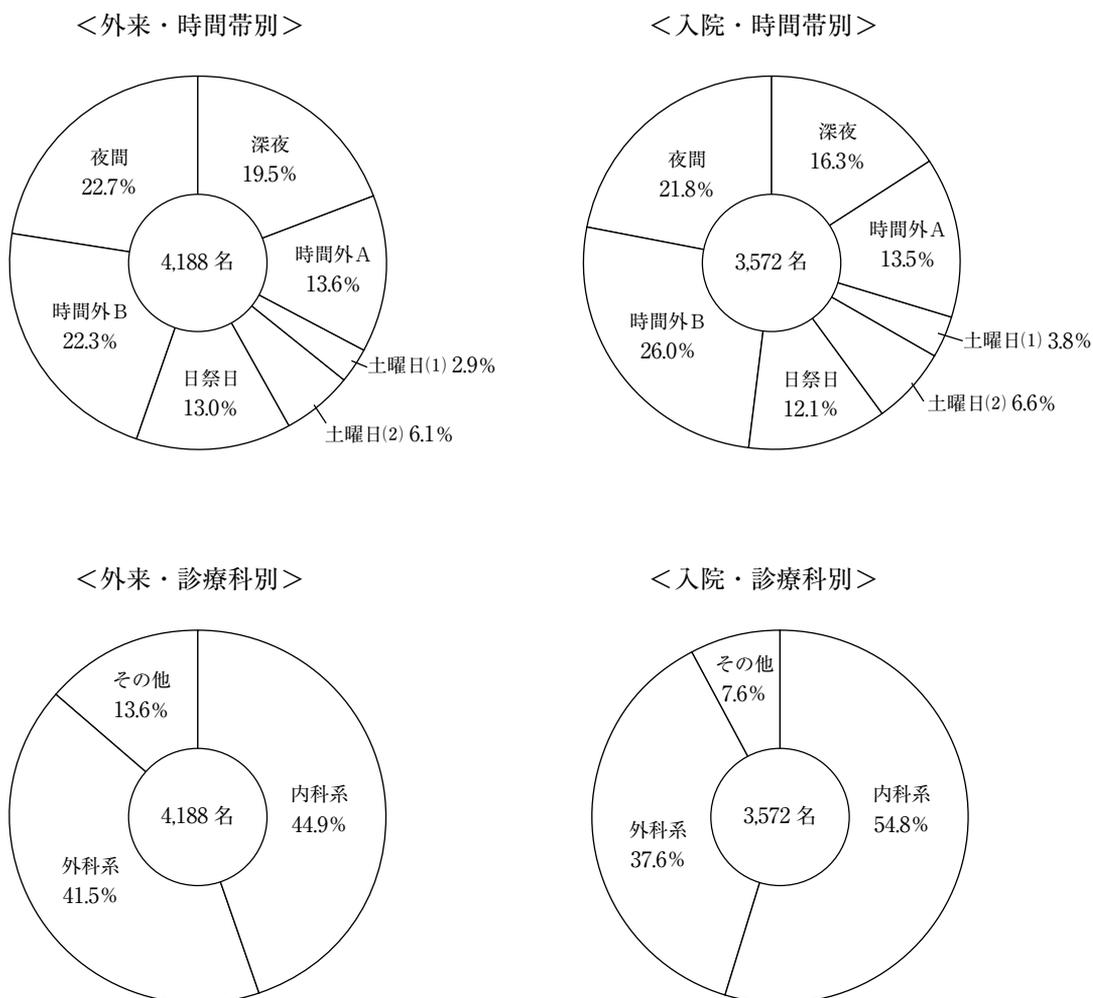
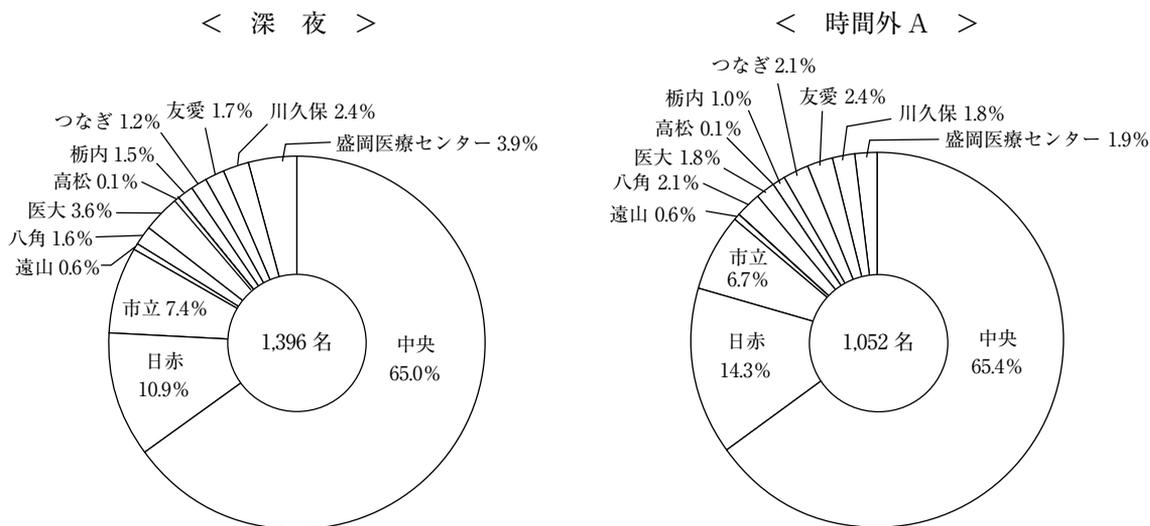


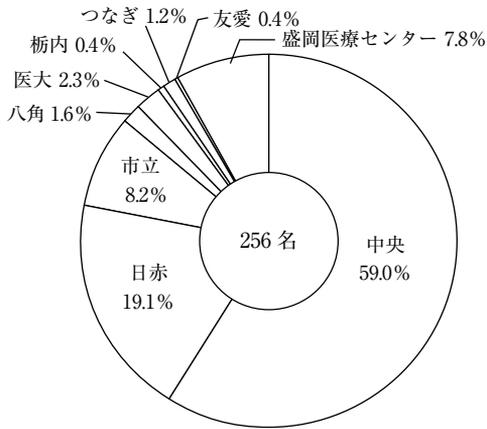
表 10 二次救急病院における病院別救急車搬入患者内訳

	深夜		時間外A		土曜日(1)		土曜日(2)		日曜日		時間外B		夜間		総合	
	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率
中央病院	907	65.0	688	65.4	151	59.0	262	53.4	546	56.0	1,082	58.1	1,056	61.1	4,692	60.5
日赤病院	152	10.9	150	14.3	49	19.1	78	15.9	195	20.0	287	15.4	219	12.7	1,130	14.6
市立病院	104	7.4	70	6.7	21	8.2	54	11.0	84	8.6	169	9.1	141	8.2	643	8.3
遠山病院	8	0.6	6	0.6	0	0.0	5	1.0	7	0.7	6	0.3	10	0.6	42	0.5
八角病院	23	1.6	22	2.1	4	1.6	9	1.8	29	3.0	29	1.6	43	2.5	159	2.0
岩手医大	50	3.6	19	1.8	6	2.3	21	4.3	17	1.7	53	2.8	55	3.2	221	2.8
高松病院	2	0.1	1	0.1	0	0.0	0	0.0	3	0.3	7	0.4	0	0.0	13	0.2
栃内病院	21	1.5	10	1.0	1	0.4	4	0.8	13	1.3	40	2.1	30	1.7	119	1.5
つなぎ温泉病院	17	1.2	22	2.1	3	1.2	6	1.2	9	0.9	29	1.6	24	1.4	110	1.4
友愛病院	24	1.7	25	2.4	1	0.4	11	2.2	18	1.8	48	2.6	41	2.4	168	2.2
川久保病院	34	2.4	19	1.8	0	0.0	11	2.2	15	1.5	35	1.9	37	2.1	151	1.9
盛岡医療センター	54	3.9	20	1.9	20	7.8	30	6.1	39	4.0	78	4.2	71	4.1	312	4.0
合計	1,396	(100)	1,052	(100)	256	(100)	491	(100)	975	(100)	1,863	(100)	1,727	(100)	7,760	(100)

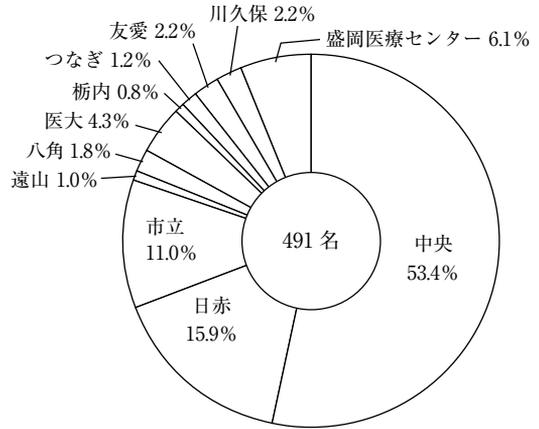
図 5 二次救急病院における病院別、時間帯毎の救急車搬入内訳



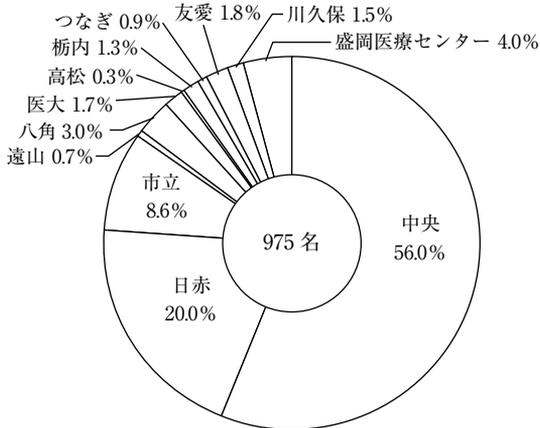
< 土曜日(1) >



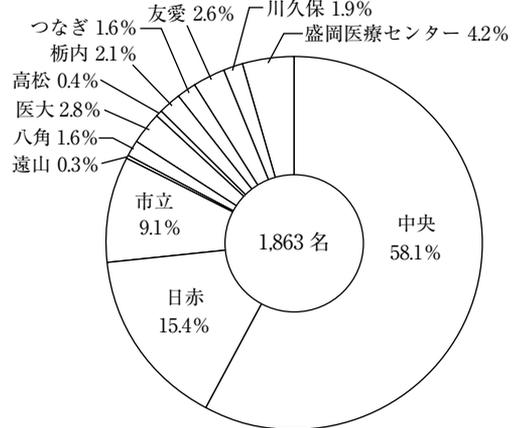
< 土曜日(2) >



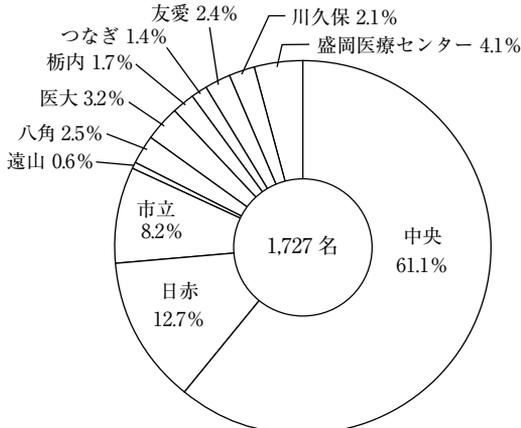
< 日祭日 >



< 時間外 B >



< 夜間 >



< 総合 >

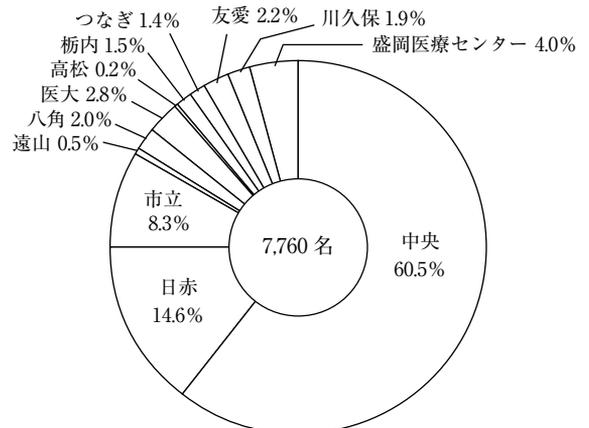


表 11 二次救急病院における外来・入院総合分布（系別による分類Ⅰ）

年間総数		総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	4,381	2,136	6,517	365.1	178.0	543.1
	外科系	4,674	1,234	5,908	389.5	102.8	492.3
	その他	1,966	447	2,413	163.8	37.3	201.1
日赤病院	内科系	929	346	1,275	77.4	28.8	106.3
	外科系	1,661	557	2,218	138.4	46.4	184.8
	その他	788	189	977	65.7	15.8	81.4
市立病院	内科系	730	242	972	60.8	20.2	81.0
	外科系	1,010	200	1,210	84.2	16.7	100.8
	その他	35	7	42	2.9	0.6	3.5
遠山病院	内科系	74	34	108	6.2	2.8	9.0
	外科系	56	2	58	4.7	0.2	4.8
	その他	3	0	3	0.3	0.0	0.3
八角病院	内科系	1,404	91	1,495	117.0	7.6	124.6
	外科系	360	14	374	30.0	1.2	31.2
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	2,496	431	2,927	208.0	35.9	243.9
	外科系	2,770	267	3,037	230.8	22.3	253.1
	その他	1,259	238	1,497	104.9	19.8	124.8
高松病院	内科系	2	3	5	0.2	0.3	0.4
	外科系	6	6	12	0.5	0.5	1.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃内病院	内科系	9	5	14	0.8	0.4	1.2
	外科系	626	69	695	52.2	5.8	57.9
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	303	112	415	25.3	9.3	34.6
	外科系	10	1	11	0.8	0.1	0.9
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	309	46	355	25.8	3.8	29.6
	外科系	137	12	149	11.4	1.0	12.4
	その他	165	22	187	13.8	1.8	15.6
川久保病院	内科系	452	111	563	37.7	9.3	46.9
	外科系	8	1	9	0.7	0.1	0.8
	その他	490	8	498	40.8	0.7	41.5
国立盛岡医療センター	内科系	119	70	189	9.9	5.8	15.8
	外科系	534	88	622	44.5	7.3	51.8
	その他	220	60	280	18.3	5.0	23.3
合 計	内科系	11,208	3,627	14,835	934.0	302.3	1,236.3
	外科系	11,852	2,451	14,303	987.7	204.3	1,191.9
	その他	4,926	971	5,897	410.5	80.9	491.4
総 合 計		27,986	7,049	35,035	2,332.2	587.4	2,919.6
				1日平均	76.7	19.3	96.0

表 12 二次救急病院における来院患者の総合分布（系別による分類Ⅱ）

病 院 名	内 科 系		外 科 系		そ の 他	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
中央病院	6,517	43.9	5,908	41.3	2,413	40.9
日赤病院	1,275	8.6	2,218	15.5	977	16.6
市立病院	972	6.6	1,210	8.5	42	0.7
遠山病院	108	0.7	58	0.4	3	0.05
八角病院	1,495	10.1	374	2.6	0	0.0
岩手医大	2,927	19.7	3,037	21.2	1,497	25.4
高松病院	5	0.03	12	0.1	0	0.0
栃内病院	14	0.1	695	4.9	0	0.0
つなぎ温泉病院	415	2.8	11	0.1	0	0.0
友愛病院	355	2.4	149	1.0	187	3.2
川久保病院	563	3.8	9	0.1	498	8.4
国立盛岡医療センター	189	1.3	622	4.3	280	4.7
合 計	14,835	(100)	14,303	(100)	5,897	(100)

図 6 二次救急医療病院における来院患者の総合分布（系別による分類）

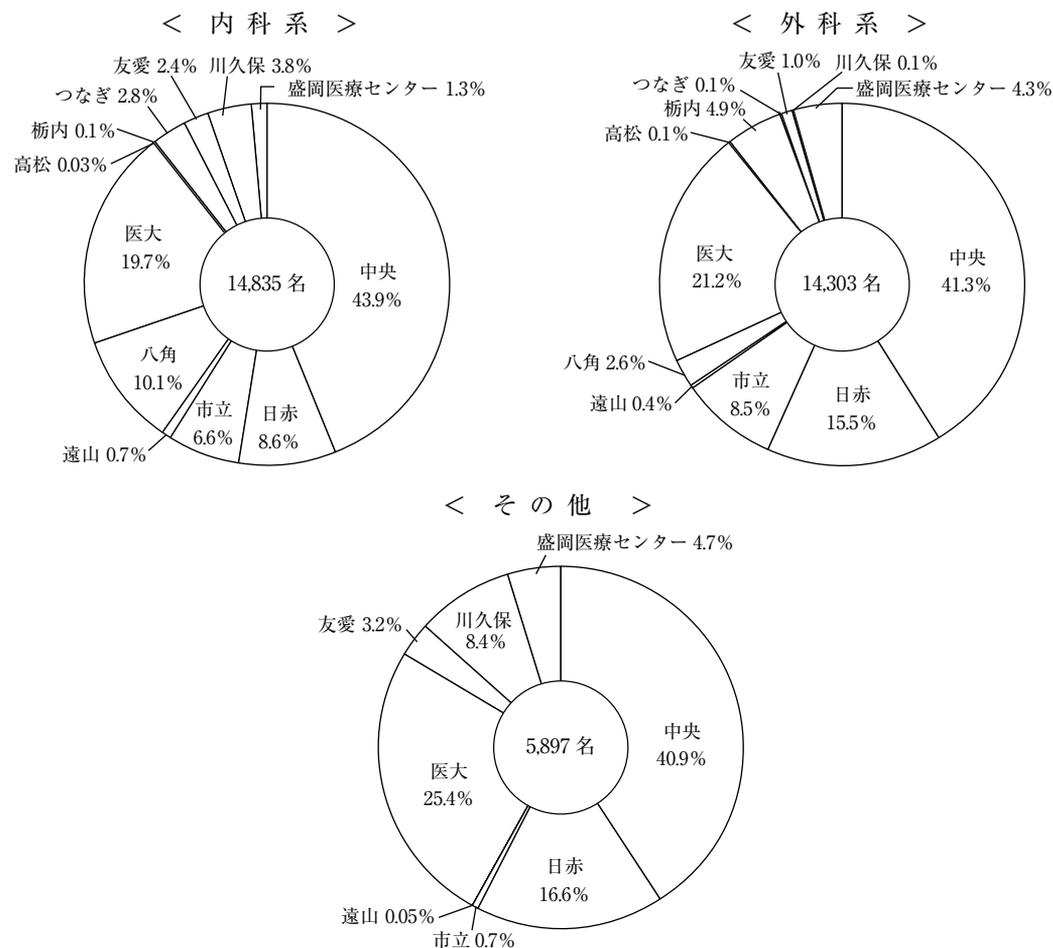


表 13 二次救急病院における来院患者の総合分布（系別による分類Ⅱ）

病 院 名	外 来						入 院					
	内 科 系		外 科 系		そ の 他		内 科 系		外 科 系		そ の 他	
	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率
中央病院	4,381	39.1	4,674	39.4	1,966	39.9	2,136	58.9	1,234	50.3	447	46.0
日赤病院	929	8.3	1,661	14.0	788	16.0	346	9.5	557	22.7	189	19.5
市立病院	730	6.5	1,010	8.5	35	0.7	242	6.7	200	8.2	7	0.7
遠山病院	74	0.7	56	0.5	3	0.06	34	0.9	2	0.1	0	0.0
八角病院	1,404	12.5	360	3.0	0	0.0	91	2.5	14	0.6	0	0.0
岩手医大	2,496	22.3	2,770	23.4	1,259	25.6	431	11.9	267	10.9	238	24.5
高松病院	2	0.02	6	0.1	0	0.0	3	0.1	6	0.2	0	0.0
栃内病院	9	0.1	626	5.3	0	0.0	5	0.1	69	2.8	0	0.0
つなぎ温泉病院	303	2.7	10	0.1	0	0.0	112	3.1	1	0.0	0	0.0
友愛病院	309	2.8	137	1.2	165	3.3	46	1.3	12	0.5	22	2.3
川久保病院	452	4.0	8	0.1	490	9.9	111	3.1	1	0.04	8	0.8
国立盛岡医療センター	119	1.1	534	4.5	220	4.5	70	1.9	88	3.6	60	6.2
合 計	11,208	(100)	11,852	(100)	4,926	(100)	3,627	(100)	2,451	(100)	971	(100)

図7 二次救急病院における来院患者の外来・入院病院別分布

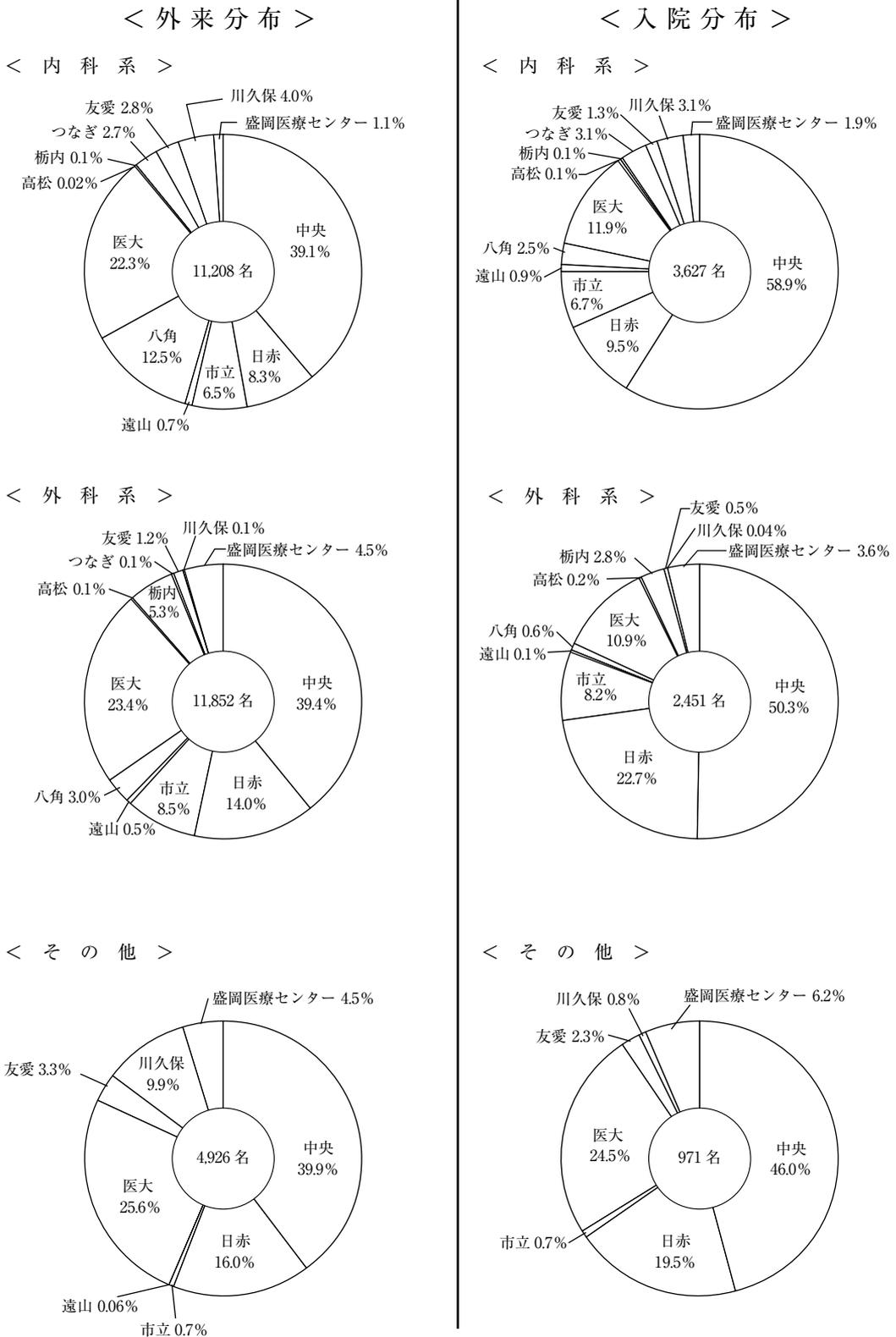


表 14 二次救急病院における来院患者の外来・入院時間別分布

		外 来		入 院	
		患 者 数	比 率	患 者 数	比 率
内 科 系	深 夜	1,510	13.5	497	13.7
	時 間 外 A	1,004	9.0	423	11.7
	土 曜 日 (1)	397	3.5	195	5.4
	土 曜 日 (2)	801	7.1	292	8.1
	日 祭 日	2,303	20.5	554	15.3
	時 間 外 B	2,633	23.5	933	25.7
	夜 間	2,560	22.8	733	20.2
	計	11,208	100	3,627	100
外 科 系	深 夜	1,006	8.5	306	12.5
	時 間 外 A	867	7.3	241	9.8
	土 曜 日 (1)	505	4.3	121	4.9
	土 曜 日 (2)	1,013	8.5	192	7.8
	日 祭 日	2,559	21.6	399	16.3
	時 間 外 B	3,131	26.4	734	29.9
	夜 間	2,771	23.4	458	18.7
	計	11,852	100	2,451	100
そ の 他	深 夜	683	13.9	184	18.9
	時 間 外 A	348	7.1	101	10.4
	土 曜 日 (1)	144	2.9	44	4.5
	土 曜 日 (2)	328	6.7	74	7.6
	日 祭 日	1,045	21.2	126	13.0
	時 間 外 B	1,115	22.6	218	22.5
	夜 間	1,263	25.6	224	23.1
	計	4,926	100	971	100
総 計		27,986		7,049	

図8 二次救急病院における来院患者の外来・入院時間別分布

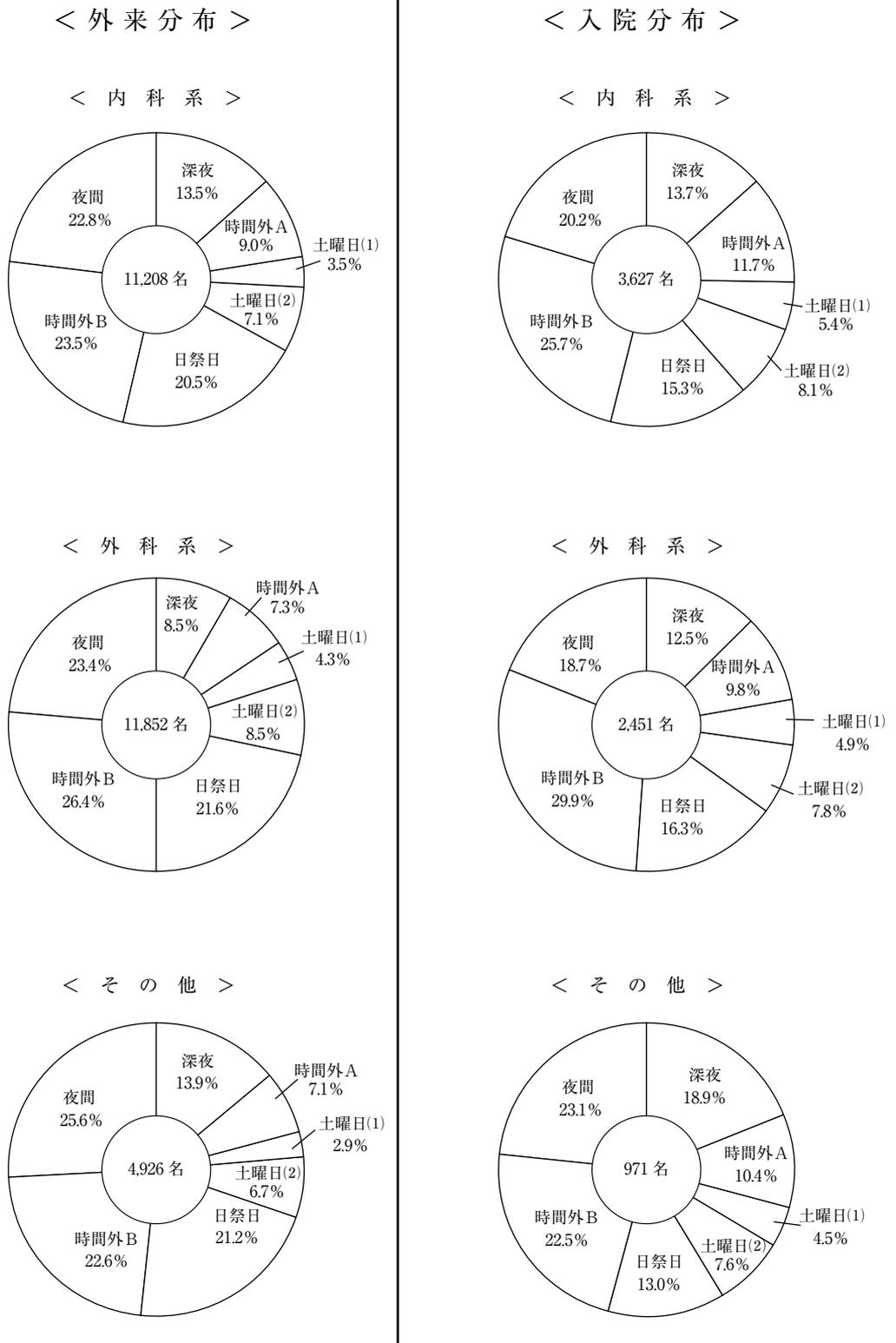


図9 二次救急病院における時間帯別外来患者比率

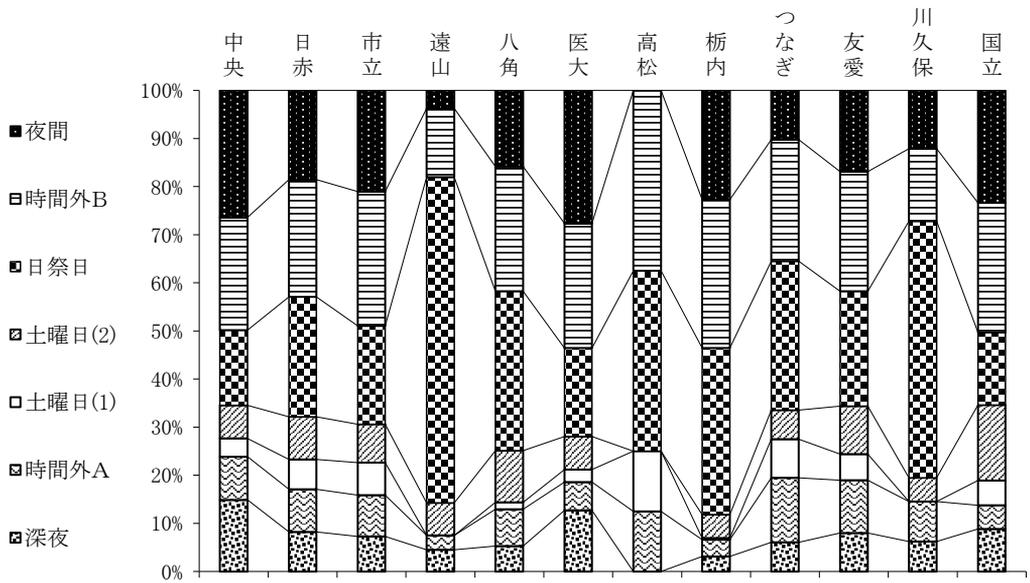


図10 二次救急病院における時間帯別入院患者比率

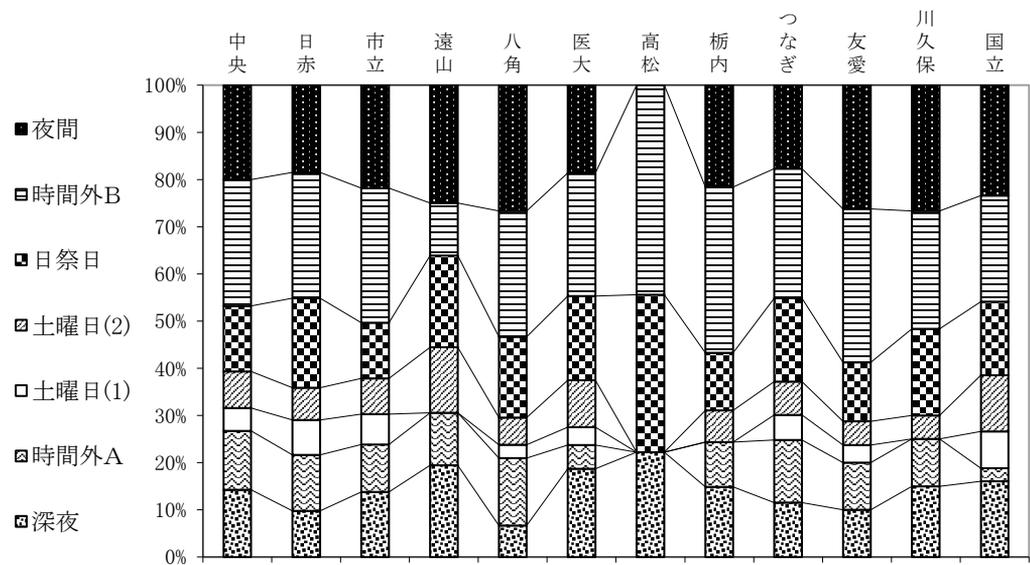


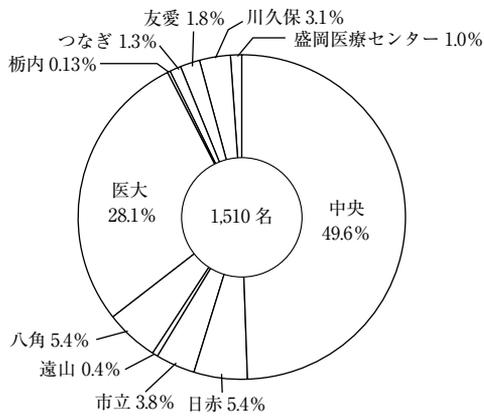
表 15 二次救急病院の外来・入院分布（深夜）

深夜 (AM0～AM6)	2020.1～ 2020.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	749	293	1,042	62.4	24.4	86.8
	外科系	561	166	727	46.8	13.8	60.6
	その他	332	84	416	27.7	7.0	34.7
日赤病院	内科系	81	30	111	6.8	2.5	9.3
	外科系	93	52	145	7.8	4.3	12.1
	その他	103	25	128	8.6	2.1	10.7
市立病院	内科系	58	32	90	4.8	2.7	7.5
	外科系	71	30	101	5.9	2.5	8.4
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠山病院	内科系	6	7	13	0.5	0.6	1.1
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	82	7	89	6.8	0.6	7.4
	外科系	11	0	11	0.9	0.0	0.9
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	424	80	504	35.3	6.7	42.0
	外科系	225	35	260	18.8	2.9	21.7
	その他	179	59	238	14.9	4.9	19.8
高松病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	0	2	2	0.0	0.2	0.2
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃内病院	内科系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	外科系	18	11	29	1.5	0.9	2.4
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	19	13	32	1.6	1.1	2.7
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	27	4	31	2.3	0.3	2.6
	外科系	4	1	5	0.3	0.1	0.4
	その他	18	3	21	1.5	0.3	1.8
川久保病院	内科系	47	15	62	3.9	1.3	5.2
	外科系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	その他	11	3	14	0.9	0.3	1.2
国立盛岡医療センター	内科系	15	16	31	1.3	1.3	2.6
	外科系	22	9	31	1.8	0.8	2.6
	その他	40	10	50	3.3	0.8	4.2
合 計	内科系	1,510	497	2,007	125.8	41.4	167.3
	外科系	1,006	306	1,312	83.8	25.5	109.3
	その他	683	184	867	56.9	15.3	72.3
総 合 計		3,199	987	4,186	266.6	82.3	348.8
				1日平均	8.8	2.7	11.5

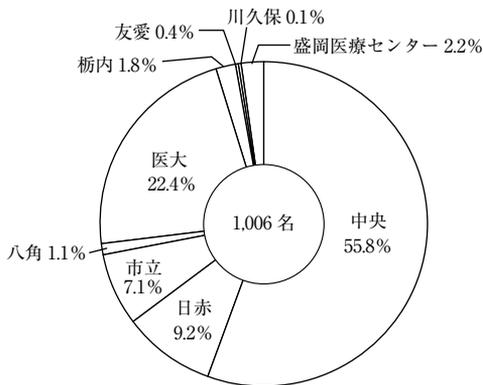
図 11 二次救急病院の外来・入院分布（深夜）

< 外来分布 >

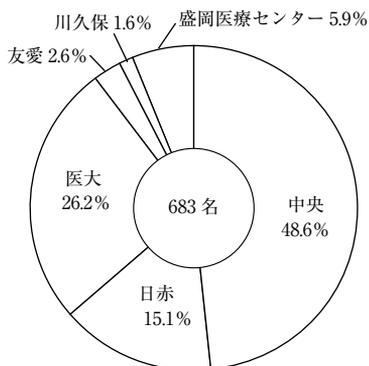
< 内科系 >



< 外科系 >

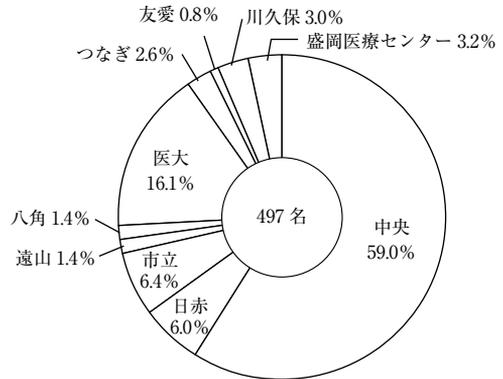


< その他 >

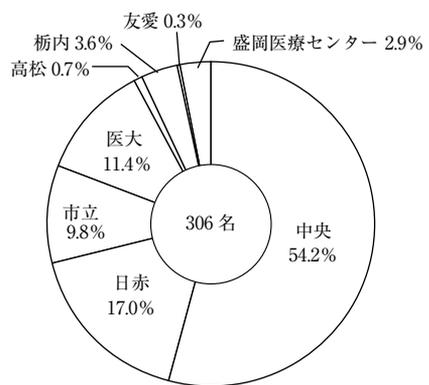


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

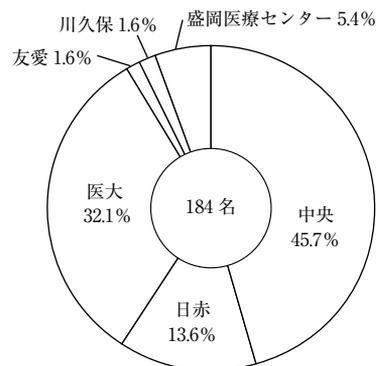


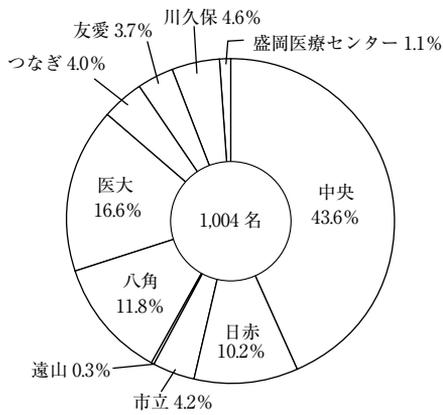
表 16 二次救急病院の外来・入院分布（時間外A）

時間外A (AM6～AM9)	2020.1～ 2020.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	438	299	737	36.5	24.9	61.4
	外科系	376	121	497	31.3	10.1	41.4
	その他	175	56	231	14.6	4.7	19.3
日赤病院	内科系	102	35	137	8.5	2.9	11.4
	外科系	149	67	216	12.4	5.6	18.0
	その他	49	27	76	4.1	2.3	6.3
市立病院	内科系	42	17	59	3.5	1.4	4.9
	外科系	110	28	138	9.2	2.3	11.5
	その他	1	0	1	0.1	0.0	0.1
遠山病院	内科系	3	3	6	0.3	0.3	0.5
	外科系	1	1	2	0.1	0.1	0.2
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	118	14	132	9.8	1.2	11.0
	外科系	17	1	18	1.4	0.1	1.5
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	167	19	186	13.9	1.6	15.5
	外科系	148	12	160	12.3	1.0	13.3
	その他	69	17	86	5.8	1.4	7.2
高松病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃内病院	内科系	0	1	1	0.0	0.1	0.1
	外科系	22	6	28	1.8	0.5	2.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	40	14	54	3.3	1.2	4.5
	外科系	2	1	3	0.2	0.1	0.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	37	6	43	3.1	0.5	3.6
	外科系	13	1	14	1.1	0.1	1.2
	その他	17	1	18	1.4	0.1	1.5
川久保病院	内科系	46	12	58	3.8	1.0	4.8
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	33	0	33	2.8	0.0	2.8
国立盛岡医療センター	内科系	11	3	14	0.9	0.3	1.2
	外科系	28	3	31	2.3	0.3	2.6
	その他	4	0	4	0.3	0.0	0.3
合 計	内科系	1,004	423	1,427	83.7	35.3	118.9
	外科系	867	241	1,108	72.3	20.1	92.3
	その他	348	101	449	29.0	8.4	37.4
総 合 計		2,219	765	2,984	184.9	63.8	248.7
				1日平均	6.1	2.1	8.2

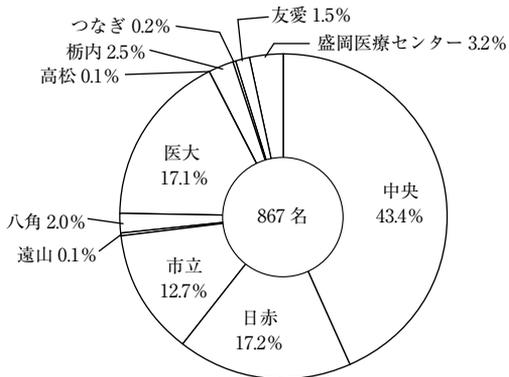
図 12 二次救急病院の外来・入院分布（時間外A）

< 外来分布 >

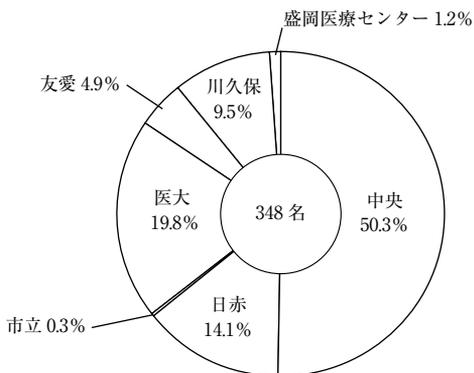
< 内科系 >



< 外科系 >

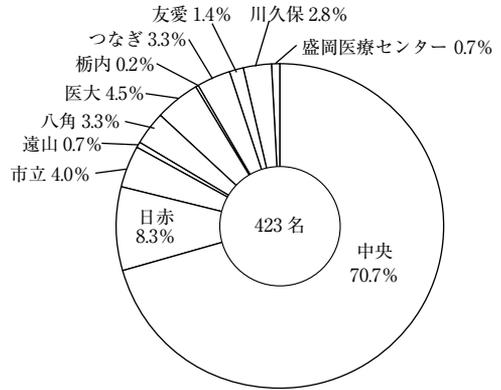


< その他 >

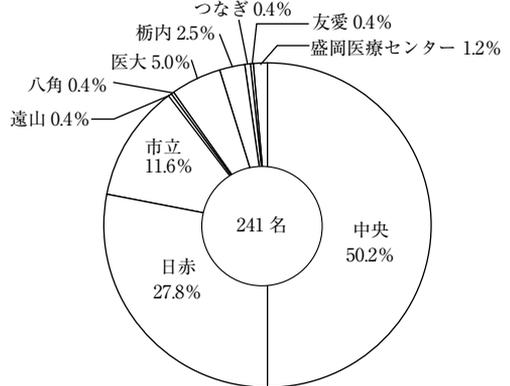


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

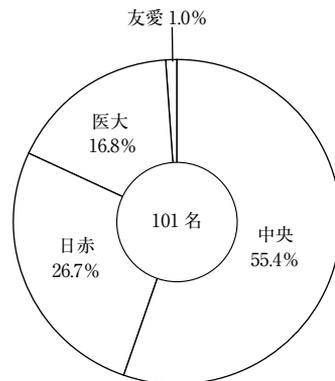


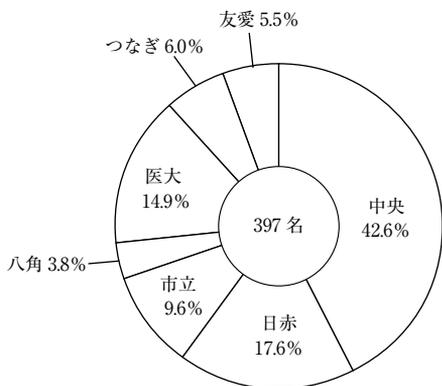
表 17 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（1））

土曜日（1） （AM9～PM0）	2020.1～ 2020.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	169	112	281	14.1	9.3	23.4
	外科系	190	51	241	15.8	4.3	20.1
	その他	57	23	80	4.8	1.9	6.7
日赤病院	内科系	70	40	110	5.8	3.3	9.2
	外科系	102	31	133	8.5	2.6	11.1
	その他	37	10	47	3.1	0.8	3.9
市立病院	内科系	38	10	48	3.2	0.8	4.0
	外科系	80	19	99	6.7	1.6	8.3
	その他	2	0	2	0.2	0.0	0.2
遠山病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	15	3	18	1.3	0.3	1.5
	外科系	11	0	11	0.9	0.0	0.9
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	59	19	78	4.9	1.6	6.5
	外科系	79	9	88	6.6	0.8	7.3
	その他	31	7	38	2.6	0.6	3.2
高松病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃内病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	24	6	30	2.0	0.5	2.5
	外科系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	22	3	25	1.8	0.3	2.1
	外科系	6	0	6	0.5	0.0	0.5
	その他	5	0	5	0.4	0.0	0.4
川久保病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
国立盛岡医療センター	内科系	0	2	2	0.0	0.2	0.2
	外科系	33	11	44	2.8	0.9	3.7
	その他	12	4	16	1.0	0.3	1.3
合 計	内科系	397	195	592	33.1	16.3	49.3
	外科系	505	121	626	42.1	10.1	52.2
	その他	144	44	188	12.0	3.7	15.7
総 合 計		1,046	360	1,406	87.2	30.0	117.2
				1日平均	2.9	1.0	3.9

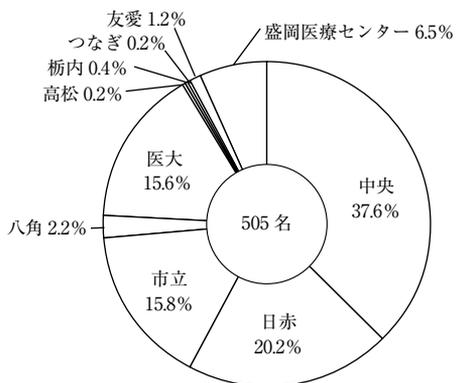
図 13 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（1））

< 外来分布 >

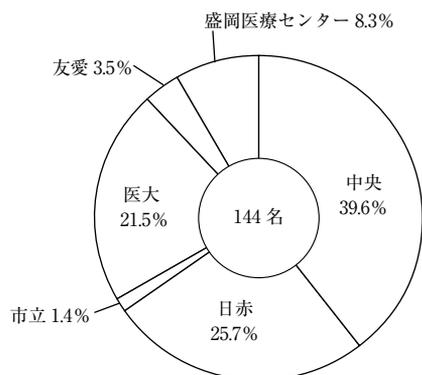
< 内科系 >



< 外科系 >

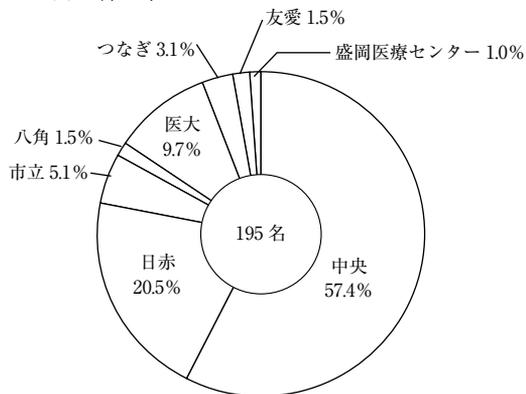


< その他 >

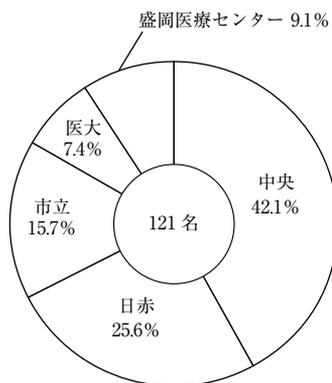


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

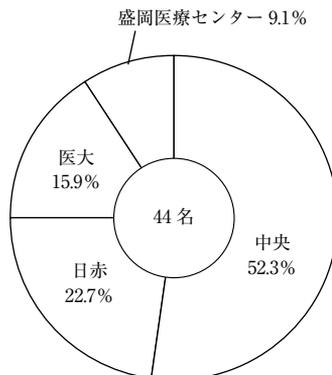


表 18 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（2））

土曜日（2） （PM0～PM5）	2020.1～ 2020.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	266	167	433	22.2	13.9	36.1
	外科系	359	96	455	29.9	8.0	37.9
	その他	133	33	166	11.1	2.8	13.8
日赤病院	内科系	77	28	105	6.4	2.3	8.8
	外科系	187	39	226	15.6	3.3	18.8
	その他	36	8	44	3.0	0.7	3.7
市立病院	内科系	57	26	83	4.8	2.2	6.9
	外科系	84	8	92	7.0	0.7	7.7
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠山病院	内科系	9	4	13	0.8	0.3	1.1
	外科系	0	1	1	0.0	0.1	0.1
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	143	6	149	11.9	0.5	12.4
	外科系	46	0	46	3.8	0.0	3.8
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	145	41	186	12.1	3.4	15.5
	外科系	202	28	230	16.8	2.3	19.2
	その他	103	24	127	8.6	2.0	10.6
高松病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃内病院	内科系	2	2	4	0.2	0.2	0.3
	外科系	29	3	32	2.4	0.3	2.7
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	19	8	27	1.6	0.7	2.3
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	35	2	37	2.9	0.2	3.1
	外科系	13	1	14	1.1	0.1	1.2
	その他	13	1	14	1.1	0.1	1.2
川久保病院	内科系	43	6	49	3.6	0.5	4.1
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	4	0	4	0.3	0.0	0.3
国立盛岡医療センター	内科系	5	2	7	0.4	0.2	0.6
	外科系	93	16	109	7.8	1.3	9.1
	その他	39	8	47	3.3	0.7	3.9
合 計	内科系	801	292	1,093	66.8	24.3	91.1
	外科系	1,013	192	1,205	84.4	16.0	100.4
	その他	328	74	402	27.3	6.2	33.5
総 合 計		2,142	558	2,700	178.5	46.5	225.0
				1日平均	5.9	1.5	7.4

図 14 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（2））

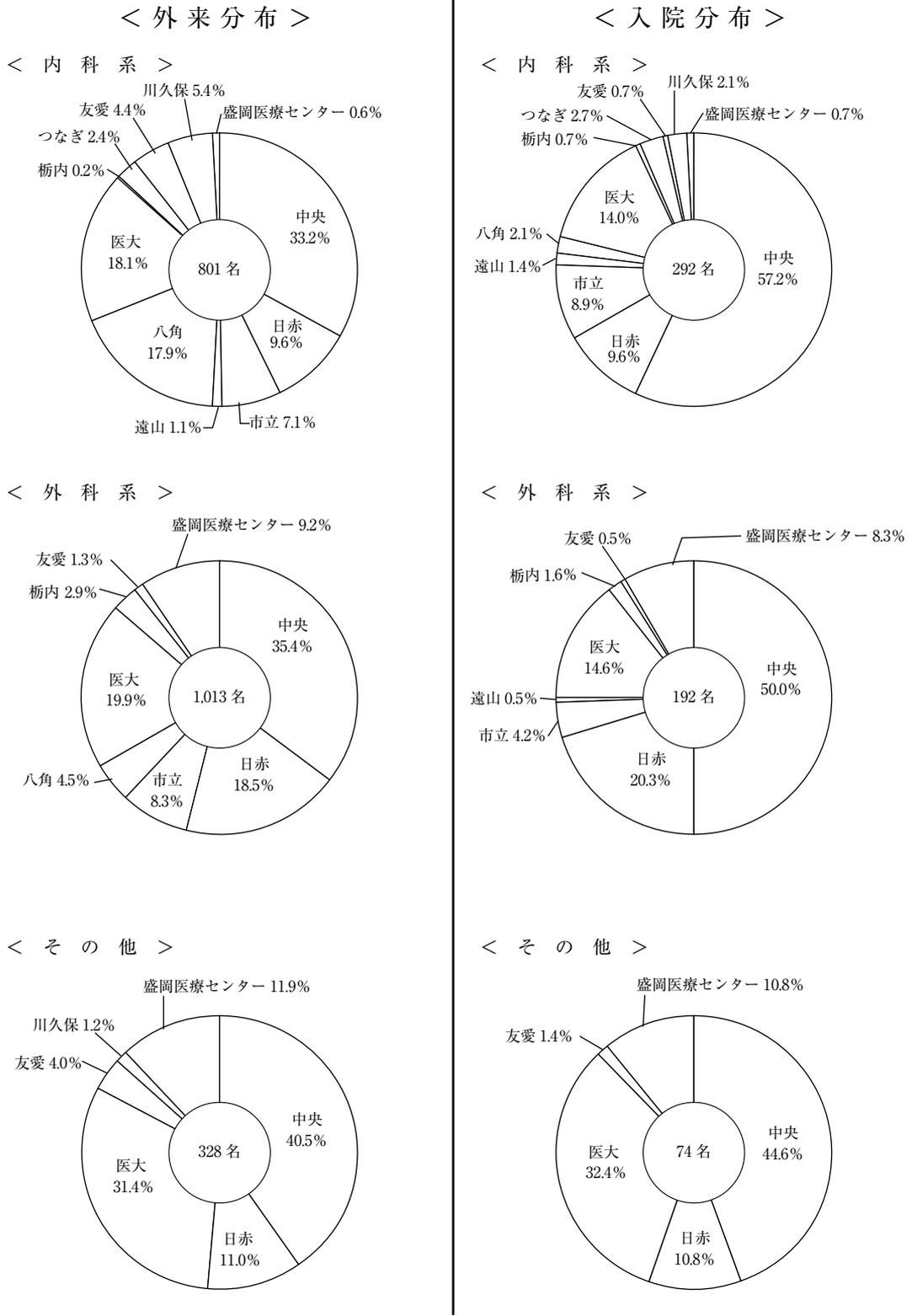


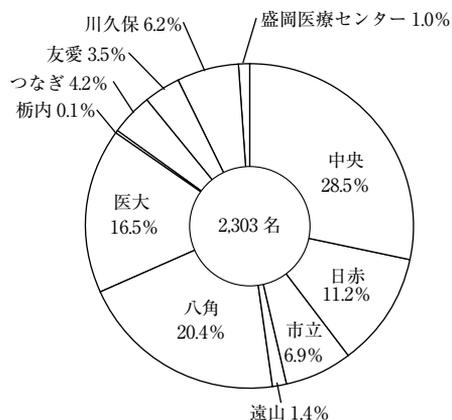
表 19 二次救急病院の外来・入院分布（日祭日）

日 祭 日 (AM9～PM5)	2020.1～ 2020.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	656	285	941	54.7	23.8	78.4
	外 科 系	769	184	953	64.1	15.3	79.4
	そ の 他	299	60	359	24.9	5.0	29.9
日 赤 病 院	内 科 系	259	76	335	21.6	6.3	27.9
	外 科 系	450	100	550	37.5	8.3	45.8
	そ の 他	133	31	164	11.1	2.6	13.7
市 立 病 院	内 科 系	159	28	187	13.3	2.3	15.6
	外 科 系	204	25	229	17.0	2.1	19.1
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠 山 病 院	内 科 系	33	7	40	2.8	0.6	3.3
	外 科 系	54	0	54	4.5	0.0	4.5
	そ の 他	3	0	3	0.3	0.0	0.3
八 角 病 院	内 科 系	470	16	486	39.2	1.3	40.5
	外 科 系	115	2	117	9.6	0.2	9.8
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	381	81	462	31.8	6.8	38.5
	外 科 系	606	57	663	50.5	4.8	55.3
	そ の 他	211	29	240	17.6	2.4	20.0
高 松 病 院	内 科 系	1	2	3	0.1	0.2	0.3
	外 科 系	2	1	3	0.2	0.1	0.3
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃 内 病 院	内 科 系	3	0	3	0.3	0.0	0.3
	外 科 系	217	9	226	18.1	0.8	18.8
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つ な ぎ 温 泉 病 院	内 科 系	96	20	116	8.0	1.7	9.7
	外 科 系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	80	5	85	6.7	0.4	7.1
	外 科 系	34	2	36	2.8	0.2	3.0
	そ の 他	32	3	35	2.7	0.3	2.9
川 久 保 病 院	内 科 系	142	20	162	11.8	1.7	13.5
	外 科 系	5	1	6	0.4	0.1	0.5
	そ の 他	360	1	361	30.0	0.1	30.1
国 立 盛 岡 医 療 セ ン タ ー	内 科 系	23	14	37	1.9	1.2	3.1
	外 科 系	102	18	120	8.5	1.5	10.0
	そ の 他	7	2	9	0.6	0.2	0.8
合 計	内 科 系	2,303	554	2,857	191.9	46.2	238.1
	外 科 系	2,559	399	2,958	213.3	33.3	246.5
	そ の 他	1,045	126	1,171	87.1	10.5	97.6
総 合 計		5,907	1,079	6,986	492.3	89.9	582.2
				1日平均	16.2	3.0	19.1

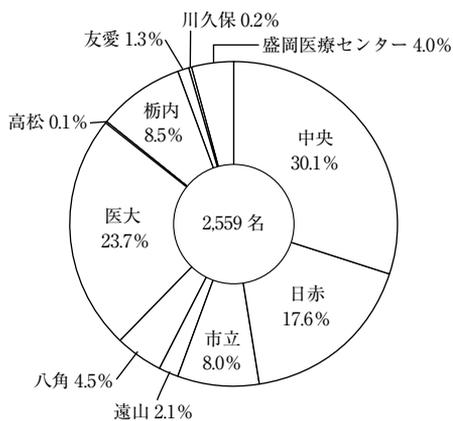
図 15 二次救急病院の外来・入院分布（日曜日）

< 外来分布 >

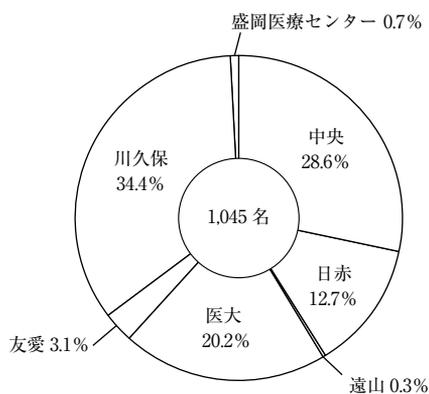
< 内科系 >



< 外科系 >

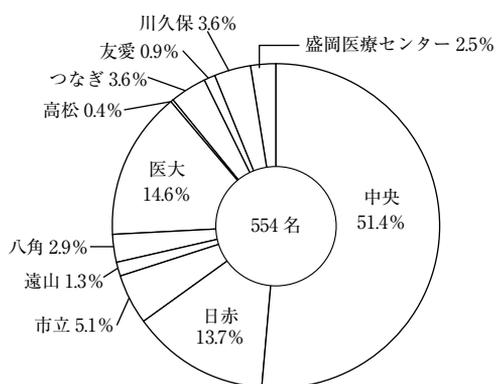


< その他 >

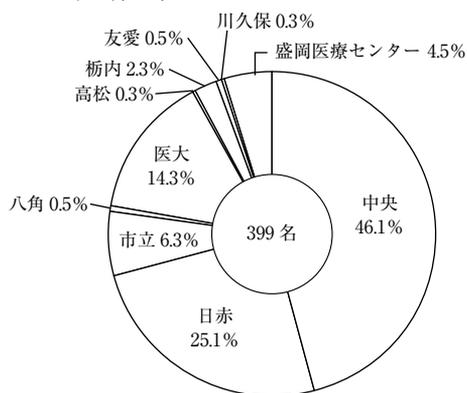


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

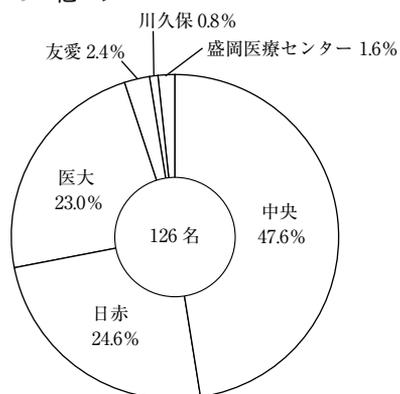


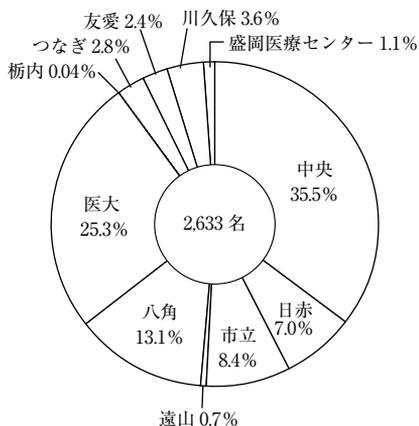
表 20 二次救急病院の外来・入院分布（時間外B）

時間外B (PM5～PM8)	2020.1～ 2020.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	936	557	1,493	78.0	46.4	124.4
	外科系	1,198	374	1,572	99.8	31.2	131.0
	その他	449	92	541	37.4	7.7	45.1
日赤病院	内科系	183	70	253	15.3	5.8	21.1
	外科系	421	175	596	35.1	14.6	49.7
	その他	219	46	265	18.3	3.8	22.1
市立病院	内科系	222	71	293	18.5	5.9	24.4
	外科系	270	52	322	22.5	4.3	26.8
	その他	4	5	9	0.3	0.4	0.8
遠山病院	内科系	18	4	22	1.5	0.3	1.8
	外科系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	344	21	365	28.7	1.8	30.4
	外科系	113	7	120	9.4	0.6	10.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	665	117	782	55.4	9.8	65.2
	外科系	736	80	816	61.3	6.7	68.0
	その他	292	48	340	24.3	4.0	28.3
高松病院	内科系	1	1	2	0.1	0.1	0.2
	外科系	2	3	5	0.2	0.3	0.4
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃内病院	内科系	1	1	2	0.1	0.1	0.2
	外科系	195	25	220	16.3	2.1	18.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	74	31	105	6.2	2.6	8.8
	外科系	5	0	5	0.4	0.0	0.4
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	63	14	77	5.3	1.2	6.4
	外科系	41	3	44	3.4	0.3	3.7
	その他	48	9	57	4.0	0.8	4.8
川久保病院	内科系	96	29	125	8.0	2.4	10.4
	外科系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	その他	46	1	47	3.8	0.1	3.9
国立盛岡医療センター	内科系	30	17	47	2.5	1.4	3.9
	外科系	148	15	163	12.3	1.3	13.6
	その他	57	17	74	4.8	1.4	6.2
合 計	内科系	2,633	933	3,566	219.4	77.8	297.2
	外科系	3,131	734	3,865	260.9	61.2	322.1
	その他	1,115	218	1,333	92.9	18.2	111.1
総 合 計		6,879	1,885	8,764	573.3	157.1	730.3
				1日平均	18.8	5.2	24.0

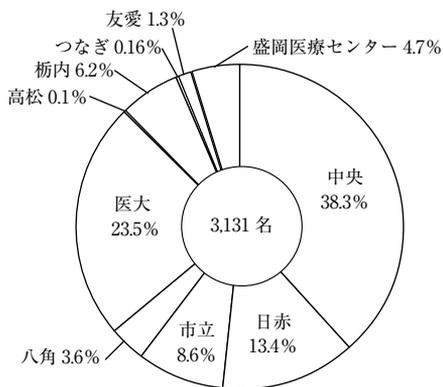
図 16 二次救急病院の外来・入院分布（時間外B）

< 外来分布 >

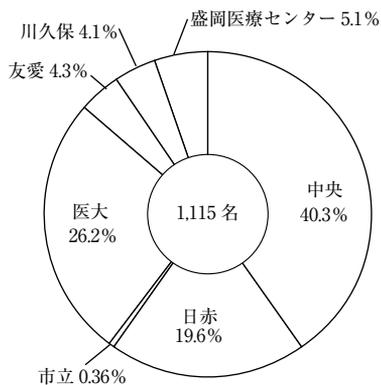
< 内科系 >



< 外科系 >

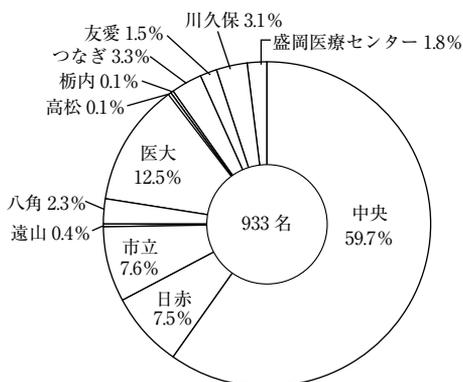


< その他 >

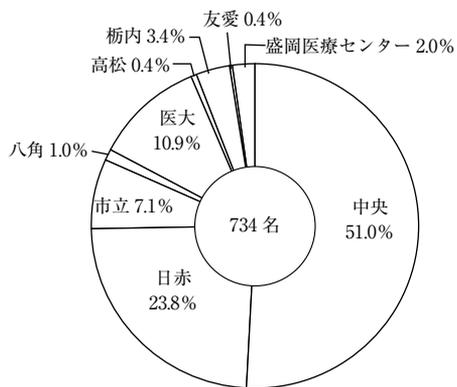


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

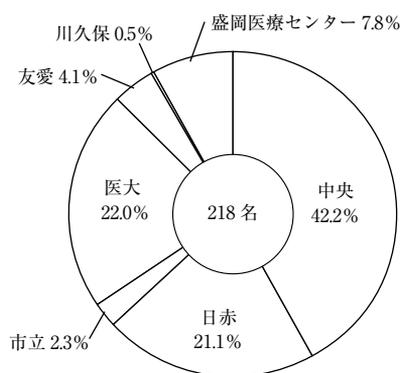


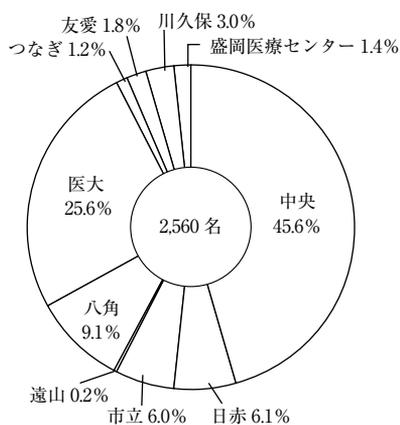
表 21 二次救急病院の外来・入院分布（夜間）

夜 間 (PM8～PM12)	2020.1～ 2020.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	1,167	423	1,590	97.3	35.3	132.5
	外 科 系	1,221	242	1,463	101.8	20.2	121.9
	そ の 他	521	99	620	43.4	8.3	51.7
日 赤 病 院	内 科 系	157	67	224	13.1	5.6	18.7
	外 科 系	259	93	352	21.6	7.8	29.3
	そ の 他	211	42	253	17.6	3.5	21.1
市 立 病 院	内 科 系	154	58	212	12.8	4.8	17.7
	外 科 系	191	38	229	15.9	3.2	19.1
	そ の 他	28	2	30	2.3	0.2	2.5
遠 山 病 院	内 科 系	5	9	14	0.4	0.8	1.2
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八 角 病 院	内 科 系	232	24	256	19.3	2.0	21.3
	外 科 系	47	4	51	3.9	0.3	4.3
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	655	74	729	54.6	6.2	60.8
	外 科 系	774	46	820	64.5	3.8	68.3
	そ の 他	374	54	428	31.2	4.5	35.7
高 松 病 院	内 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
栃 内 病 院	内 科 系	1	1	2	0.1	0.1	0.2
	外 科 系	143	15	158	11.9	1.3	13.2
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つ な ぎ 温 泉 病 院	内 科 系	31	20	51	2.6	1.7	4.3
	外 科 系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	45	12	57	3.8	1.0	4.8
	外 科 系	26	4	30	2.2	0.3	2.5
	そ の 他	32	5	37	2.7	0.4	3.1
川 久 保 病 院	内 科 系	78	29	107	6.5	2.4	8.9
	外 科 系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	そ の 他	36	3	39	3.0	0.3	3.3
国 立 盛 岡 医 療 セ ン タ ー	内 科 系	35	16	51	2.9	1.3	4.3
	外 科 系	108	16	124	9.0	1.3	10.3
	そ の 他	61	19	80	5.1	1.6	6.7
合 計	内 科 系	2,560	733	3,293	213.3	61.1	274.4
	外 科 系	2,771	458	3,229	230.9	38.2	269.1
	そ の 他	1,263	224	1,487	105.3	18.7	123.9
総 合 計		6,594	1,415	8,009	549.5	117.9	667.4
				1 日 平 均	18.1	3.9	21.9

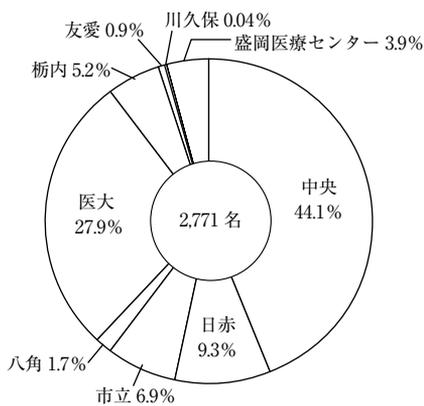
図 17 二次救急病院の外来・入院分布（夜間）

< 外来分布 >

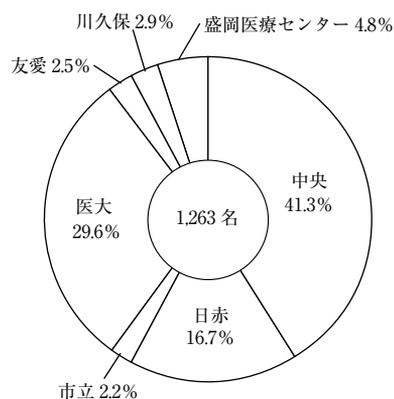
< 内科系 >



< 外科系 >

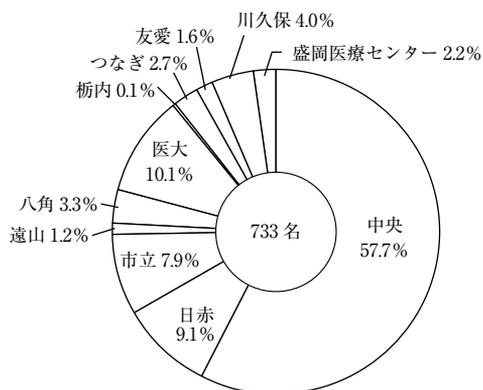


< その他 >

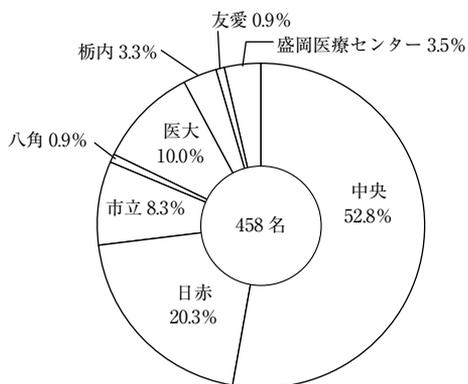


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

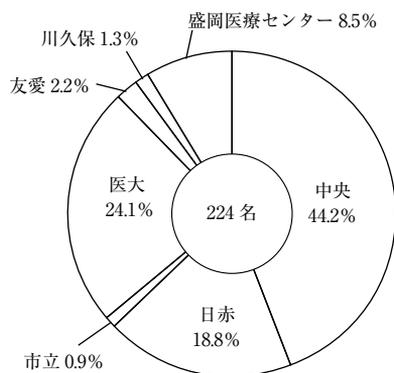
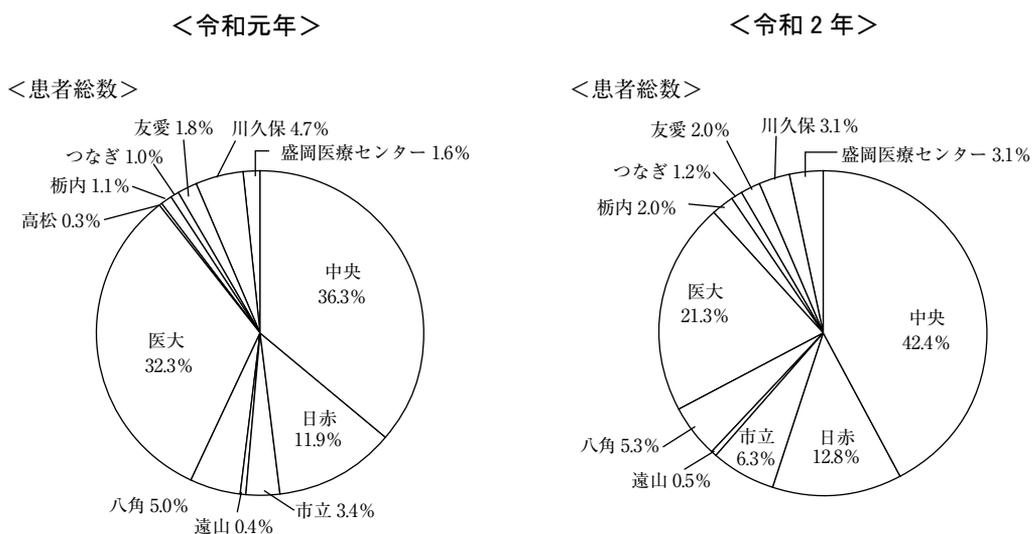


表 22 盛岡地区二次救急患者動態（前年との比較）

病院名	外来患者数		入院患者数		救急車搬入患者数		総数	
	令和元年	令和2年	令和元年	令和2年	令和元年	令和2年	令和元年	令和2年
中央病院	13,571	11,021	4,014	3,817	5,182	4,692	17,585	14,838
日赤病院	4,540	3,378	1,227	1,092	1,389	1,130	5,767	4,470
市立病院	1,236	1,775	423	449	563	643	1,659	2,224
遠山病院	139	133	59	36	55	42	198	169
八角病院	2,306	1,764	130	105	146	159	2,436	1,869
岩手医大	14,394	6,525	1,242	936	384	221	15,636	7,461
高松病院	108	8	52	9	90	13	160	17
栃内病院	505	635	32	74	70	119	537	709
つなぎ温泉病院	384	313	110	113	123	110	494	426
友愛病院	760	611	93	80	141	168	853	691
川久保病院	2,133	950	156	120	204	151	2,289	1,070
盛岡医療センター	593	873	186	218	308	312	779	1,091
合計	40,669	27,986	7,724	7,049	8,655	7,760	48,393	35,035

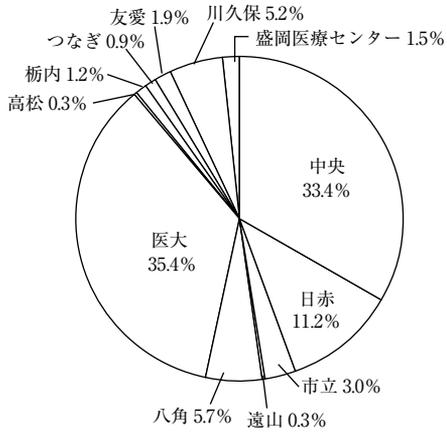
（高度救命救急センターに搬送した例はすべて三次救急としたため、このデータには含まれていない。）

図 18 二次救急患者病院別分布（前年との比較）



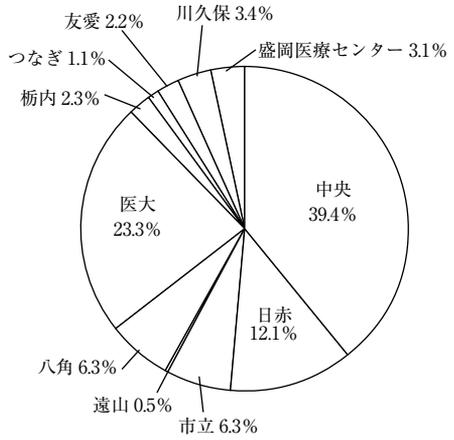
<令和元年>

<外来患者数>

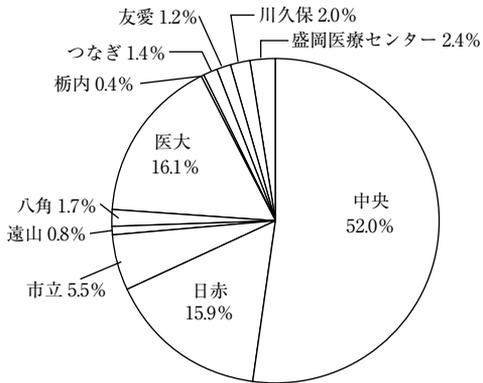


<令和2年>

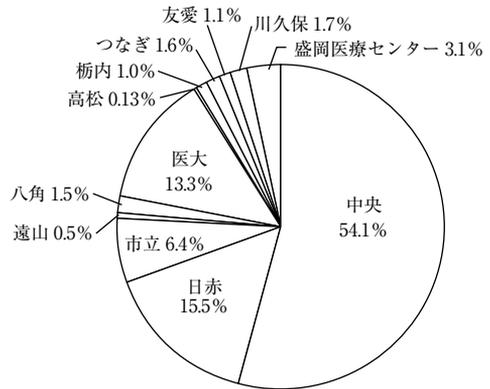
<外来患者数>



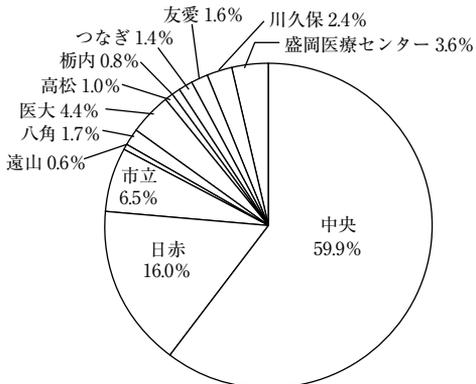
<入院患者数>



<入院患者数>



<救急車搬入患者数>



<救急車搬入患者数>

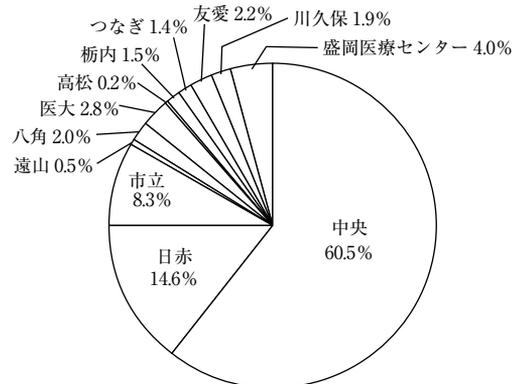
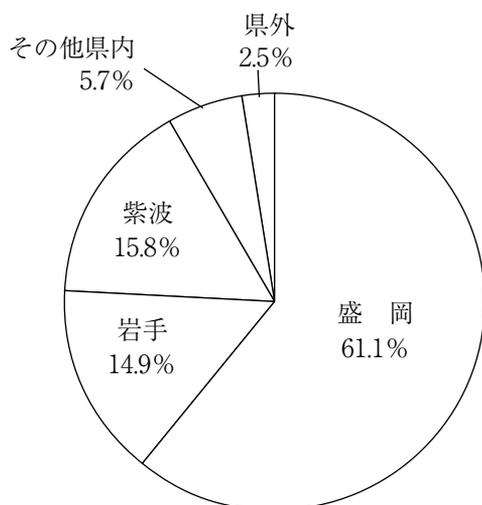


表 23 市町村別二次救急患者動態

市 町 村	外 来	入 院	合 計
盛 岡	17,225	4,182	21,407
雫 石	629	263	892
葛 巻	48	29	77
岩 手	797	209	1,006
滝 沢	1,011	307	1,318
紫 波	2,683	641	3,324
矢 巾	1,820	393	2,213
八 幡 平	1,643	278	1,921
その他県内	1,425	572	1,997
県 外	705	175	880
合 計	27,986	7,049	35,035

図 19 <地区別患者比率>



小児救急病院群輪番制21年目のまとめ

図20～22および表24～27に小児救急病院別の輪番日の受診者数と輪番日以外の受診者数、各病院別受診者数を示す。小児救急患者の総数は3,539名で前年比4,327名、55%の減少であった。救急車搬入数は411名で、前年比201名、32%の減少であった。輪番日の受診者数は2,601名(総数の73.5%)、救急車搬入数311名(輪番日受診者の12.0%)、1コマ単位平均5.29人であった。輪番日以外の受診者数は938名(総数の26.5%)、救急車搬入数100名(輪番日以外受診者の10.7%)、1コマ単位平均0.43人であった。病院別では、3月から川久保病院が脱退、岩手医科大学も5月途中から輪番を休止したため、総数では中央病院が1,472名(41.6%)と最も多くなり、入院を必要とした患者は1コマあたり平均0.97人であった。

図20 病院患者総数

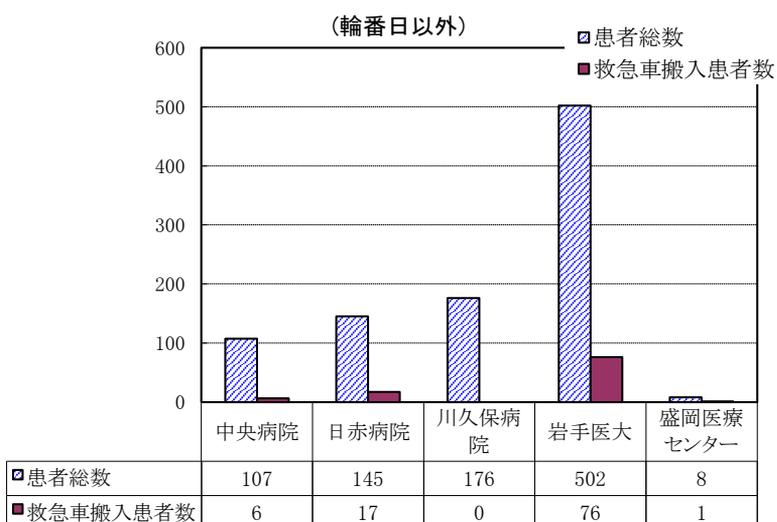
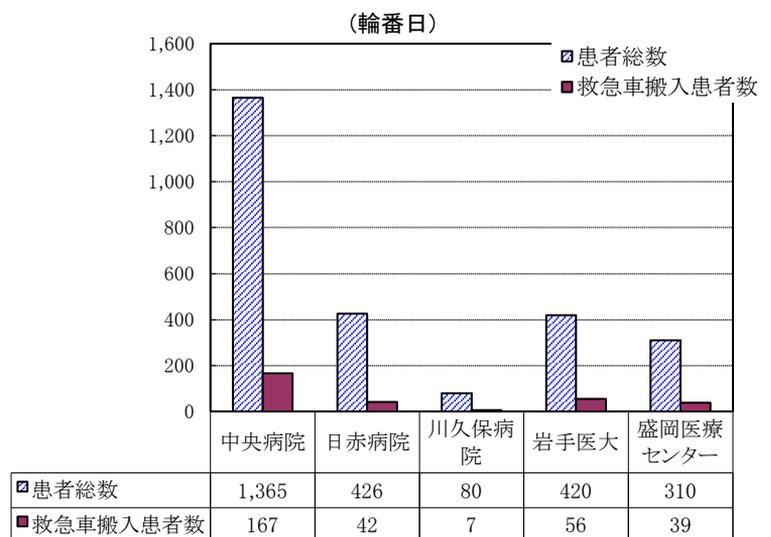


表 24 小児救急患者病院別合計表（輪番日）

病 院	外 来		入 院		総 数			
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち救急車搬入患者数	比 率
中 央 病 院	1,124	51.9	241	55.3	1,365	52.5	167	53.7
日 赤 病 院	350	16.2	76	17.4	426	16.4	42	13.5
川 久 保 病 院	72	3.3	8	1.8	80	3.1	7	2.3
岩 手 医 大	374	17.3	46	10.6	420	16.1	56	18.0
国立盛岡医療センター	245	11.3	65	14.9	310	11.9	39	12.5
合 計	2,165	100	436	100	2,601	100	311	100

表 25 1 コマあたりの病院別小児救急患者数（輪番日）

病 院	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	合 計	
			患者数	うち救急車搬入患者数
中 央 病 院	5.23	1.09	6.33	0.76
日 赤 病 院	3.37	0.74	4.11	0.43
川 久 保 病 院	6.89	0.75	7.64	0.75
岩 手 医 大	5.14	0.67	5.80	0.75
国立盛岡医療センター	3.15	0.84	4.00	0.59
平 均	4.40	0.89	5.29	0.63

※もりおかこども病院、川久保病院は休日救急当番医の来院患者数も含む。

※もりおかこども病院は平成 31 年 4 月より診療所化のため脱退

※国立盛岡医療センターは平成 14 年 9 月より休止していたが令和元年 10 月より再開

図 21 小児救急病院別患者比率（輪番日）

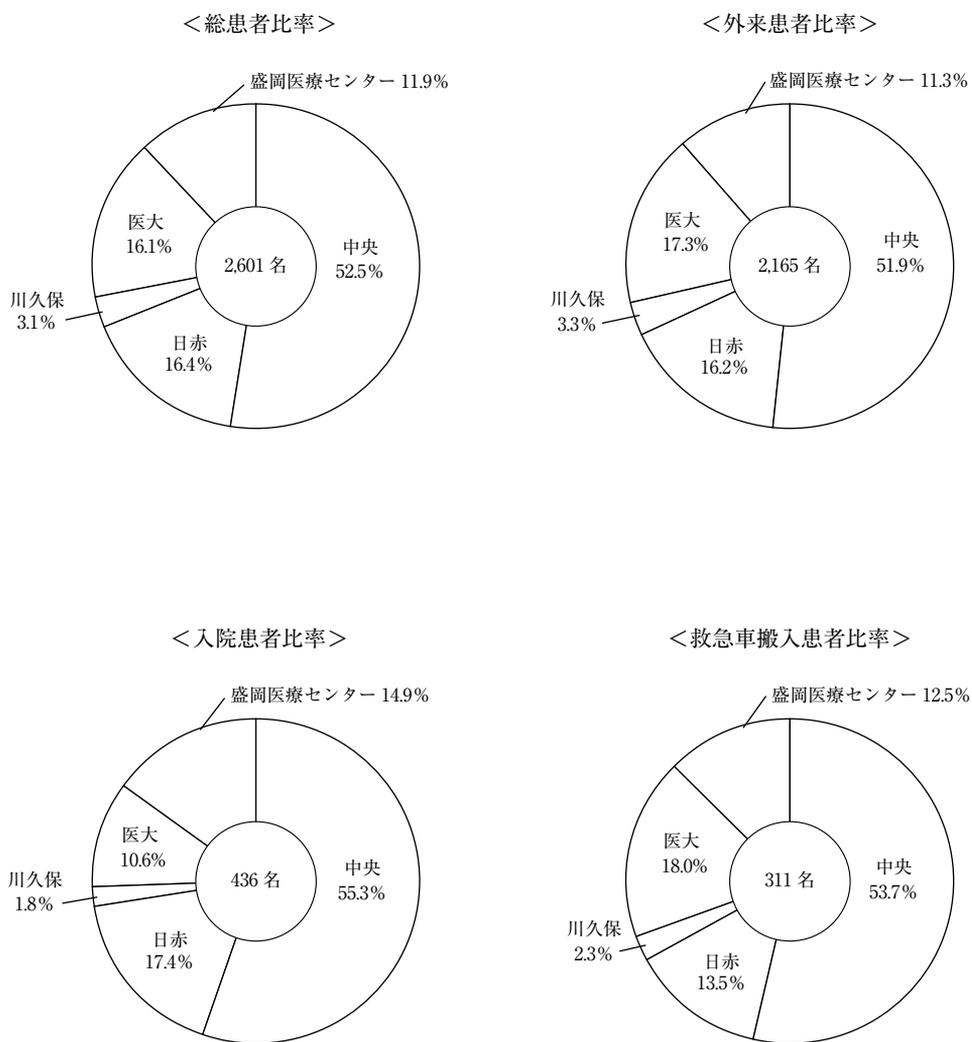


表 26 小児救急患者病院別合計表（輪番日以外）

病 院	外 来		入 院		総 数			
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち救急車 搬入患者数	比 率
中 央 病 院	73	9.5	34	19.9	107	11.4	6	6.0
日 赤 病 院	113	14.7	32	18.7	145	15.5	17	17.0
川 久 保 病 院	176	22.9	0	0.0	176	18.8	0	0.0
岩 手 医 大	399	52.0	103	60.2	502	53.5	76	76.0
国立盛岡医療センター	6	0.8	2	1.2	8	0.9	1	1.0
合 計	767	100	171	100	938	100	100	100

表 27 1 コマあたりの病院別小児救急患者数（輪番日以外）

病 院	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	合 計	
			患者数	うち救急車搬入患者数
中 央 病 院	0.28	0.13	0.41	0.02
日 赤 病 院	0.30	0.09	0.39	0.05
川 久 保 病 院	1.61	0.00	1.61	0.00
岩 手 医 大	1.08	0.25	1.33	0.19
国立盛岡医療センター	0.01	0.00	0.02	0.00
平 均	0.35	0.08	0.43	0.01

※もりおかこども病院、川久保病院は休日救急当番医の来院患者数も含む。

図 22 小児救急病院別患者比率（輪番日以外）

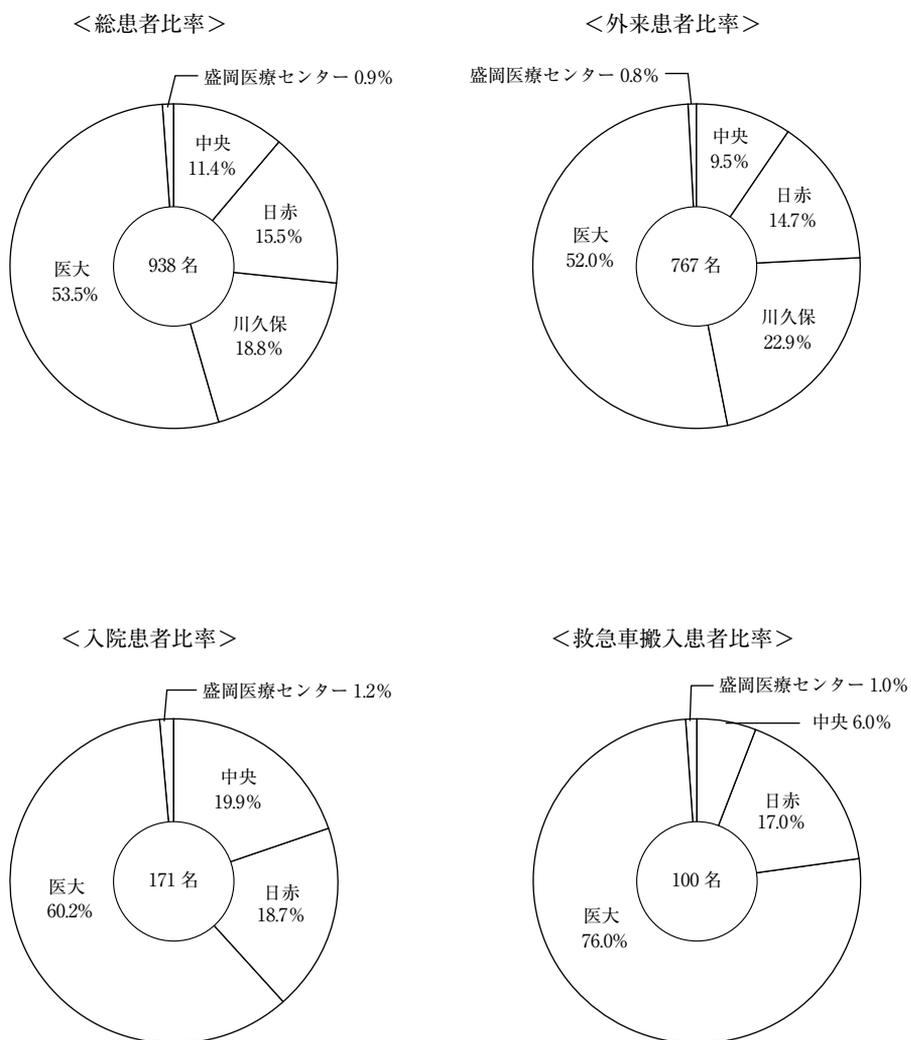


表 28 小児救急患者市町村別合計表（輪番日）

市 町 村	外 来		入 院		総 数	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	1,387	64.1	296	67.9	1,683	64.7
雫 石	29	1.3	14	3.2	43	1.7
葛 巻	1	0.05	0	0.0	1	0.04
岩 手	32	1.5	7	1.6	39	1.5
滝 沢	286	13.2	45	10.3	331	12.7
紫 波	126	5.8	15	3.4	141	5.4
矢 巾	128	5.9	16	3.7	144	5.5
八 幡 平	62	2.9	12	2.8	74	2.8
小 計	2,051	94.7	405	92.9	2,456	94.4
その他県内	63	2.9	21	4.8	84	3.2
県 外	51	2.4	10	2.3	61	2.3
合 計	2,165	100	436	100	2,601	100

表 29 1 コマあたりの市町村別小児救急患者数（輪番日）

市 町 村	外 来		入 院		合 計	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	2.82	64.1	0.60	67.8	3.42	64.7
雫 石	0.06	1.3	0.03	3.2	0.09	1.6
葛 巻	0.002	0.05	0.00	0.0	0.002	0.04
岩 手	0.07	1.5	0.01	1.6	0.08	1.5
滝 沢	0.58	13.2	0.09	10.3	0.67	12.7
紫 波	0.26	5.8	0.03	3.5	0.29	5.4
矢 巾	0.26	5.9	0.03	3.7	0.29	5.5
八 幡 平	0.13	2.9	0.02	2.8	0.15	2.9
小 計	4.17	94.8	0.83	92.9	4.99	94.4
その他県内	0.13	2.9	0.04	4.8	0.17	3.2
県 外	0.10	2.3	0.02	2.3	0.12	2.3
合 計	4.40	100	0.89	100	5.29	100

図 23 小児救急市町村別患者比率（輪番日）

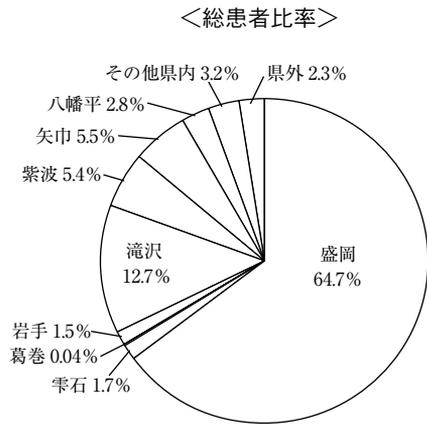


図 24 小児救急郡市別患者比率（輪番日）

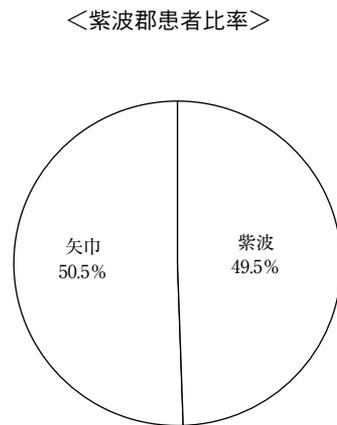
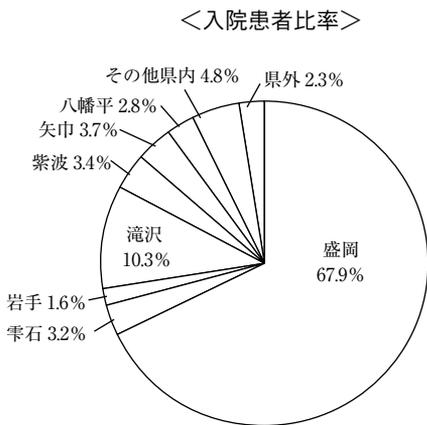
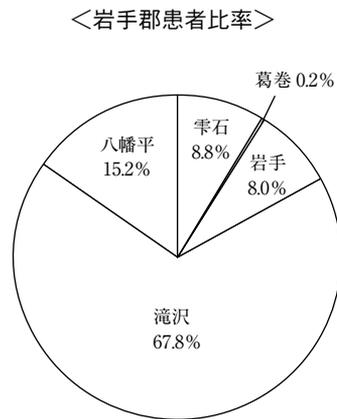
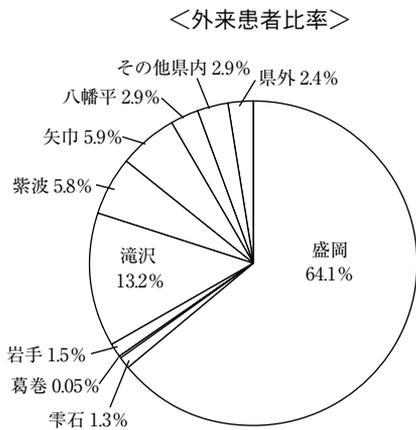
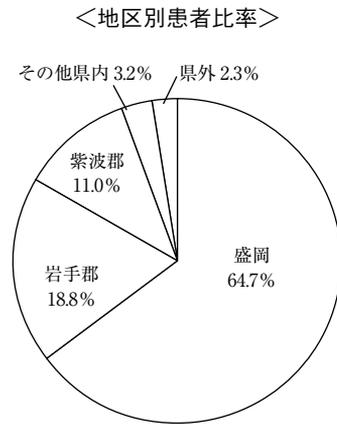


表 30 小児救急患者市町村別合計表（輪番日以外）

市 町 村	外 来		入 院		総 数	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	459	59.8	80	46.8	539	57.5
雫 石	10	1.3	3	1.8	13	1.4
葛 巻	0	0.0	0	0.0	0	0.0
岩 手	8	1.0	1	0.6	9	1.0
滝 沢	71	9.3	20	11.7	91	9.7
紫 波	65	8.5	10	5.8	75	8.0
矢 巾	81	10.6	9	5.3	90	9.6
八 幡 平	16	2.1	5	2.9	21	2.2
小 計	710	92.6	128	74.9	838	89.3
その他県内	47	6.1	35	20.5	82	8.7
県 外	10	1.3	8	4.7	18	1.9
合 計	767	100	171	100	938	100

表 31 1 コマあたりの市町村別小児救急患者数（輪番日以外）

市 町 村	外 来		入 院		合 計	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	0.21	59.4	0.04	46.5	0.25	56.9
雫 石	0.004	1.2	0.002	1.9	0.01	1.4
葛 巻	0.0	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0
岩 手	0.004	1.1	0.0005	0.6	0.004	1.0
滝 沢	0.03	9.4	0.01	11.3	0.04	9.8
紫 波	0.03	8.6	0.01	6.1	0.04	8.1
矢 巾	0.04	10.4	0.004	5.1	0.04	9.4
八 幡 平	0.01	2.1	0.003	3.0	0.01	2.3
小 計	0.324	92.3	0.06	74.5	0.39	88.9
その他県内	0.023	6.5	0.02	20.9	0.04	9.3
県 外	0.004	1.2	0.004	4.7	0.01	1.9
合 計	0.35	100	0.08	100	0.43	100

図 25 小児救急市町村別患者比率（輪番日以外）

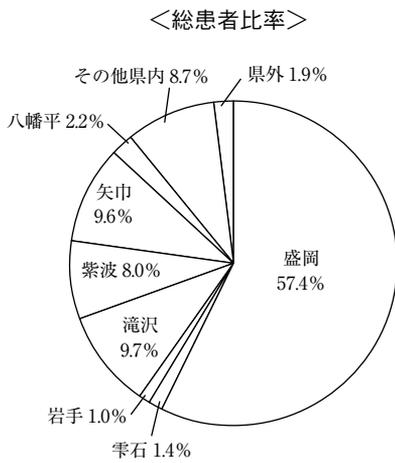
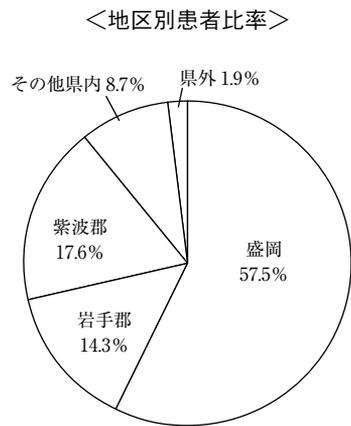
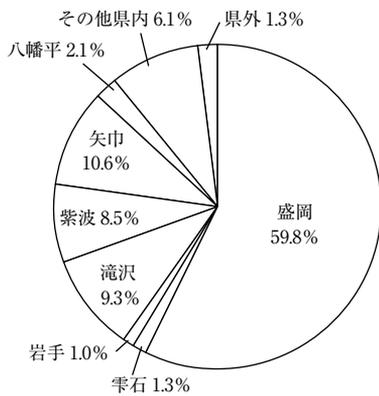


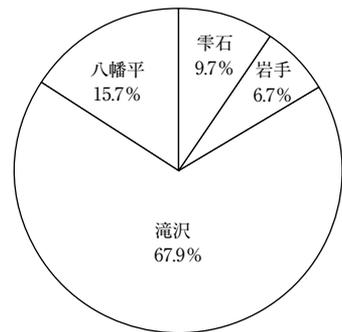
図 26 小児救急郡市別患者比率（輪番日以外）



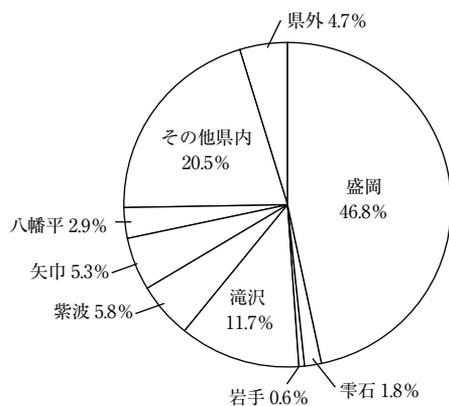
＜外来患者比率＞



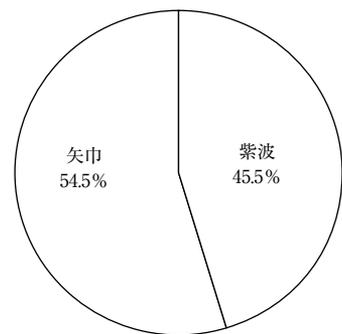
＜岩手郡患者比率＞



＜入院患者比率＞



＜紫波郡患者比率＞



2. 経過報告

- 令和2年 1月21日(木) 第183回小児救急電話相談事業事例検討会
28日(火) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 2月 7日(金) 令和元年度第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会
18日(火) 第184回小児救急電話相談事業事例検討会
21日(金) 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 3月 3日(火) 盛岡地区二次救急病院事務長会議
17日(火) 第185回小児救急電話相談事業事例検討会
27日(金) 第16回岩手県医師会小児救急電話相談事業運営委員会
30日(月) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 4月21日(火) 第186回小児救急電話相談事業事例検討会
24日(金) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
〃 第1回救急医療体制のあゆみ編集委員会
27日(月) 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会(小児輪番に係る)
- 5月19日(火) 第187回小児救急電話相談事業事例検討会
25日(月) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 6月12日(金) 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会(小児輪番に係る)
16日(火) 第188回小児救急電話相談事業事例検討会
26日(金) 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 7月14日(火) 令和2年度第1回盛岡市夜間急患診療所従事者打合せ会
21日(火) 第189回小児救急電話相談事業事例検討会
28日(火) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
〃 第2回救急医療体制のあゆみ編集委員会
31日(金) 盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会(書面開催に変更)
- 8月 4日(火) 令和2年度盛岡地区二次救急医療関係市町会議(書面開催)
18日(火) 第190回小児救急電話相談事業事例検討会
25日(火) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
29日(土) 盛岡市総合防災訓練(縮小開催により医師会関係は中止)
- 9月 4日(金) 第38回救急医療学術講演会(中止)
15日(火) 第191回小児救急電話相談事業事例検討会
25日(金) 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 10月 5日(月) 盛岡地区二次救急医療対策委員会(臨時)
20日(火) 第192回小児救急電話相談事業事例検討会

- 26日（月） 新型コロナウイルス感染症に関する院内感染対策研修会
27日（火） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 11月 9日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会（小児輪番に係る）
17日（火） 第193回小児救急電話相談事業事例検討会
26日（木） 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 12月 3日（木） 新型コロナウイルス感染症に関する院内感染対策研修会
14日（土） 令和元年度小児科救急医師研修（岩手西北医師会担当）
15日（火） 第194回小児救急電話相談事業事例検討会（中止）
25日（金） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会

※新型コロナウイルスの感染拡大防止として、救急医療人のつどい、救急医療学術講演会、第194回小児救急電話相談事業事例検討会は中止とした。

3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：令和2年2月21日（金） 午後7時
場 所：盛岡グランドホテル



報告

1. 1月分患者データについて：総数4,340名、救急車搬送数779名と前年比で減少。参考として夜間急患診療所が913名と前年比150名減少した。インフルエンザの流行が昨年より減少している影響などが考えられる。
2. 平成30年～令和元年の患者データについて
(1)二次救急
総数48,292名と前年より2,600名減少した。救急車搬送数は8,606名と前年並みであった。
(2)小児救急
輪番日5,385名と前年同様であった。非輪番日は2,472名と160名増加した。
(3)休日救急当番医・夜間急患診療所
夜間急患診療所総数4,506名と約400名増加した。休日救急当番医は総数19,888名と約2,600名増加した。二次救急病院の減少数とほぼ一致することから、患者受診動向の変化が考えられる。
3. 第184回小児救急電話相談事業事例検討会（2/18）及びH31.1月からR1.12月までのデータについて：別紙報告あり。
4. 新型コロナウイルス感染症について：現時点での話題提供があった。
5. 電気設備法定年次点検に伴う全館停電について（中央病院）：3月8日に予定されている。
6. その他：盛岡市保健所より市民から寄せられた定額負担金に関する意見について報告があった。

【協議】

1. 3月分二次救急病院当番表（案）について：原案通り了承された。
2. 病院群輪番制病院の辞退申出について（高松病院）：高松病院より辞退申出があり了承された。
3. 令和2年度二次・小児当番表（案）について：高松病院の辞退に伴い当番病院の減少と、昨年までの輪番順番ではB群病院が

同じ曜日が続くため、若干の変更した案が提示され了承された。

4. 令和2年4月～6月分の小児救急当番表(案)の公表について：原案通り了承された。
5. 令和2年度二次救急対策委員会運営予算(案)について：原案通り了承された。
6. 盛岡地区二次救急医療対策委員会設置要項の改正について：高松病院の辞退に伴う変更案が了承された。
7. 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員の任期満了について：改選年であるため各施設へ新委員を依頼することとした。
8. 医大移転に伴う今後の救急医療体制について：月別、日別受診動向を観察したがほぼ一定の受診動向になったと判断し今回で



終了とした。

9. 今後の日程について

(1)令和2年度盛岡市総合防災訓練：8月29日(土)午前8時

※災害想定：大雨洪水・土砂災害 於：乙部中学校及び聴覚支援学校

(2)令和2年度第38回救急医療学術講演会(予定)9月4日(金)午後7時

(久保直彦)

出席者一覧

委員長

和田利彦

常任委員

井上義博	小山耕太郎	須原誠	渡辺悠太
近藤公亮	野崎英二	吉田耕太郎	金子博純
相馬淳	本間博	久保直彦	智田文徳
橋本真生	佐藤直也	金濱誠己	久保田公宜
小林有一	関博文	臼井由紀子	

委員

小笠原邦昭	森野禎浩	宮田剛	松田壯正
加藤章信	佐々木達哉	千葉知	高松正之
木村啓二	白石秀夫	田村茂	八角有紀
高橋邦尚	木村宗孝		

岩手県県央保健所

所長 田名場善明

盛岡市保健所

所長 高橋清実
次長兼企画総務課長 工藤弘幸

盛岡市医師会事務局

事務局長 及川敬一郎
次長 水本達彦
係長 谷藤慎治

盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：令和2年6月26日（金） 午後1時
場 所：盛岡市医師会館



新型コロナウイルス感染防止の対応として、本委員会は対策委員会委員には事前資料を配布し、意見、賛否を求めた上で常任委員のみの開催となった。

【報告】

1. 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員について：5月26日以降の役員改選に伴う新委員が報告された。
2. 5月分患者データについて：患者総数3,140名と前年より1,768名減少したが、先月より921名増加した。救急車搬送患者は610名と前年に比して87名減少したが、先月より100名増加した。参考として夜間急患診療所が219名と昨年より350名大幅減少した。小児救急輪番日は190名と前年より322名減少した。輪番日以外では44名と大幅に減少した。先月に続いて新型コロナウイルス感染症の流行による受診抑制、自粛生活による生活様式の変化が影響している
3. 年度毎の患者データについて
 - 1) 二次救急の総受診者数は46,296名と前年に比して約3,900名減少した。救急車搬送数は8,461名と約140名減少した。
 - 2) 小児救急輪番日総数は4,955名と約400名減少した。
4. 第188回小児救急電話相談事業事例検討会及びH31年4月からR2年5月までのデータについて報告された。
5. 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会（小児輪番に関わる）について：岩手医科大学小児科が新型コロナウイルス感染症対策のため輪番制を離脱し、他の3病院で医大の輪番日を診療した経緯と今後も同様に実施していくことが報告された。
6. いわて盛岡シティマラソン2020について：中止となった。

【協議】

1. 7月の二次救急病院当番表について：原案通り了承された。
2. 令和2年度二次・小児輪番日程表（8月以降）および8月～12月分の小児救急入院受入当番表（修正案）について：盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会での検討で、小児救急輪番日が変更になり、一部二次輪番日の変更が必要となったため、各病

院へ持ち帰り再確認の上最終決定とすることになった。

3. 令和元年度二次救急医療対策委員会一般会計および特別会計決算について：監査報告、決算報告がなされ、了承された。
4. 第38回救急医療学術講演会の開催について：検討の結果来年に延期した。

(久保直彦)

出席者		
委員長	吉田 耕太郎	
常任委員		
井上 義博	小山 耕太郎	須原 誠
渡辺 悠太	佐々木 一裕	相馬 淳
金子 博純	本間 博	菊池 貴彦
久保 直彦	智田 文徳	橋本 真生
佐藤 直也	金濱 誠己	久保田 公宜
小林 有一	関 博文	三浦 義孝
オブザーバー		
外 館 玄一朗		
(書面にて)		
委員		
小笠原 邦昭	森野 禎浩	宮田 剛
加藤 章信	佐々木 達哉	千葉 知茂
木村 啓二	白石 秀夫	田村 茂孝
八角 有紀	高橋 邦尚	木村 宗孝
岩手県県央保健所		
所 長 田名場 善明		
盛岡市保健所		
所 長 矢野 亮佑		

盛岡地区二次救急医療対策委員会（臨時）

日 時：令和2年10月5日（月） 午後7時
場 所：盛岡グランドホテル



1. 報告

盛岡地区二次救急医療対策委員会委員、常任委員の変更について：盛岡赤十字病院 小児科医師の転勤により外館玄一朗先生が新委員となった。

2. 協議

1) コロナ禍における救急患者受入の体制について

(1) 本会開催の経緯について

7月29日本県初のCOVID-19感染患者検出後、救急車の受け入れ困難事例が多発し受け入れまで長時間かかる事例が発生した。二次救急対策委員会常任委員会で協議し、8月28日付盛岡地区二次救急対策委員長名にて「新型コロナウイルス感染症に関連した救急診療に関する留意点について」を各二次救急病院宛に発出した。また9月4日岩手県主催の「盛岡医療圏の入院調整に係る関係医療機関等打ち合わせ会」で救急患者受入困難事例発生に関して消防署より事例の報告があった。この

対策を当委員会で検討するように要望があり、問題の重要性と次のインフルエンザ流行に備えた体制整備に係る問題でもあり、臨時対策委員会を開き協議することになった。

(2) 消防署資料により、7月29日以降救急患者受入まで2時間以上有した事例が4例、1時間以上有した事例が4例、30分以上有した事例が8例あったことが報告された。また矢野盛岡市保健所長より救急病院を発熱患者が受診したが保健所へ相談するように回されたり、田名場県央保健所長より救急隊から救急病院がコロナでないことを証明できなければ受け入れないので夜間に検査依頼の相談があった事例が報告された。

(3) 今後の態勢

このコロナ禍であっても現状の二次救急医療体制を堅持する。輪番制は最終受け入れ病院を定めた制度で、いわゆるたらい回しを避けるために設けられた制度であることを再確認した。発



熱を理由に救急患者（救急車）診療を拒否することなく、またインフルエンザ流行期を見据えて各病院で可能な限りの感染対策をとり、救急診療することを申し合わせた。

(4)その他各委員から

- ①これまで患者を断ることなく、疑いがあれば個室管理するなど工夫して対応している。
- ②感染患者が入院すると救急対応できないこともあり、救急患者はこれまで通り各病院で診療を行っていた

きたい。

- ③病院の構造、外来診察室の状況より感染疑い患者の隔離、他患者との動線の分離や感染疑似患者の対応に苦慮している。対策について教示してほしい。
- ④感染（疑い）患者の診療と救急患者の診療について一部混乱していたところがあり、修正し救急対応したい。

以上の発言があった。

(久保直彦)

出席者一覧

委員長

吉田 耕太郎

常任委員

井上 義博	小山 耕太郎	須原 誠	外館 玄一朗
佐々木 一裕	相馬 淳	金子 博純	本間 博生
菊池 貴彦	久保 直彦	智田 文徳	橋本 真生
佐藤 直也	金 濱 誠己	久保田 公宜	小林 有一
関 博文	三浦 義孝		

委員

小笠原 邦昭	森野 禎浩	宮田 剛	加藤 章信
佐々木 達哉	千葉 知	木村 啓二	白石 秀夫
田村 茂	八角 有紀	高橋 邦尚	木村 宗孝

岩手県県央保健所

所長 田名場 善明

盛岡市保健所

所長 矢野 亮佑 次長兼企画総務課長 工藤 弘幸

盛岡市医師会事務局

事務局長 及川 敬一郎
次長 水本 達彦 係長 谷藤 慎治

盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：令和2年11月26日（木） 午後1時
場 所：盛岡市医師会館



1. 報告

6月に行われた二次救急対策委員会同様、今回も新型コロナウイルス感染防止の対応として本委員会は委員には事前資料を配布し、意見、賛否を求めた上で常任委員のみの開催となった

- 1) 10月分患者データについて：患者総数2,597名と前年より907名、救急車搬送患者は643名と116名減少した。小児救急輪番日も164名と前年より203名減少した。輪番日以外は58名と大幅な減少であった。高度救命救急センターは総数214名と例年同様であった。参考として夜間急患診療所、休日救急当番医受診者も大幅に減少していた。
- 2) 令和元年度～令和2年の患者データについて：
 - (1)二次救急の総受診者数は月平均3,003名と前年、前々年に比較し約1,000名減少した。1～10月の救急車搬送数は6,276名と前年より約900名減少した。

- (2)小児救急輪番日総数は月平均224名と前年（449名）に比較し225名と大幅に減少した。
- (3)第193回小児救急電話相談事業事例検討会報告および令和元年度～令和2年10月までのデータについて
- (4)二次救急医療対策委員会小委員会（小児輪番に係る）報告：来年度も現在の体制を維持し、岩手医科大学は不参加、3病院にて行う。
- (5)医療提供体制推進事業補助金（医療提供体制設備整備事業）：盛岡友愛病院の事業計画を妥当とした。
- (6)令和2年度小児科救急医師研修事業ブロック別研修会について：紫波郡医師会が担当し開催予定であったが、本年度は中止した。
- (7)新型コロナウイルス感染症に関する院内感染対策研修会の開催について：令和2年12月3日(木)盛岡市立病院にて開催する。

2. 協議

- 1) 12月の二次救急病院当番表（案）について：原案通り了承された。
- 2) 令和3年1～3月小児救急受入病院当番表（案）について：原案通り了承された。
- 3) 令和3年度二次救急、小児救急輪番日程（案）：事務局案が提出され、今後調整して2月の対策委員会で最終決定する。
- 4) 広報もりおかへの年末年始の救急医療態勢記事掲載について：了承された。
- 5) その他：盛岡市保健所から、夜間急患診療所での、小児の外科系疾患の対応について相談があった。(1)外科系疾患を夜間急患診療所に紹介された。(2)外科系疾患を二次救急病院に紹介したら断られた事例。夜間急患診療所は、内科系疾患に限定した診療所であること。外科系疾患は外科医のいる二次救急病院が対応。事前に電話で問合せて受診し、最終的には岩手医科大学附属病院（矢巾）が対応可能な場合が多いことを説明する。

(久保直彦)

出席者		
委員長	吉田 耕太郎	
常任委員		
井上 義博	小山 耕太郎	須原 誠
外館 玄一朗	佐々木 一裕	相馬 淳
金子 博純	本間 博	菊池 貴彦
久保 直彦	智田 文徳	橋本 真生
佐藤 直也	金濱 誠己	久保田 公宜
小林 有一	関 博文	三浦 義孝
(書面にて)		
委員		
小笠原 邦昭	森野 禎浩	宮田 剛
加藤 章信	佐々木 達哉	千葉 知茂
木村 啓二	白石 秀夫	田村 宗孝
八角 有紀	高橋 邦尚	
岩手県県央保健所		
所長	田名場 善明	
盛岡市保健所		
所長	矢野 亮佑	

4. 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会

と き：令和2年4月27日（月）午後7時
ところ：盛岡市医師会看護学院 第4教室
司 会：盛岡市医師会 救急医療対策部
部 長 久保直彦

出席者

岩手医科大学小児科学講座	教 授	小 山 耕太郎
〃	助 教	和 田 泰 格
〃	助教（医局長）	塩 畑 健
岩手県立中央病院	小 児 科 長	三 上 仁
盛岡赤十字病院	小児科副部長	渡 辺 悠 太
川久保病院	小 児 科 長	蒔 苗 剛
国立病院機構盛岡医療センター	副 院 長	佐々木 美 香
盛岡市医師会小児科医会	会 長	白 井 由紀子
盛岡市医師会	代 表 理 事	吉 田 耕太郎
盛岡地区二次救急医療対策委員会	委員長代理	
盛岡市医師会救急医療対策部	部 長	久 保 直 彦
盛岡地区二次救急医療対策委員会	常 任 委 員	
盛岡市医師会	副 会 長	野 崎 英 二
〃	〃	金 子 博 純
盛岡地区二次救急医療対策委員会	常 任 委 員	相 馬 淳
〃	〃	金 濱 誠 己
〃	〃	小 林 有 一

— 次 第 —

挨拶

議 題

1. 岩手医科大学附属病院からの小児救急輪番制度の見直しのお願について
 - ・ 岩手医科大学附属病院長より文書にて輪番制度の見直し要請があった。岩手医科大学附属病院小児科は最重症の小児患者を受け入れる立場にあるが、一方4月14日付け厚労省事務連絡「新型コロナウイルス感染症に対応したがん患者、透析患者、障害児者、妊産婦、小児に係わる医療提供体制」にて「新型コロナウイルス感染症が疑われる小児の外来診療を原則として行わない医療機関」に相当する相反する立場にある。その対応策として小児輪番から一時脱退し、医師を派遣し他の輪番病院で肩代わりする方針案が示された。4月24日開催の盛岡地区二次救急医療対策委員会常任委員会では了承され、当小委員会でも了承された。
2. 新型コロナウイルス感染症に対する小児救急輪番の変更について
 - 1) 岩手医科大学が小児救急輪番から離脱する時期について：5月11日(月)以降とした。
 - 2) 変更方法について：岩手医科大学の分担日を各病院で割り振ることとした。直近の5月11日以降5月31日までの分について3病院で仮決定し、6月以降についても病院に持ち帰り早急に決定することになった。

- 3) この体制の終了時期について：終了時期について検討されたが現時点では一定の見解もないことから経過を見て協議することにした。
- 4) その他：従来岩手医科大学へ通院している患者が救急患者で受診希望があった場合について質問があり、そのような場合でも輪番病院が初期対応し、その結果岩手医科大学での治療が必要な場合には速やかに転院させることとした。
- 5) 県民、市民への周知について：
広報、マスコミに協力依頼して変更日を周知することにした。

5. 令和2年度盛岡地区二次救急医療関係市町会議 (令和2年8月4日付書面催)

1. 報告

(1) 令和元年度盛岡地区二次救急医療補助事業決算について

- ① 令和元年度盛岡地区二次救急医療事業決算書
- ② 令和元年度盛岡地区二次救急医療事業（小児救急）決算書

2. 協議

(1) 令和2年度盛岡地区二次救急医療補助事業予算について

- ① 令和2年度盛岡地区二次救急医療事業予算書
- ② 令和2年度盛岡地区二次救急医療事業（小児救急）予算書

(2) 令和2年度盛岡地区二次救急医療補助事業市町別負担金について

- ① 令和2年度盛岡地区二次救急医療事業市町別負担金割当表
- ② 令和2年度盛岡地区二次救急医療事業市町別負担金割当表（小児救急）

3. その他

(1) 盛岡地区二次救急医療対策委員会会計について

- ① 令和元年度盛岡地区二次救急医療対策委員会一般会計決算書
- ② 令和2年度盛岡地区二次救急医療対策委員会一般会計予算書

上記について、特に意見はなく協議事項に関してはどちらの項目も承認すると回答した。

6. 盛岡医師会・盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会（書面）

令和2年7月31日(金)に開催を予定していた打合わせ会は、7月29日に盛岡市で新型コロナウイルス感染症患者発生に伴い、急遽中止となった。議題として、例年説明されていた令和2年度盛岡市保健福祉部・子ども未来部の主要事業についての説明は無くなり、盛岡市医師会からの要望事項（以下、No.1～No.9）に対する回答が書面にて報告された。

盛岡市医師会からの要望事項に対する回答

▶ 要望事項 No.1

【高齢者施設等における新型コロナウイルスの対応について】

新型コロナウイルスの対応について介護保険施設をはじめとする高齢者施設の利用者は重症化のリスクが高いことから施設内の対応が極めて重要となります。

施設によっては医師が常駐しておらず発熱時などの対処は現場に委ねられるケースが多いと思われませんが、発熱や呼吸困難など新型コロナウイルス感染症が疑われる症状に該当する方が適切に救急受診するために盛岡市ではどのような対応策を講じておられるのか教えていただきたい。

▶ 回答（介護保険課）

発熱や呼吸困難など新型コロナウイルス感染症が疑われる症状に該当する方が発生した場合、介護保険施設等においては、必要な対処を行うとともに、帰国者・接触者相談センターに連絡し、指示を受けるとされており、この連絡を受けた同センターでは、患者の症状により適切な救急受診が可能となるよう各種調整や、必要な指示を行うとともに、帰国者・接触者外来の紹

介等を行うとされております。

対応策についてですが、介護保険課では、症状の発症について早期に発見できるよう努め、症状が確認できた場合は、速やかに帰国者・接触者相談センターに連絡を行い、必要な指示を受けるよう介護保険施設等に対し、国等からの感染予防、感染拡大防止等の事務連絡と併せ、適宜、周知を行っているところです。また、新型コロナウイルス感染症が疑われる症状に該当する方が適切に救急受診するための対応策を検討することにつきましては、今後、貴会から御指示をいただきながら、帰国者・接触者相談センターと共に必要となる対応策について検討してまいりたいと存じます。

なお、貴会からも推奨されております救急受診が行われる際、「救急・時間外受診連絡票」を導入することにつきましては、介護保険施設等に周知及び導入依頼を行っており、既に活用されているものと存じておりますが、新型コロナウイルス感染症に係る救急受診対応にも有効であるものと存じますので、その他必要となる対応策と併せて検討してまいります。

▶ 要望事項 No.2

【ワクチン接種の公費助成について】

- (1) 高齢者肺炎球菌ワクチンは前回接種から5年以上経過し医師と相談した上での再接種が任意で可能ですが2回目以降の接種につきましても公費で助成していただくよう要望いたします。
- (2) 帯状疱疹の発症率は50歳以上で増加する傾向があり発症後は様々な合併症や帯状疱疹後神経痛（PHN）への移行り

スクが加齢とともに高くなるといわれています。50歳以上の方を対象にした帯状疱疹ワクチンにつきましても公費による助成をお願いいたします。なおこれまで2つのワクチンが承認されていますがより効果の高いシングリックス®も対象になるよう希望いたします。

▶回答（保健予防課）

(1) 高齢者肺炎球菌ワクチンにつきましては、現在、予防接種法上の定期接種として、今まで23価肺炎球菌莢膜ポリサッカロイドワクチン（PPSV23）を接種したことの無い方を対象に、令和元年度から令和5年度までの5年間に1人1回、定期接種として公費助成が受けられる機会を設けております。

肺炎球菌ワクチンの再接種につきましては、（一社）日本感染症学会 肺炎球菌ワクチン再接種問題検討委員会での「肺炎球菌ワクチン再接種のガイダンス（改訂版）」（平成29年7月20日）によりますと、日本人高齢者におけるPPSV23の再接種時の免疫原性・安全性が報告されるとともに、海外でのPPSV23の追加接種を5年以上空けて繰り返して行うかについても各国で追加接種の方針が異なっているものの、繰り返す追加接種についての報告では免疫原性が維持され、副反応も許容範囲であるとされており、このことを踏まえ委員会ではPPSV23の再接種による臨床的な有効性のエビデンスは明確になっていないが、症例によって追加接種を繰り返すことを考慮してもよいとして、初回接種から5年以上経過した者を接種対象者とする報告されており、

現在、国の動向として予防接種法上ではA類疾病への変更の動きはなく、個人の疾病予防としてのB類疾病としての扱いであることから、国の方針を踏まえ2回目以降

の接種については任意接種となり現状での助成は難しいものと存じます。

今後につきましては初回接種から7年程度経過してもある程度の免疫原性が残存することや近年は接種率が40%程度に留まっていることを踏まえ予防接種を未だ受けたことがない方に対する周知啓発に努めてまいりたいと存じます。

(2) 帯状疱疹ワクチンにつきましては、平成29年11月に開催された第7回ワクチン評価に関する小委員会にて帯状疱疹の疾病負荷や帯状疱疹ワクチンの効果について議論が行われ、以後、平成30年5月に開催された同委員会では水痘ワクチン（生ワクチン）に加え、平成30年3月に薬事承認されたシングリックス®（不活化ワクチン）についても、審議・検討が進められているところです。

現在、国において、予防接種法上の定期接種化を検討している帯状疱疹ワクチンを導入した場合、期待される効果や導入に最適な年齢、医療経済学的評価などについては特にシングリックス®は、臨床試験では生ワクチンよりも、加齢とともに有効性が低下する傾向が認められないことや、有効性の持続が接種後4年目まで確認されていることが報告されています。市といたしましてはこれらの状況も踏まえ、国の動向を注視してまいります。

▶要望事項 No.3

【認知症対策について】

認知症は高齢者に多くみられる疾患ですが若い年代での認知症発症は高齢者の認知症とは違った様々な問題を抱え本人だけでなく家族の生活に大きな影響を与えるものとなります。若年で認知症を発症する人への支援体制の充実を要望いたします。

▶回答（長寿社会課）

認知症対策については、長寿社会課に認

知症初期集中支援チームを配置し、貴会に推薦いただいたサポート医の御協力も頂きながら、本人や家族、地域包括支援センター等の関係機関からの相談に基づき、認知症の人やその家族を訪問して、早期に医療機関の受診や介護のサービスの利用につなぐなど、初期における積極的な支援に取り組んでおります。

チームの活動の中では、毎年度1件程度は65歳未満の方に対する相談も寄せられており、岩手県基幹型認知症疾患医療センター等の関係機関と連携し、対応してまいりました。今後も、関係機関との連携に努め、早期の医療機関受診や介護サービス利用につなげる支援に取り組んでまいりたいと存じます。

また、若年性認知症の早期発見にもつながるよう、認知症に関する正しい知識と理解の普及や相談機関の周知のため、認知症サポーター養成講座の開催に取り組み、町内会や民生委員等の地域住民だけではなく、職域・企業や学校向けにも積極的に開催し、幅広い層に向けた普及啓発を図っております。

このほか、若年性認知症の方など、認知症や障がいなどにより判断能力が十分でない方の権利を守り生活を支える成年後見制度の普及啓発・利用支援体制の充実を図るため、令和2年4月に、盛岡広域5市町の共同で、盛岡広域成年後見センターを開設しており、支援を必要とする方が適切な支援を受けられ、認知症であっても暮らしやすい地域づくりに向けて、より一層取り組んでまいりたいと存じます。

▶要望事項 No.4

【肝炎ウイルス検診について】

盛岡市の肝炎ウイルス検診の受診者が減少傾向にあります。受診促進を強化していただき一人必ず1回はウイルスのスクリー

ニング検査を受けられるような体制を望みます。

▶回答（健康増進課）

盛岡市の肝炎ウイルス検診は平成14年度に開始され、受診者数については、平成14年度は2,974人、平成18年度は6,599人で、それをピークに減少しましたが、平成24年度の無料クーポン券利用開始により5,891人まで上昇し、近年また減少傾向にあります。令和元年度は、3,149人でした。受診勧奨として、40歳から60歳までの5歳刻みの年齢の方に、肝炎ウイルス個別勧奨通知による無料クーポン券を送付しております。

今後は、市民に対しての肝炎ウイルス検診の意義や、肝炎の早期発見の重要性を周知するとともに、無料クーポン券自体の表現を再検討します。また、色々な媒体を活用して受診を促し、受診者の増加に努めてまいります。

▶要望事項 No.5

【検診における感染予防策に対する補助について】

令和3年度の検診においても医療機関では新型コロナウイルス感染症に留意した十分な感染予防策を実施することが求められると予想されます。検診の実施にあたり各院で行うマスクやガウン、フェイスシールド、消毒液などのさまざまな感染予防策に対する補助を希望します。

▶回答（健康増進課）

委託医療機関におかれましては、現在、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施しながら、がん検診等を実施して頂いていることに感謝いたします。

全国の状況を見ますと、すぐに新型コロナウイルス感染症が完全に収束することは難しいと予想されます。

令和3年度に向けて、具体的に必要な感染予防対策の内容を精査し、検討してまい

りたいと思います。

▶要望事項 No.6

【妊婦に向けた新型コロナウイルス感染症対策に関する情報提供について】

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中多くの妊婦が感染への不安を感じています。厚生労働省では感染した場合の妊娠に与える影響や日常生活における感染予防また働き方における注意点等をまとめています。妊婦の方への情報提供について盛岡市ではどのように対応されているのか教えてください。

▶回答（母子健康課）

妊婦の方への情報提供につきましては、母子健康手帳交付時に、厚生労働省が作成した「新型コロナウイルス感染症（COVID19）対策～妊婦の方々へ～」のリーフレットを使用し、感染した場合の妊娠に与える影響や日常生活における感染予防等を説明しております。

また、働く妊婦に対しては、健康診査等の際に医師等から「仕事の内容等により、新型コロナウイルスの感染に大きな不安を抱いて心理的ストレスがある」と指導を受けた場合、事業主は必要な措置を講じなければならない旨を新たに規定したリーフレット「新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置について」により、情報提供しております。

さらに、妊婦の方々の不安軽減のため、相談窓口等について、市のホームページで周知を図っているところであります。

今後におきましても、リーフレットの配布による周知を継続するほか、市のホームページ、母子健康手帳交付時やパパママ教室等の機会を通じて、情報提供に努めてまいります。

▶要望事項 No.7

【耳鼻科健診用耳鏡の確保について】

保育園の耳鼻科健診について盛岡市が保有する耳鏡（じきょう）の数が不足しているため不足分は医療機関から借用している場合があります。

感染症予防の観点から盛岡市において健診実施に必要な数の耳鏡を確保（購入）していただき十分な滅菌体制を整備した上で健診実施を要望いたします。

▶回答（子育てあんしん課）

保育園の耳鼻科健診において、鼻鏡については当課で所有しているものを滅菌して使用いただいております。感染症予防の観点から耳鏡も同様に使用いただくことが望ましいと存じます。

健診実施に必要な数を確保し、十分な滅菌体制を整備するためには財源の確保等の課題もありますことから、他自治体の状況等も参考に、より良い健診体制について医師会と相談しながら整備してまいります。

▶要望事項 No.8

【5歳児健診の導入について】

現状では療育センターや岩手医大こころのケアセンターで診察していただくには1年以上待たなければならないと聞いています。3歳児健診だけでは精神運動発達 認知 行動 情緒の発達の遅れの半分しか発見できません。集団の場に入ってしばらく経過し就学までにまだ1年以上の準備期間のある5歳で健診を行うことはとても有意義です。

▶回答（母子健康課）

市では、心身の発達に障がい疑われる乳幼児などの早期発見と早期療育を図るために、乳幼児総合診査を実施しております。乳幼児健診や保育園・幼稚園からの紹介による受診で、療育が必要な乳幼児は早期に把握されていると考えておりますが、5歳児健診の導入により、現在より早期発見に

結びつくか、今後、医師会の先生方に御相談させていただきたいと存じます。

▶要望事項 No.9

【もりっこ健診における小児整形外科医の参加について】

もりっこ健診では精神発達のみならず運動発達に遅れのある子どもも診察しています。脳性麻痺による運動障がい、小児整形外科的疾患の療育に関して、小児科医、保健師、臨床心理士、他のスタッフとともに総合的に意見を伺いたいと思います。

▶回答（母子健康課）

もりっこ健診における運動障がい、小児

整形外科的疾患の診査に関しましては、理学療法士と作業療法士が従事し、必要時専門機関へ紹介することとしております。もりっこ健診の診査体制につきましては、乳幼児総合診査常任委員会で決定していただいておりますことから、御要望については、常任委員会においてお伝えしてまいりたいと存じます。

※会議が開催されませんでしたので、今回は出席者名簿を割愛させていただきます。

（工藤卓次）

7. 岩手県小児救急電話相談事業実績

はじめに

平成16年10月より、岩手県では「看護師によるこども救急相談電話」事業を実施している。この事業は、岩手県から岩手県医師会が受託し、実務的な業務は盛岡市医師会に委託されている。この相談員は、岩手県看護協会が推薦し、盛岡市医師会が雇用するものとし、10名を登録している。

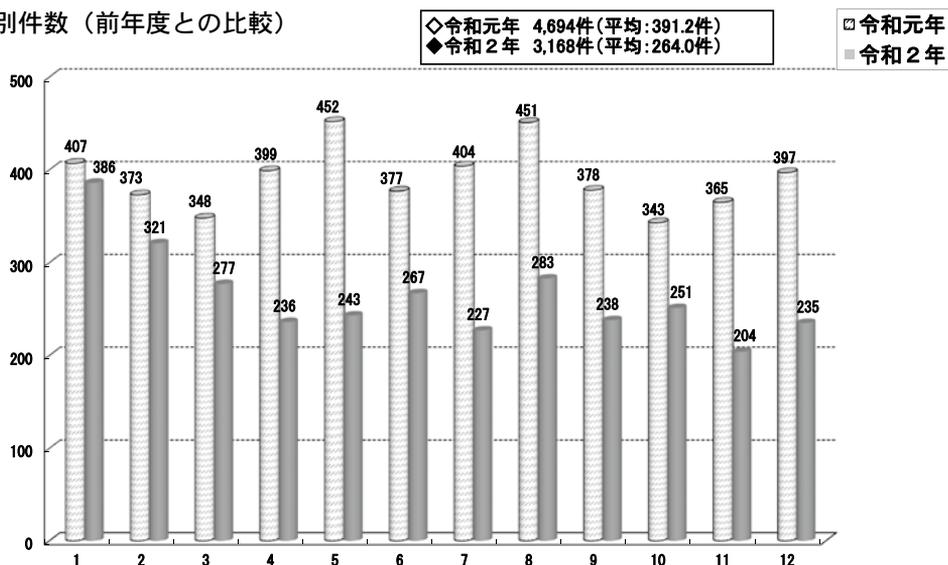
相談業務は年中無休で午後7時から午後11時まで行われ、登録した看護師のうち2名ずつで担当している。相談内容の検証、より良い相談方法、相談員の技術向上のため、毎月1回相談員全員と小児科医3名ほどが同席し、相談事例の検討会を行っている。その内容は市医師会の理事会で毎月報告されている。

1. 相談件数推移 (H16.10～H30.12)

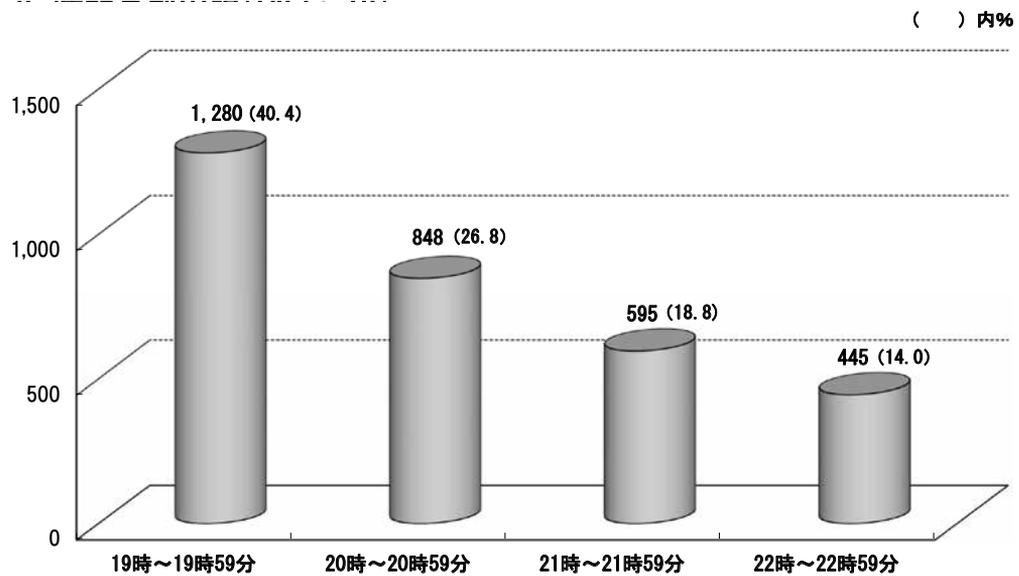
(件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成16年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	122	118	104	344	114.7
平成17年	118	224	281	185	219	199	191	145	138	200	169	248	2,317	193.1
平成18年	172	163	184	193	243	207	182	174	149	191	225	332	2,415	201.3
平成19年	220	221	271	245	239	226	189	175	191	172	251	347	2,747	228.9
平成20年	236	225	197	205	222	212	217	210	201	214	250	380	2,769	230.8
平成21年	296	266	262	242	276	274	209	249	309	454	493	494	3,824	318.7
平成22年	348	317	343	285	359	317	332	307	242	269	346	413	3,878	323.2
平成23年	368	325	297	262	350	314	351	345	307	303	331	360	3,913	326.1
平成24年	333	360	330	349	323	260	291	306	288	314	351	320	3,825	318.8
平成25年	305	255	277	303	331	297	297	334	362	314	292	353	3,720	310.0
平成26年	277	246	331	301	283	257	285	331	272	267	291	408	3,549	295.8
平成27年	364	256	240	245	325	279	268	305	288	283	309	350	3,512	292.7
平成28年	301	337	337	369	333	311	330	341	336	308	313	396	4,012	334.3
平成29年	297	261	258	315	391	367	376	372	309	352	338	352	3,988	332.3
平成30年	398	338	327	374	376	327	437	426	328	352	324	333	4,340	361.7
令和元年	407	373	348	399	452	377	404	451	378	343	365	397	4,694	391.2
令和2年	386	321	277	236	243	267	227	283	238	251	204	235	3,168	264.0

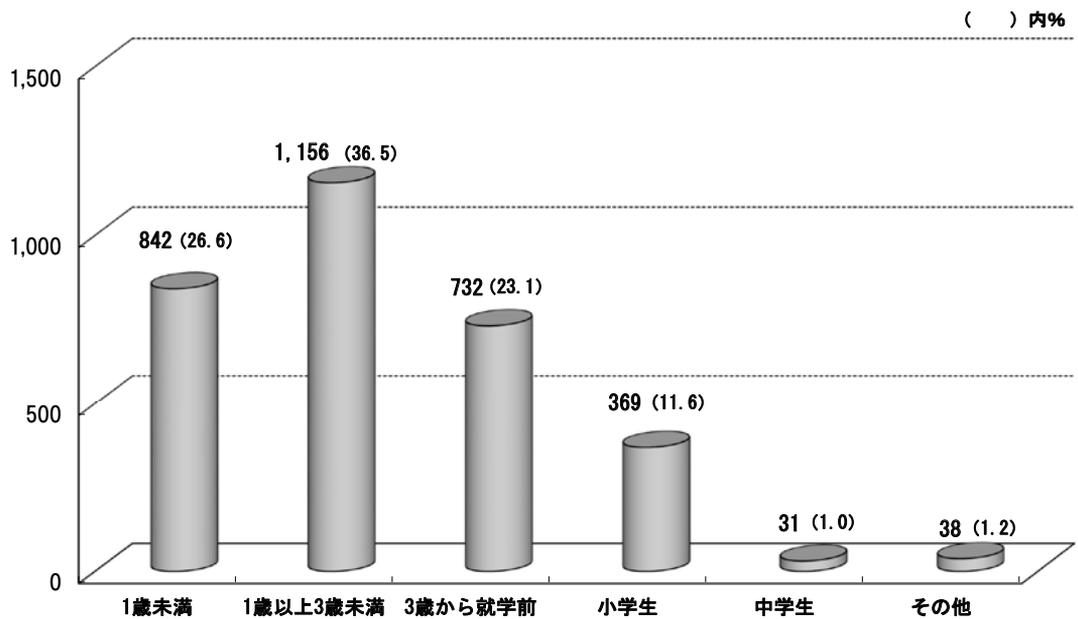
2. 月別件数 (前年度との比較)



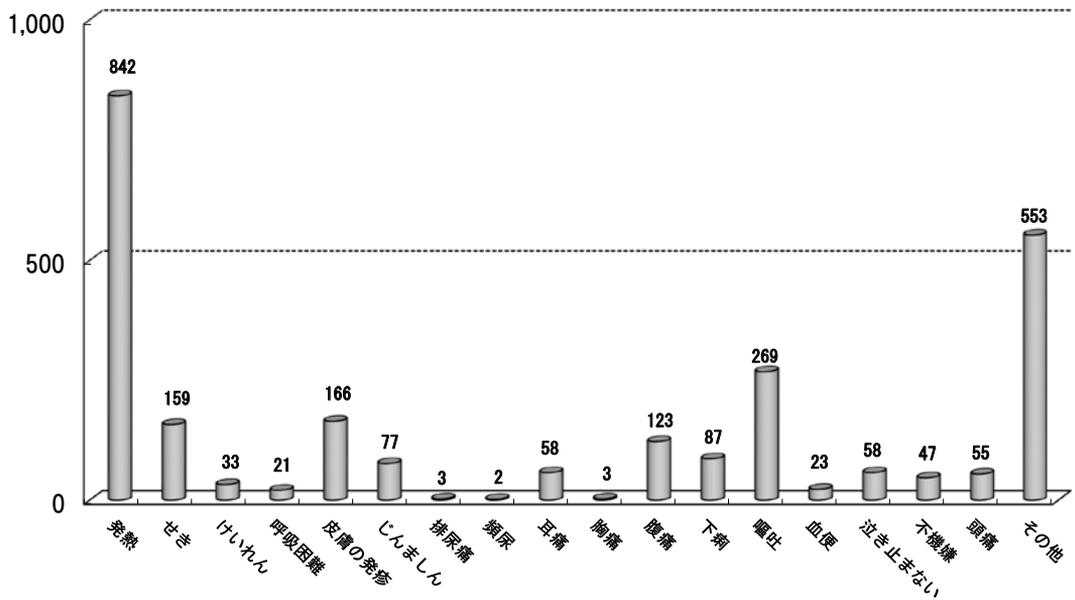
3. 時間帯別内訳 (R 2.1 ~ 12)



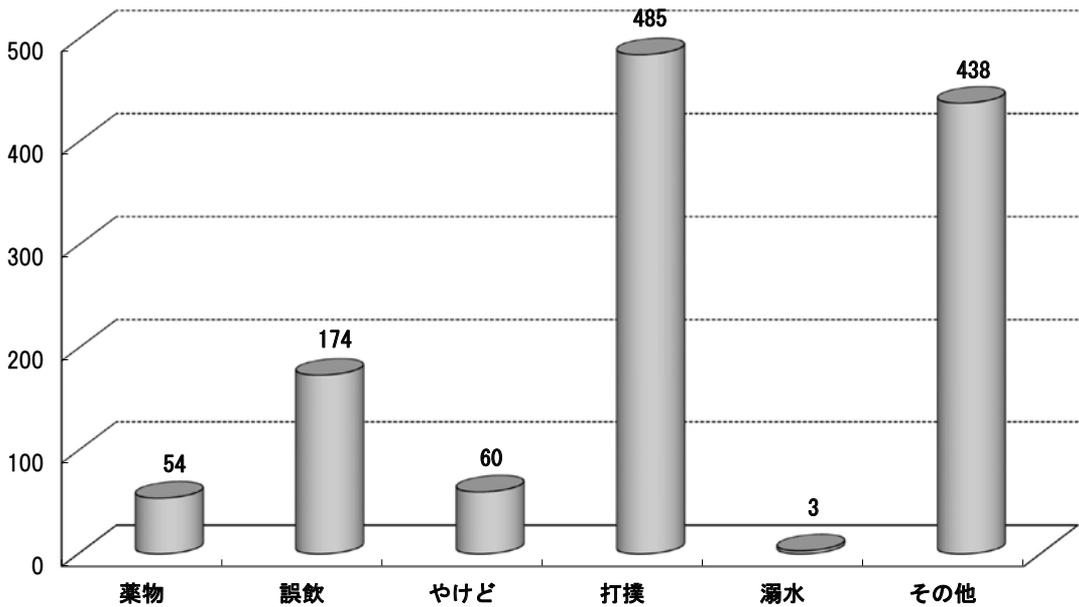
4. 年齢別内訳 (R 2.1 ~ 12)



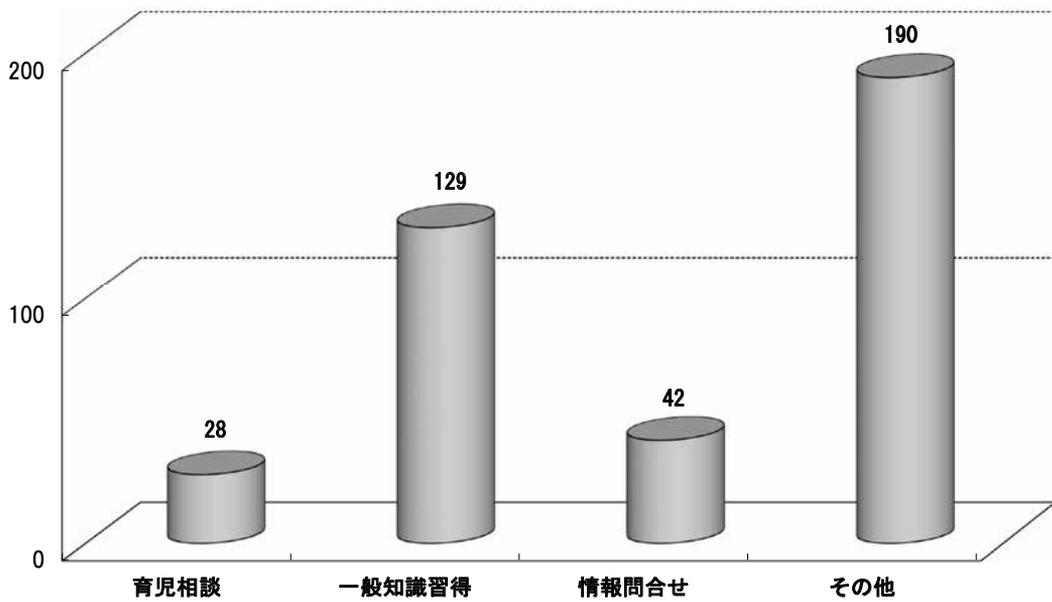
5. 相談別内容（病気）



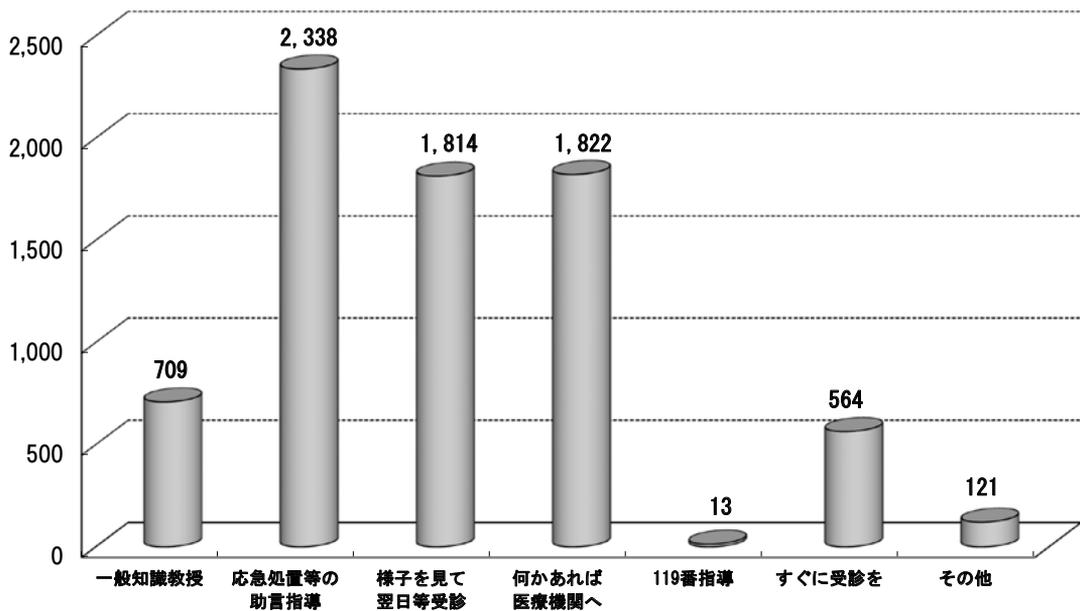
6. 相談内容別内訳（事故）



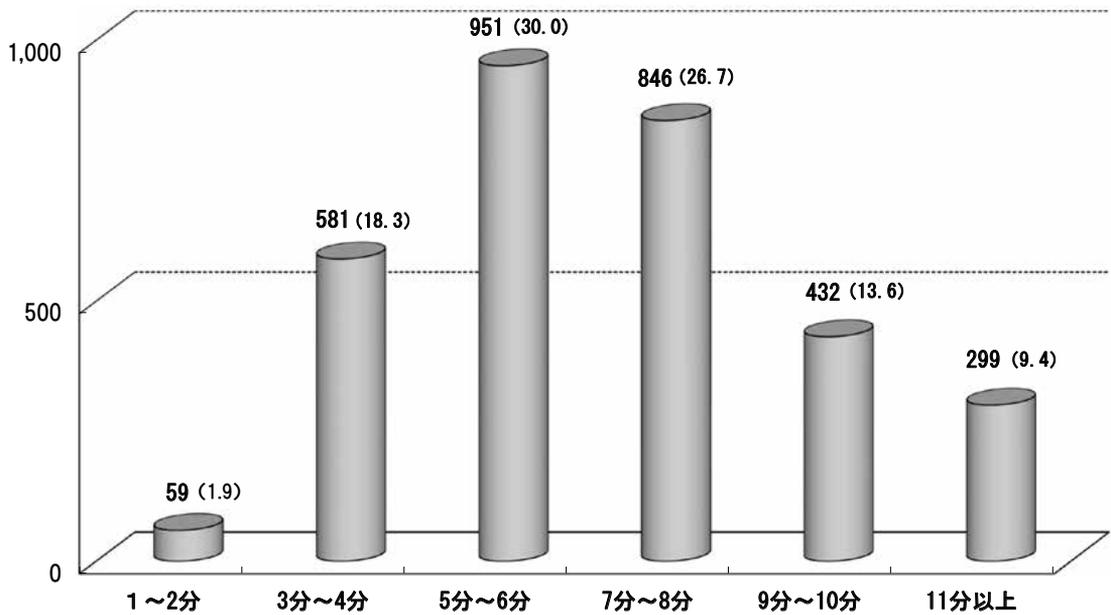
7. 相談内容別内訳（その他）



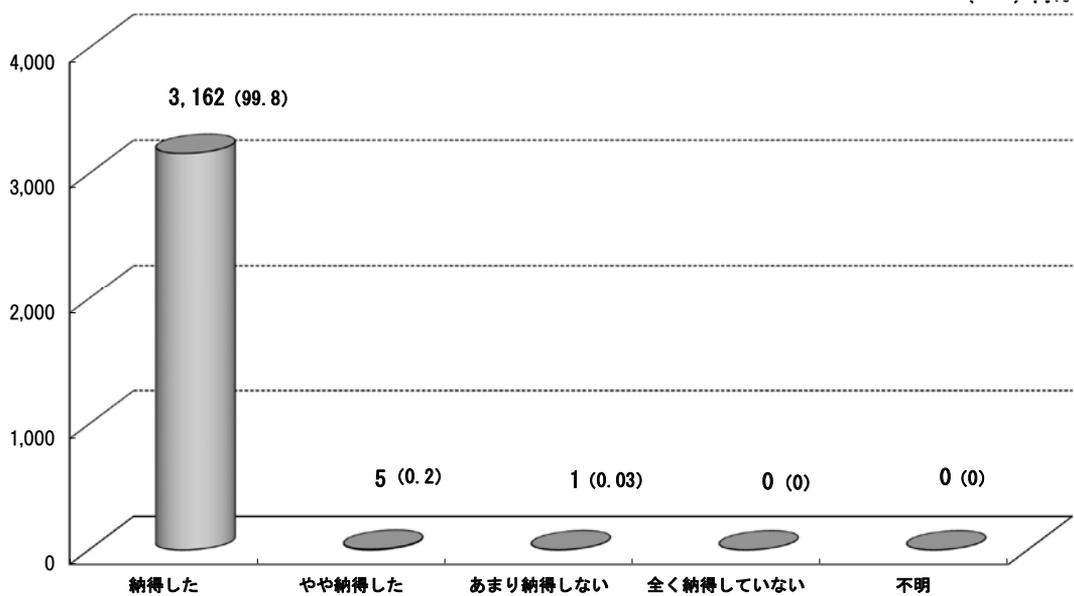
8. 対応内容別内訳（R2.1～12）



9. 相談時間別内訳 (R2.1～12)



10. 相談者の印象別内訳 (R2.1～12)



11. 市町村別件数 (R1.1～R2.12)

市町村名	相談件数	()内%	市町村名	相談件数	()内%
市部計	2,769	(87.41)	和賀郡	9	(0.28)
盛岡市	1,144	(36.11)	西和賀町	9	(0.28)
宮古市	79	(2.49)	胆沢郡	37	(1.17)
大船渡市	70	(2.21)	金ヶ崎町	37	(1.17)
奥州市	246	(7.77)	西磐井郡	19	(0.60)
花巻市	294	(9.28)	平泉町	19	(0.60)
北上市	230	(7.26)	気仙郡	6	(0.19)
久慈市	37	(1.17)	住田町	6	(0.19)
遠野市	37	(1.17)	上閉伊郡	8	(0.25)
一関市	277	(8.74)	大槌町	8	(0.25)
陸前高田市	30	(0.95)	下閉伊郡	20	(0.63)
釜石市	39	(1.23)	山田町	13	(0.41)
二戸市	33	(1.04)	岩泉町	2	(0.06)
八幡平市	47	(1.48)	田野畑村	1	(0.03)
滝沢市	206	(6.50)	普代村	4	(0.13)
岩手郡	54	(1.70)	九戸郡	32	(1.01)
雫石町	25	(0.79)	軽米町	4	(0.13)
葛巻町	8	(0.25)	洋野町	13	(0.41)
岩手町	21	(0.66)	野田村	8	(0.25)
紫波郡	188	(5.93)	九戸村	7	(0.22)
紫波町	103	(3.25)	二戸郡	9	(0.28)
矢巾町	85	(2.68)	一戸町	9	(0.28)
県外	14	(0.44)			
不明	3	(0.09)			
			合計	3,168	件

おわりに

令和2年の電話相談件数は3,168件(月平均264.0件)であった。新型コロナウイルス感染症による影響により過去最高だった令和元年の4,694に比べ1,500件近く減少した。

年齢別内訳では3歳未満が63.1%を占め、病気の相談では発熱に関する相談(32.6%)が最も多いという傾向は例年と同じである。

市町村別では、盛岡市からの相談が36.1%と最も多く、その他全県下から相談が寄せられているが、県外からの相談も0.4%認められた。また、相談時間が長くなる割合が昨年よりも増えている。対応に苦慮する事例も少なくないが相談者の99.8%は相談員の対応に納得しており、適切に対応しているといえる。「はじめに」で述べたように、相談員は事例検討会を開催したりするなど日々の相談技術の向上に努めており、その努力に敬意と感謝を表したい。

8. 新型コロナウイルス感染症に関する院内感染対策研修会

日 時：令和2年10月26日（月） 午後6時30分
場 所：盛岡市立病院2階会議室



【参加病院】

遠山病院、栃内病院、盛岡つなぎ温泉病院、盛岡友愛病院、八角病院、国立病院機構盛岡医療センター

1. Opening Remarkとして佐々木から2次救急外来におけるCOVID-19対策のポイントを概説した。特に濃厚接触者の定義は「コロナが疑われる症状を示した日の2日前から、距離が1m以内で、マスクなしの状態で15分以上会話した人」であることから、受付で患者とすれ違っただけでは感染はありえず、上記に手指消毒が徹底されれば、過度に恐れる必要はないことを説明した。



2. 研修内容

- 1) 院内感染防止対策の取り組み
盛岡市立病院
感染管理者
高見 洋 看護師

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を考慮した診療における留意点】

- (1) 地域の各医療機関の外来に共通する感染予防策。
- (2) 新型コロナウイルス感染症患者（同感染症が疑われる者も含む）を診察する際の感染予防策。
- (3) 何らかの症状を有し経過からCOVID-19が疑われる場合の留意点。
 - ① 標準予防策に加え、飛沫・接触予防策を実施する。
 - ② 診察室は、十分に換気の出来る個室が望ましい。
 - ③ 上気道検体を採取する場合は、サー

ジカルマスク・手袋・長袖ガウン・アイシールドを装着する。

- ④患者の移動は必要最小限にする。
- ⑤受付の職員なども飛沫予防策と標準予防策を徹底すること、ゾーニング（清潔・交差・汚染）の概念を説明した。
- ⑥清潔ゾーンでの就業は、通常通り（要サージカルマスク）→感染病床であっても、感染リスクは院内の他の場所と変わり無いため、就業は制限されることはない。
- ⑦交差ゾーンでは、必要に応じて防護具を装着する。
- ⑧汚染ゾーンでは、以下の防護具が必要である。（袖付きガウン、サージカルマスク、フェイスシールド（アイシールド）、手袋）

2) 診療フロアの患者動線やゾーニングの相談（1施設10分程度）

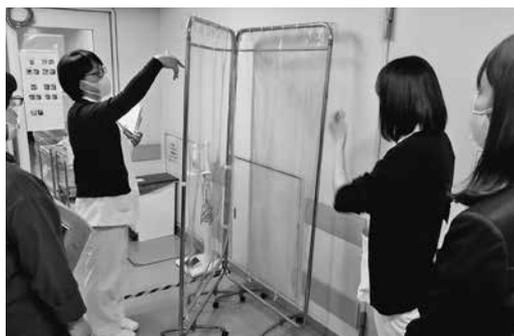


以上について、当院で行っている実例を織り込みながら、研修会を行った。

最後に質疑応答を行い、参加病院からゾーニングの相談を行い終了した。

※12月3日(木)午後7時から、病院を対象とした、第2回目となる院内対策研修会を開催した。研修会の内容は12月8日(火)よりウェブ視聴申込者へYouTubeにて配信しました。

（佐々木一裕）



V 救急医療年譜

- 昭和 40. 1.10 休日当番医制発足（内科、一日2ヵ所）
41. 7 休日当番医制に小児科および外科（それぞれ1日1ヵ所）が参加
51.12. 1 盛岡市夜間急患診療所が少年センター内（中の橋際、旧商工会議所）に開設
53. 3. 岩手県医業課より岩手県医師会、盛岡市医師会に二次体制確立要請
53. 6.16 盛岡市夜間急患診療所開設1周年記念式典開催
54.12. 1 盛岡地区二次救急医療体制発足、二次救急病院群輪番制9病院にて開始
岩手県立中央病院 盛岡市立病院 盛岡赤十字病院
岩手医科大学附属病院 遠山病院 高松病院
栃内病院 河南病院 はらた病院
55.11. 1 岩手県高次救急センター開設
56. 9.10 盛岡市夜間急患診療所開設5周年記念懇談会開催
56.12 内丸病院が二次救急病院群輪番制に参加
57. 2. 6 盛岡市夜間急患診療所が若園町・市役所若園町分庁舎1階に移転、診療開始
57.10.15 盛岡市夜間急患診療所診療時間の変更（夜8:00～12:00→夜7:30～11:30）
58. 7 はらた病院が二次救急病院群輪番制を辞退
62.11. 1 盛岡市夜間急患診療所が肴町盛岡市保健センター2階に新築移転、診療開始
62.11.14 盛岡市夜間急患診療所落成式開催
平成 4. 4. 1 盛岡市・都南村合併
5. 1 河南病院が二次救急病院群輪番制を辞退
7. 4. 1 盛岡繋温泉病院・盛岡友愛病院・川久保病院が二次救急病院群輪番制に参加
輪番病院を南北2ヶ所におく
8.12. 7 盛岡市夜間急患診療所開設20周年記念式典開催
11. 4. 1 小児救急病院群輪番制7病院にて開始
岩手県立中央病院 盛岡市立病院 盛岡赤十字病院
岩手医科大学附属病院 川久保病院 国立療養所盛岡病院
もりおかこども病院
11.11. 1 盛岡市夜間急患診療所診療時間の変更（夜7:30～11:00→夜7:00～11:00）
12. 4. 1 国立療養所盛岡病院が二次救急病院群輪番制に参加
12. 9. 1 南北にそれぞれおいていた輪番病院をA、Bの二グループに変更
Aグループ
岩手県立中央病院 盛岡赤十字病院 岩手医科大学附属病院
Bグループ
盛岡市立病院 遠山病院 高松病院 栃内病院 内丸病院
盛岡繋温泉病院 盛岡友愛病院 川久保病院 国立療養所盛岡病院
13. 2.22 盛岡地区二次救急医療体制20周年記念式典開催
14. 2. 1 岩手県高次救急センターを「岩手県高度救命救急センター」と改称
14. 9. 1 国立療養所盛岡病院が小児救急病院群輪番制を休止
16.10. 1 看護師によるこども救急電話相談の開設
17. 4. 1 川久保病院が小児救急病院群輪番制を休止
17. 9. 1 西根町・松尾村・安代町が合併し「八幡平市」となる
18. 1.10 玉山村が盛岡市と合併

- 19. 3.24 盛岡市夜間急患診療所開設 30 周年を祝う会開催
- 19. 4. 1 盛岡市立病院が小児救急病院群輪番制を休止（産婦人科も休止）
- 20. 4. 1 内丸病院が二次救急病院群輪番制を辞退
- 20. 4. 1 盛岡市が中核市となる
盛岡市夜間急患診療所が盛岡市保健所（旧競馬会館ビル）に移転開設
- 20. 6.14 岩手・宮城内陸地震発生（最大震度 6 強）
- 20. 6 盛岡市医師会災害時対応マニュアルの作成（全会員へ送付）
- 20. 7.24 岩手県沿岸北部を中心とする地震発生（最大震度 6 強）
- 21. 1 川久保病院が小児救急病院群輪番制を再開
- 21. 3 メキシコにおける豚インフルエンザの発生
- 21. 5 新型インフルエンザの国内発生
- 21. 6 新型インフルエンザの県内発生
- 21.10 夜間急患診療所小児科診療を 2 人体制で対応（H 22.1.3 まで）
- 21.11.26 盛岡地区二次救急医療体制 30 周年記念式典開催
- 22. 4. 1 八角病院が二次救急病院群輪番制に参加（B 群病院として）
- 23. 3.11 東北太平洋沖地震発生（後に東日本大震災）
PM2：46 発災、マグニチュード 9.0（最大震度 7）、
津波による死者・行方不明者 19,000 人超
- 23. 3.12 遺体検案応援が始まる（盛岡市・岩手郡・紫波郡医師会は 6 月まで応援）
- 23. 5. 7 山田町保健センター救護所への当直応援開始（7/3 まで）
※盛岡医師会・岩手郡医師会・二戸医師会で派遣対応
- 23. 7.10 岩手県立山田病院 仮設診療所への日曜・祝祭日の当直応援開始
※盛岡医師会・岩手郡医師会・二戸医師会で派遣対応
- 23. 8. 7 岩手県医師会高田診療所への診療応援開始
※各診療部会で派遣対応
- 24. 5. 8 岩手県による「ドクターヘリ」が運行開始（岩手医大矢巾キャンパス基地）
- 24.12.30 岩手県立山田病院 仮設診療所への日曜・祝祭日の当直応援終了
- 25. 8. 9 大雨により「大雨洪水警報」発令
雫石町国道 46 号線付近で乗用車・バスが孤立、消防本部による救助活動有
- 25. 9.16 台風 18 号の影響により玉山区松川が氾濫、浸水地域で消防本部による救助活動有
- 26. 1. 1 滝沢村が「滝沢市」となる
- 28. 3.20 岩手県医師会高田診療所への診療応援終了（閉所式）
- 28. 8.31 台風 10 号の影響により、岩泉町・久慈市など沿岸地域に甚大な洪水被害有死者・行方不明者 24 名
- 29. 3.13 岩手医科大学附属病院新築工事起工式
- 31. 3. 1 国立病院機構盛岡病院が「国立病院機構盛岡医療センター」に名称変更
- 31. 4. 1 もりおかこども病院が「子どもは未来もりおかこどもクリニック」に名称変更
（無床化のため小児救急病院群輪番制を中止）
- 令和 1. 5.20 岩手県立中央病院（隣接地）にヘリポート完成
- 1. 6.18 国立病院機構盛岡医療センターが重症心身障がい者病棟（さくら病棟）を開棟
- 1. 7.20 岩手医科大学附属病院（矢巾）竣工
- 1. 9.21 岩手医科大学附属病院（矢巾）・内丸メディカルセンター開院
- 1. 9.24 岩手医科大学附属病院（矢巾）外来診療開始

- 1.10. 1 国立病院機構盛岡医療センターが小児救急病院群輪番制への参加を再開
(平成 14 年 9 月に休止)
- 1.12 中国湖北省武漢市における新型コロナウイルス発生
- 2. 1.24 新型コロナウイルスの国内発生
- 2. 4. 1 高松病院が二次救急病院群輪番制を休止
川久保病院が小児救急病院群輪番制を休止
- 2. 4.16 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、岩手県を含む全国が国の緊急事態
宣言の対象地域となる
- 2. 5.11 新型コロナウイルス感染症の対応に伴い、岩手医科大学附属病院が小児救急
病院群輪番制から一時的に脱退
- 2. 5.14 岩手県を含む 39 県について緊急事態措置を解除
- 2. 7.29 県内で新型コロナウイルス感染症患者の判明
- 2.11.23 県内で新型コロナウイルス感染症による死亡例を確認

VI 規程・協定書及び設置要項等資料

1. 盛岡市夜間急患診療所運営協議会会則

(昭和52年2月1日盛岡市長決裁)

改正 昭和52年4月19日

昭和55年12月1日

平成9年4月1日

平成20年4月1日(平成20年4月1日副市長専決)

平成22年4月1日(平成22年3月3日副市長専決)

平成24年6月1日(平成24年5月30日副市長専決)

- 第1条 盛岡市夜間急患診療所(以下「診療所」という。)の円滑な運営を図るため、盛岡市夜間急患診療所運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。
- 第2条 協議会は、次に掲げる団体等をもって組織し、事務局を盛岡市保健所企画総務課内に置く。
(1) 盛岡市医師会
(2) 盛岡薬剤師会
(3) 岩手県看護協会
(4) 盛岡市
- 第3条 協議会は、次に掲げる事項について協議決定の推進に努めるものとする。
(1) 診療所における医師その他従事者の勤務に関すること。
(2) 診療所において生じた事故処理に関すること。
(3) 診療所の事務改善に関すること。
(4) その他診療所の運営に必要な事項に関すること。
- 第4条 前条各号に掲げる事項を審議するため、協議会に次の各号に掲げる構成団体の区分に応じ、当該各号に定める数の委員を置く。
(1) 盛岡市医師会 7人
(2) 盛岡薬剤師会 2人
(3) 岩手県看護協会 1人
(4) 盛岡市 2人
- 第5条 2 委員の任期は、2年とする。ただし、補充の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
協議会に会長及び副会長1人を置く。
(1) 会長及び副会長は、委員の互選とする。
(2) 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
(3) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 第6条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。
- 第7条 2 協議会の事務を処理させるため協議会に事務局長及び事務局職員を置く。
事務局長は盛岡市職員のうちから、事務局職員は構成団体職員のうちから会長が委嘱する。
- 第8条 この会則に定あるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定ある。
附則
この規約は、昭和52年4月19日から施行する。
附則
この規約は、昭和55年12月1日から施行する。
附則
この規約は、平成9年4月1日から施行する。
附則
この規約は、平成20年4月1日から施行する。
附則
この規約は、平成22年4月1日から施行する。
附則
この規約は、平成24年6月1日から施行する。
1 この規約の2の規定によらず、平成24年6月1日から委嘱する委員の任期については、平成24年6月1日から平成26年3月31日までの1年10か月とし、その後に委嘱する委員の任期については、従前のおりとする。

2. 災害時の医療救護活動に関する協定書

盛岡市医師会長 石川育成

近時、集団災害時医療救助の体制確立は大きな社会問題であると同時に焦眉の急である。

外国に目を移すとその救助活動は目を見張るものであり、残念乍ら我が国は「富国日本は金も出さず人も出さず国際的役割を果たしていない」と批判的的であると言う。国内の体制が整備されない現実を視ればそれも頷かざるをえない事実であろう。

過去を省みるまでもなく、国内に発生した集団災害の医療救助体制は付け焼刃であり必ずしも満足出来るものではない。災害対策基本法に基づいて夫々の地方自治体に体制が現存するとは言え、過去においてその体制の本格的作動は皆無に近い。

地方小都市と言えども集団災害に無縁ではない。近年の高層ビルの林立は集団災害発生の素地を有し、飛行機事故、大地震、津波等々の発生予見は不可能である。斯かる事態発生を想定しての医師集団率先による具体的体制確立が急務であることは言を待たない。

盛岡市医師会は数年来、斯かる問題に鋭意検討、研究を重ねて来たところであるが、出動時の死傷補償が大きな壁であった。然し乍ら補償問題決着の待事では増があかず、体制確立と平行しての行政接衝を条件とし、医道・医心を弁えた会員の総意による『盛岡市医師会災害救助隊設置要項』が昭和61年5月の総会承認を得たのである。

此の度盛岡市当局は勇断をもって盛岡市医師会との協定を締結したが、この協定は医師集団の理念を充分理解したものであり、この実績が県内各市町村に波及する事によって15郡市医師会の足並みが完全に揃い、岩手県医師会の提唱する大目的が達成される原動力になる事を期待するものである。

此の種の問題は画一的にとらえて実行に移す事は極めて困難な部分が多い。地域環境、会員数等々の地域事情も考慮しなければならないが、災害における人命救助活動は医師集団の組織活動力以外にない。地域事情の困難性を越えての体制作りこそ医師集団への期待と信頼が倍加する事になろう。

岩手県医師会は災害救助体制確立を急務としている。底辺からの対応策の集積が「岩手県と岩手県医師会」「岩手県医師会と郡市医師会」「郡市医師会と市町村」「岩手県と市町村」の協定図式の基盤となる事は明白である。

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ1988」より

① 岩手県と岩手県医師会との協定書

岩手県（以下「甲」という。）と社団法人岩手県医師会（以下「乙」という。）は災害時における医療救護について、次のとおり協定を締結する。

（趣 旨）

第1条 この協定は岩手県地域防災計画に基づき、甲が行う医療救護に対する乙の協力に関し、必要な事項を定めるものとする。

（医療班の派遣）

第2条 甲は、岩手県地域防災計画に基づき、医療救護活動を実施する必要がある場合は、乙に対し医療班の編成及び派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の規定により甲から要請を受けた場合は、直ちに医療班を編成し災害現場等の救護所等に派遣するものとする。

（自主出動）

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待っているとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

3 乙が前項の規定により派遣した後において、甲が前条に基づき医療班の派遣が必要と認めたときは、乙が派遣したときに要請があったものとみなす。

（災害医療救護計画）

第3条 乙は、前2条の規定により医療救護活動の円滑な実施を図るため、災害医療救護計画を策定し、これを甲に提出するものとする。

（医療班に対する指揮）

第4条 医療救護活動の総合調整を図るため、乙が派遣する医療班に対する指揮は、甲が指定するものを行う。

（医療班の業務）

第5条 乙が派遣する医療班は、甲または市町村が避難所及び災害現場等に設置する救護所において医療救護活動を行うことを原則とする。

2 医療班の業務は次の通りとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置及び医療
- (2) 傷病者の収容医療機関への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 被災者の死亡の確認

（医薬品等の供給）

第6条 乙が派遣する医療班が使用する医薬品等は、当該医療班が携行するもののほか、甲が供給するものとする。

（収容医療機関の指定）

第7条 乙は、甲が傷病者の収容医療機関を指定しようとするときは、これに協力するものとする。

(医療費)

第8条 救護所における医療費は無料とする。

2 収容医療機関における医療費は、原則として患者負担とする。

(費用の弁償等)

第9条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動を実施した場合に要する次の費用は、甲が負担するものとする。

- (1) 医療班の編成及び派遣に要する経費
- (2) 医療班が携行した医薬品等を使用した場合の実費
- (3) 医療班員が医療救護活動において負傷し、疾病にかかりまたは死亡した場合の扶助金
- (4) 前各号に該当しない費用であって、この協定実施のために要したもの

(細目)

第10条 この協定を実施するための必要な事項については、別に定める。

(協議)

第11条 この協定に定めのない事項、またはこの協定に関し疑義が生じた事項については、甲乙協議のうえ定めるものとする。

(有効期間)

第12条 この協定の有効期間は、協定の締結の日から起算して1年間とする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、甲乙いずれからも何らかの意思表示がないときは、有効期間満了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以降同様とする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙者記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成10年3月19日

甲 岩手県
代表者 岩手県知事 増田寛也

乙 盛岡市菜園二丁目8番20号
社団法人 岩手県医師会
会長 石川育成

② 岩手県医師会と盛岡市医師会との協定書

社団法人岩手県医師会（以下「甲」という。）と社団法人盛岡市医師会（以下「乙」という。）とは、平成元年4月20日岩手県知事と岩手県医師会長との間に締結された「災害時の医療救護に関する協定書」に基づき、災害時の医療救護活動について、次のとおり協定を締結する。

（総 則）

第1条 この協定書は、岩手県地域防災計画に基づき、岩手県が行う医療救護活動に対し、岩手県知事と岩手県医師会長との間に協定された災害時の医療救護活動についての乙の協力に関し、必要な事項を定める。

（医療救護班の派遣）

第2条 甲は、医療救護活動を実施する必要がある場合は乙に対し、医療救護班の派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の協定により、甲から要請を受けたときは、直ちに乙の災害医療救護計画に基づき、医療救護班を派遣するものとする。

（自主出動）

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

3 乙が、前項の規定により派遣した後において、甲が前条に基づき医療班の派遣が必要と認めたときは、乙が派遣したときに要請があったものとみなす。

（災害医療救護計画）

第3条 乙は、医療救護活動の円滑な実施を図るため災害医療救護計画を策定し、これを甲に提出するものとする。

（指揮命令）

第4条 医療救護班に係る指揮命令及び医療救護活動の連絡調整は、甲の指定する者が行うものとする。

（医療救護班の業務）

第5条 乙が派遣する医療救護班は、岩手県または市町村が避難場所、避難所及び災害現場等に設置する救護所において医療救護を行う。

2 医療救護班の業務は次のとおりとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置及び医療
- (2) 傷病者の収容医療機関への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 被災者の死亡の確認

（医薬品等の供給）

第6条 乙が派遣する医療救護班が使用する医薬品等は、当該医療救護班が携行するもののほか、原則として岩手県が供給するものとする。

(収容医療機関の指定)

第7条 乙は、岩手県が地域防災計画に基づく収容医療機関を指定しようとするときは、これに協力するものとする。

(医療費)

第8条 救護所における医療費は無料とする。

2 収容医療機関における医療費は、原則として患者負担とする。

(費用弁償等)

第9条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動を実施した場合に要する次の費用については、乙が甲に請求するものとする。

(1) 医療救護班の編成及び派遣に要する経費

(2) 医療救護班が携行した医薬品等を使用した場合の実費

(3) 医療救護班員が医療救護活動において負傷し、疾病にかかり、または死亡した場合の扶助金

(4) 前各号に該当しない費用であって、この協定実施のために要したもの

2 前項第1号、第2号の定めにより請求する費用弁償等の額については、岩手県知事と岩手県医師会長との間に締結された「災害時の医療救護に関する協定書及び同実施細則」によるものとする。

(費用弁償等の請求、報告)

第10条 前条の定めによる費用弁償等の請求、報告については、医療救護活動終了後、速やかに乙が一括して別に定める方式により甲に請求、報告するものとする。

(費用弁償等の支払)

第11条 甲は、乙からの請求、報告に基づき費用弁償等を岩手県へ請求するものとし、岩手県から入金後速やかに乙に支払うものとする。

(協 議)

第12条 前各条に定めのない事項及び協定実施にあたって疑義を生じた場合には、甲乙協議のうえ決定するものとする。

(有効期間)

第13条 この協定の有効期間（以下「協定機関」という。）は、協定の締結の日から起算して1年間とする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、甲乙いずれからも何らかの意思表示がないときは、有効期間満了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以降同様とする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙両者記名押印のうえ各自その1通を保有する。

平成10年3月31日

岩手県盛岡市菜園二丁目8番20号

甲 社団法人 岩手県医師会

会 長 石 川 育 成

岩手県盛岡市愛宕町18番6号

乙 社団法人 盛岡市医師会

会 長 小 林 高

③ 盛岡市と盛岡市医師会との協定書

盛岡市（以下「甲」という。）と社団法人盛岡市医師会（以下「乙」という。）とは、災害が発生した場合の医療救護活動について、次のとおり協定を締結する。

（趣 旨）

第1条 この協定は、盛岡市地域防災計画（以下「防災計画」という。）に基づき、甲が乙の協力を得て行う医療救護活動を円滑に実施するため、その実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（医療救護班の派遣）

第2条 甲は、防災計画に基づく医療救護活動を行う必要が生じたときは、乙に対し、医師、看護婦等で編成する医療救護班（以下「医療救護班」という。）の派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の規定により甲の要請を受けたときは、直ちに、医療救護班を甲の指定する場所に派遣するものとする。

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待っているとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療救護班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療救護班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療救護班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

（医療救護班の業務）

第3条 医療救護班の業務は、次のとおりとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置
- (2) 後送医療施設への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 助産
- (4) 死亡の確認

（医療救護班の輸送）

第4条 医療救護班の輸送は、原則として甲が行う。

（救護所の設置）

第5条 甲は、災害の状況により必要に応じて救護所を設置する。

2 甲は、前項に定めるもののほか、災害の状況により必要と認めたときは、医療救護活動が可能な被災地周辺の医療施設に乙の協力を得て救護所を設置する。

（使用医薬品等）

第6条 医療救護活動に使用する医薬品、医療材料その他医療関係物品（以下「医療品等」という。）は、原則として甲が備える医薬品等とする。

2 前項の医薬品の輸送は、原則として甲が行う。

（救護所における給食等）

第7条 救護所において必要とする給食及び給水は、甲が行う。

（医療費）

第8条 救護所における医療費は、無料とし、患者に対しては請求しないものとする。

2 後送医療施設における医療費は、患者が負担する。

(費用弁償)

第9条 甲は、次の各号に掲げる費用について、当該各号に定める額を負担する。

- (1) 医療救護班を派遣したときの人件費災害救助法（昭和22年法律第118号）の規定に基づく実費弁償の程度を基準として、甲、乙協議して定まる額
- (2) 医療救護班が調達した医薬品等を使用したときのその使用した医薬品等の費用実費の額
- (3) 後送医療施設及び救護所において行った医療救護活動に伴い、当該後送医療施設及び救護所の施設又は設備を損傷したときの当該施設又は設備の現状回復に要する費用実費の額
- (4) 前各号に該当しない費用で、この協定実施のため要したものの甲、乙協議して定まる額
(扶助費)

第10条 甲は、医療救護班の医師、看護婦等が医療救護活動において負傷し、疾病にかかり、又は死亡したときは、災害救助法の規定に基づき支給される扶助金の例により扶助費を支給する。

(医事紛争の措置)

第11条 医療救護班が医療活動により患者との間に医事紛争が生じたときは、乙は、直ちに甲に連絡するものとする。

2 甲は、前項の連絡を受けたときは速やかに調査し、乙と協議の上誠意をもって解決のため適当な措置を講ずるものとする。

(報告)

第12条 乙は、医療救護活動終了後速やかに甲の定るところにより医療救護活動従事者の氏名及び人数その他医療救護活動の内容を、甲に報告するものとする。

(費用等の請求)

第13条 乙は、第9条の費用及び第10条の扶助費（以下「費用等」という。）を請求するときは、甲の定めるところにより行うものとする。

(支払)

第14条 甲は、前条の規定により費用等の請求があったときは、その内容を審査し、適当であると認めるときは、その費用等を乙に支払うものとする。

(協議)

第15条 この協定に定めのない事項又はこの協定について疑義が生じた事項については、甲、乙協議して定める。

(協定期間)

第16条 この協定の有効期間は、昭和62年10月1日から昭和63年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了1月前までに甲、乙いずれかから何ら意思表示がないときは、更に期間満了の翌日から1年間この協定を更新するものとし、以後この例による。

この協定の締結の証として、本書2通を作成し、甲、乙記名押印して、それぞれの1通を保有するものとする。

平成11年11月15日

甲 盛岡市

代表者 盛岡市長 桑 島 博

乙 盛岡市愛宕町18番6号

社団法人盛岡市医師会

会 長 小 林 高

3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会 設置要項

(設 置)

第1条 盛岡市医師会に二次救急医療対策委員会（以下委員会という）を置く。

(所 掌)

第2条 委員会は次に掲げる事項を審議する。

- (1) 盛岡地区に於ける救急医療対策に関する事項
- (2) その他二次救急医療対策に伴う必要な事項

(構 成)

第3条 委員会は盛岡市医師会長が任命した委員をもって構成し、委員会に若干名の常任委員を置く。

(任 期)

第4条 委員の任期は盛岡市医師会役員の任期と同じとする。

(委 員 長)

第5条 委員会に委員長を置き委員長は盛岡市医師会長とする。

- (1) 委員長は会務を総括し会議の議長となる
- (2) 委員長が事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する

(会 議)

第6条 委員会の会議は必要に応じて委員長が招集する。

- (1) 会議は委員会と常任委員会の二種とする
- (2) 委員長は必要があるときは関係者を出席させ説明又は意見を求めることが出来る

(会議の結果)

第7条 委員会は必要に応じて審議した結果を速やかに医師会長に報告する。

第8条 本委員会の庶務は盛岡市医師会事務局に於いて処理する

(経 費)

第9条 委員会の経費は補助金、関連医療機関からの拠出金及びその他の収入金をもって充てる。

(1) 拠出金の額は毎年3月に委員会に於いて審議決定する

附 則

- 第 10 条 この要項は昭和55年4月1日から施行する。
この会則は、平成 2年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成 7年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成 8年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成 9年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成12年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成20年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成22年4月 1日一部改正する。
この会則は、平成24年6月26日一部改正する。
この会則は、平成31年3月 1日一部改正する。
この会則は、平成31年4月 1日一部改正する。

付 表

- 委 員 -

岩手医科大学附属病院	院長	他4名
岩手県立中央病院	院長	他1名
盛岡赤十字病院	院長	他1名
盛岡市立病院	院長	他1名
高松病院	院長	1名
栃内病院	院長	1名
遠山病院	院長	1名
盛岡つなぎ温泉病院	院長	1名
盛岡友愛病院	院長	1名
川久保病院	院長	1名
独立行政法人国立病院機構盛岡医療センター	院長	1名
八角病院	院長	1名
夜間急患診療所運営委員		4名
盛岡市医師会理事		8名
岩手西北医師会	会長	1名
紫波郡医師会	会長	1名
その他		若干名 以上 37名以内

Ⅶ 編集後記

2019年12月に中国、武漢で新型コロナウイルス感染症が発生して以来、感染拡大の波は数回押し寄せて、本稿を書いている時点で感染者は100万人を超え、死亡者は15,000人を超えた。次々と現れる変異株のために感染患者は増加する一方で、首都圏を中心に数回目の緊急事態宣言が発せられ、まん延防止等重点措置も大都市圏周囲の県に適応になっているが、その効果はいまのところ現れていない。しかし、ワクチン接種は高齢者の80%に実施され、感染の減少と感染しても重症化する患者が減少しているとの報告があり、感染予防のためより迅速に広いワクチン接種が実施されることが期待されている。

さて、2020年の動向を記した「あゆみ」が発刊された。詳細は各報告を参照していただきたいが、初期救急、二次救急患者は感染が日本に波及した2月から減少し始め、3月以降は30%以上の減少を示している。初期救急でも当番医、夜間急患診療所とも半減、小児科は約3分の1まで減少した。これの原因として病院での感染を恐れた受診控えや、マスクなどの予防策による感染症全般への罹患の減少、生活様式の変化による外傷の減少などが言われており、特に感染予防の効果は大きく12月以降のインフルエンザの発症は稀となった。逆を言えば新型コロナウイルス感染症の感染力の強さを際立たせる結果になった。また、救急医療体制にも大きな影響を与えた。初期においては、知識不足、検査体制、治療、入院体制もできておらず、救急の現場で大きな混乱を起こした。発熱患者の診療拒否、救急車の受け入れ困難例などの事例が多発し、初期診療機関でも診療対象を縮小したり、小児救急医療輪番体制から岩手医科大学附属病院が一時離脱するなど、大きな影響を及ぼした。その後、県の調整と各救急医療機関の協力より、新型コロナウイルス感染症患者の診療体制が出来上がり、救急医療体制も落ち着きだした。令和3年になっても救急患者の減少は続いており、今後の動向を観ていきたい。まだまだ先の見えない現状で、各救急医療機関の今後の一層のご協力をお願いしたい。

最後に寄稿していただきました各位、貴重なデータを毎月報告している各医療機関、保健所の事務職員の皆様、盛岡市医師会事務局の皆様に感謝申し上げます、編集後記といたします。

久保 直彦

盛岡地区救急医療体制のあゆみ

2021

発行日 令和3年9月9日

発行者 盛岡市

盛岡市医師会

盛岡地区二次救急医療対策委員会

印刷所 (株) 杜陵印刷